

山 梨 県 北 杜 市

寺所第2遺跡II(古代・中近世編)

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

北 杜 市 教 育 委 員 会

山 梨 県 北 杜 市

寺所第2遺跡II(古代・中近世編)

県営団場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

北杜市教育委員会

例　　言

- 1 本書は平成7年度に実施した県宮闈場整備事業西井出下第8工区施工に伴う寺所第2遺跡の発掘調査報告書 古代・中近世編である。
- 2 当該遺跡に係る調査経過、周辺環境については前報告 北杜市教育委員会 2005『寺所第2遺跡I（石器編）』北杜市埋蔵文化財調査報告第8集 を参照願いたい。
- 3 本報告書の編集は廣瀬が担当した。
- 4 本調査の出土品、諸記録は北杜市埋蔵文化財センターに保管している。

凡　　例

- ・遺構の名称は調査時のものを原則的に使用している。
- ・遺構の略記号は以下のとおりとした。
住居跡—S B○○ 挖立柱建物跡—S T○○ 井戸—S E○○ 土坑—S K○○
また、前報告、調査経過において触れているが、調査区を小字により前田地区、清水地区、寺所地区に分け、それぞれ遺構番号を付して調査していることから、ここでもこれにならって遺構名称をM-S B○○等と表記して記述を進める。なお、住居跡内のピット番号は整理時に振り直したものである。
- ・遺構・遺物の縮尺は以下のとおりである。
住居跡—1/60、カマドその他の施設詳細図—1/30、土坑—1/30
遺物実測図—1/3、遺物写真—1/4、1/2（石製品）
上記以外の図面についてはその都度縮尺を表記してある。
- ・遺構平面図中の分布範囲は以下のように示した。

カマド、粘土　　焼土　　炭化物
- ・遺構平面図中の1点鎖線は床面の変調を示し、その内容については説明を入れた。
- ・遺物実測図中の断面網掛けは灰釉陶器を、断面黒塗りは須恵器であることを示している。また、土師器环の黒色処理は網掛けで表示した。
- ・文中では黒色処理された土師器を「信州系」という語で一括して表現する場合があるが、ここでは「甲斐型」に対する語として便宜的に使用するものである。
- ・土層注記の色調は黒味の強いものから黒色→黒褐色→暗褐色→褐色→暗黄褐色→黄褐色を用いた。
- ・遺物観察表中の土器の色調は「新版標準土色帖」1998年版（農林水産省農林水産技術会議事務局他監修）を使用した。
- ・遺構の時期比定は山梨県史編年（山下孝司・瀬田正明 1999『山梨県史』資料編2 第2章山梨県の考古学編年 5奈良・平安時代の編年）に準じた。
- ・その他のものは必要に応じてその都度表記しておいた。

目 次

例 言

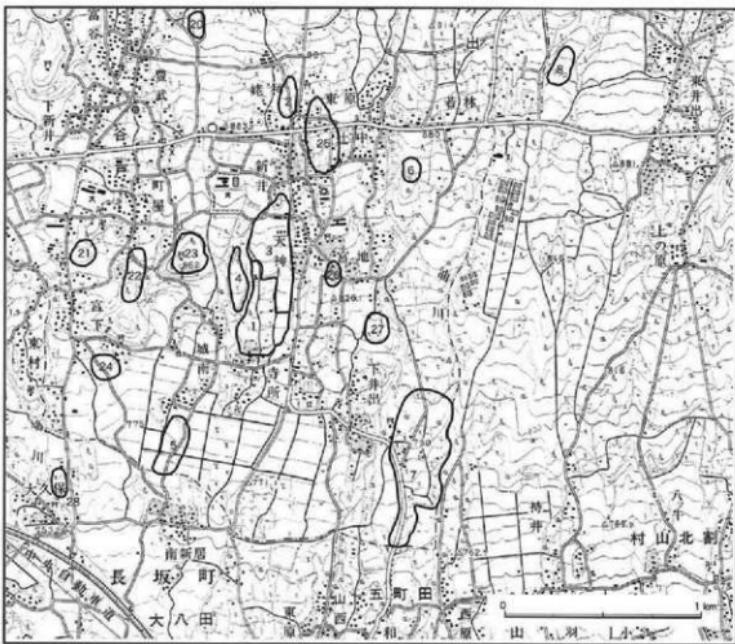
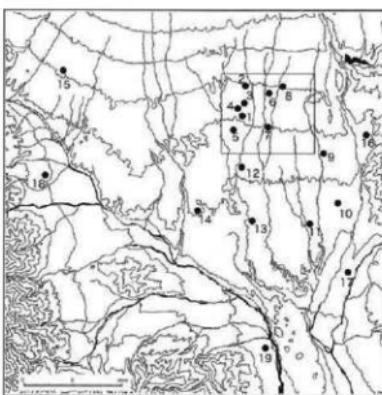
凡 例

目 次

I 周知の遺跡の範囲と調査の履歴	1
II 平安時代の遺構と遺物	7
1) 前出地区	1
2) 清水地区	11
3) 寺所地区	15
III 中近世の遺構と遺物	90
IV 結 語	94
写真図版	

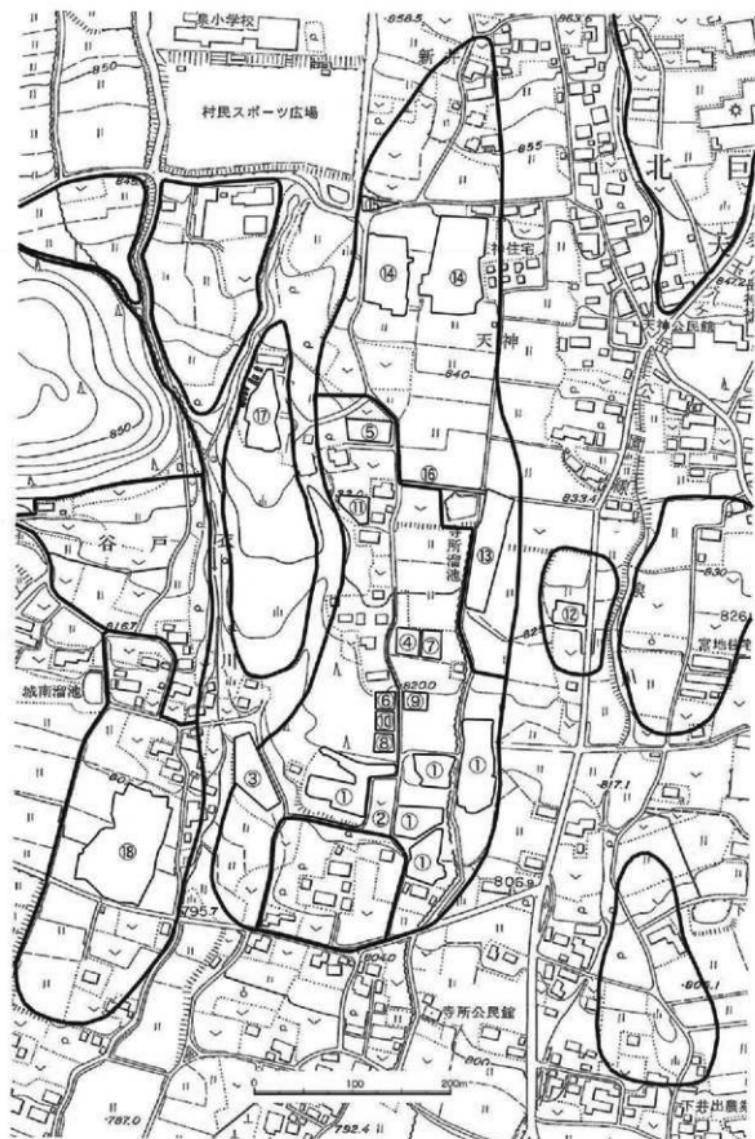
I 周知の遺跡の範囲と調査の履歴

- 以下に現在までの寺所第2遺跡周辺の調査履歴を示す。なお、ここに記載する番号は第2圖に対照する。
- ①寺所第2遺跡第1地点：県営圃場整備事業に伴う発掘調査。平成7年4月から平成8年3月実施。当該報告遺跡。
 - ②同 第2地点：特定環境保全公共下水道事業管渠敷設工事に伴う発掘調査。調査面積325m²。平成8年9～10月調査。縄文時代前期初頭住居跡1軒を調査したほか、縄文時代前期後葉包含層、縄文時代中期中葉の住居跡1軒を確認。
 - ③同 第3地点：住宅建設、分譲に伴う試掘調査。台地下部の沖積面。調査区西部において東衣川との比高差はほとんどない。調査対象面積241m²。遺構検出なし。縄文時代中期の遺物少量検出。平成11年6月調査。
 - ④同 第4地点：個人住宅建設に伴う発掘調査。調査面積77m²。縄文時代中期初頭～後葉の遺物、土坑16基検出。平成11年8月調査。
 - ⑤同 第5地点：店舗兼住宅建設に伴う発掘調査。天神遺跡C区環状集落と寺所第2遺跡第1地点を中心とした環状集落の中間点近くに位置する。調査面積960m²。平成13年4～5月調査。縄文時代前期後葉住居跡1軒、同中期中葉住居跡8軒等を調査。
 - ⑥同 第6地点：個人住宅建設に伴う発掘調査。調査面積120m²。土坑2基調査。縄文時代中期遺物を多量に検出。平成15年3～4月調査。
 - ⑦同 第7地点：個人住宅建設に伴う発掘調査。調査面積150m²。縄文時代中期中葉の住居跡1軒、平安時代住居跡2軒、土坑3基を調査。平成15年4～5月調査。
 - ⑧同 第8地点：個人住宅建設に伴う発掘調査。調査面積150m²。縄文時代中期後葉の住居跡1軒、土坑9基を調査。平成15年6～8月調査。
 - ⑨同 第9地点：個人住宅建設に伴う発掘調査。調査面積115m²。土坑2基を調査。縄文時代中期中葉の遺物多量に検出。平成16年1月調査。
 - ⑩同 第10地点：個人住宅建設に伴う発掘調査。調査面積150m²。縄文時代中期中葉住居跡1軒、平安時代住居跡1軒、土坑2基を調査。平成16年3月～8月調査。
 - ⑪山崎遺跡：昭和54年に山梨県史学研究会により寺所第2遺跡第5地点南西の斜面部が調査され、縄文時代中期中葉の住居跡3軒、同時期土坑1基、同中期後葉土坑1基が調査されている。
 - ⑫天神遺跡A区：県営圃場整備事業に伴い昭和57年に調査され、縄文時代中期後葉の住居跡5軒、土坑3基、埋甕5基、平安時代住居跡1軒が調査されている。天神遺跡B区としたものとは沖積面を挟んで対岸の尾根上の立地となり、遺構の空白部が存在するが寺所第2遺跡第1地点の調査で沖積面上に平安時代の集落が立地し、少なくとも平安時代の集落としては天神遺跡B区、寺所第2遺跡と一体のものであったと推定される。
 - ⑬天神遺跡B区：県営圃場整備事業に伴い昭和57年に調査され、縄文時代中期初頭の住居跡3軒、平安時代の住居跡4軒、土坑13基が調査されている。寺所第2遺跡に接続する部分での成果だけに集落の展開を考える上で重要な位置となる。
 - ⑭天神遺跡C区：県営圃場整備事業に伴い昭和57年に調査され、縄文時代前期後葉の住居跡49軒、土坑488基、同中期初頭住居跡9軒、平安時代住居跡3軒が調査されている。縄文時代の集落跡は中央に基坑



- 1 寺所第2道路 2 犬神道路 3 天神道路 4 山崎第4道路 5 金生道路 6 吉林第4道路 7 幸ヶ原道路 8 石堂B道路 9 社口道路
 10 海道前道路 11 藏原宮の前道路 12 柳坪道路 13 原町農業高校道路 14 酒呑場道路 15 中原道路 16 御所前道路 17 寺前道路
 18 上小川道路 19 石之坪道路 20 方城第1道路 21 谷戸氏郷路 22 御所道路 23 城山道路 24 豆生田第3道路 25 中村道路
 26 宮地第2道路 27 宮地第3道路 28 別当道路

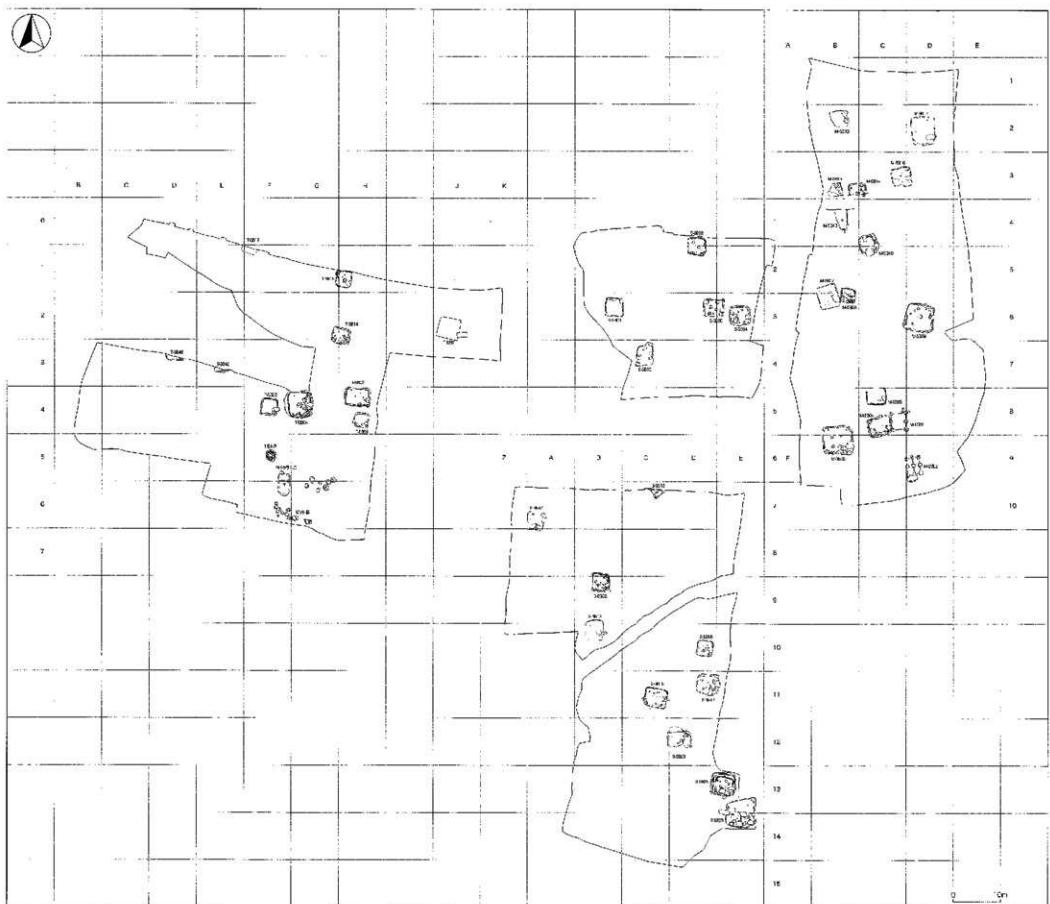
第1図 周辺の遺跡と地形の分布



第2図 周辺の遺跡の範囲と調査の履歴 (S=1/5000)

を伴った環状集落を構成するものと考えられる。

- ⑮同 第2地点：平成5年4～5月にはこの北側で大泉村民（現北杜市大泉）スポーツ広場拡張に伴い約300mが調査され、縄文時代前期後葉の住居跡5軒、土坑60基余りが調査されている
- ⑯同 第3地点：平成17年1月、道路拡幅に伴う立ち合い調査。遺構、遺物ともに出土無し。
- ⑰山崎第4遺跡：平成元年、4年に大泉村宮山崎住宅建設に伴い2,269m²を発掘調査。
- ⑱城下遺跡：県営調査整備事業に伴い昭和56年に約8,000m²が調査され、縄文時代中期後葉の上坑2基、平安時代の住居跡26軒、平安時代～中世の掘立柱建物跡10棟、平安時代以降の溝跡5条、近世の上坑墓2基が調査されている。特に12～13世紀に比定される船底陶磁器の出土は北接する方形居館、近接する史跡谷戸城跡との関係を考える上で重要となる。



第3図 駐跡全体図 ($S = 1/800$)

II 平安時代の遺構と遺物

1) 前田地区

M-S B 0 3

位置 B-8・9 グリッドに位置している。 形態 略正方形。 規模 長軸 6.60m、短軸 6.12m を測る。 壁高は 20cm～最大 50cm を測る。 主軸 N-90°-E。 床面 水平に構築される。 周溝 北東コーナーから南西コーナー。 カマド 住居東辺中央に構築される。 時間差を持って改修されるが、北側のものが新しい。 掘り方の規模は旧カマドが 184×81cm、新カマドが 145×89cm を測る。 ピット 12 基検出されている。 Pit1～Pit8 までは柱穴になると思われる。 中でも Pit1～3、6 は主柱穴で、Pit4、5 はその位置から人口施設に係るものと想定される。 当地域では西側に入り口をもつものが倒的に多數であるが、この住居跡は南入りの竪穴であったと推定され、いわゆる大型竪穴であるうえに、上屋構造も特異なものとなることから注目される。 その他の施設 カマドに南接して Pit9、南西側に Pit10 が検出された。 遺物出土状況 カマド南の Pit9 周辺と住居中央部に集中する。 西側と南側に焼土が見られる。 遺物 食器類 甲斐型壺 1,918g、内黒壺 2,110g、須恵器壺 135g、灰釉壇 43g。 煮炊具 甲斐型壺 4,092g、17 呉 17 壺 89g。 須恵器壺 2,955g、灰釉瓶子類 15g。 時期 V 期。

M-S B 0 4

位置 C-8・9 グリッドに位置している。 形態 兩丸長方形。 規模 長軸 5.04m、短軸 4.42m を測る。 壁高は 9～20cm を測る。 覆土 確認面から最大で 26cm を測る。 壁際には一部三角堆積が見られるが中央部分は単層。 主軸 N-70°-E。 床面 水平に構築される。 周溝 住居北辺中央から南西コーナーまで巡る。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 掘り方の規模は 104×97cm を測る。 袖部分の粘土と焼土、構築材の石の一部と支脚が残存している。 ピット 5 基検出されている。 Pit2、Pit5 が柱穴の可能性がある。 その他の施設 Pit4 はカマド周辺貯蔵穴状の施設と考えられる。 遺物出土状況 カマドと Pit4 の周辺からまとめて出土している。 カマド内と住居北辺東寄りからそれぞれ手縫が 1 点ずつ、Pit3 と西側壁の間から鐵錐 1 点が出土した。 遺物 食器類 甲斐型壺 246g、内黒壺 1,126g、灰釉壇 11g。 煮炊具 甲斐型壺 3,104g、ロクロ壺 256g。 須恵器壺 386g。 時期 V 期。

M-S B 0 5

位置 C-8 グリッドに位置している。 形態 略方形か。 規模 長軸 4.16m、残存短軸 3.46m を測る。 壁高は 4cm を測る。 主軸 N-90°-E。 床面 水平に構築される。 周溝 カマドの北側と南西コーナー付近で断続する以外は残存部分に全周する。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 掘り方の規模は 108×91cm を測る。 ピット 検出されていない。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 カマドからまとめて出土している。 また、カマド掘方から石製持帶 1 点が出土。 遺物 食器類 甲斐型壺 95g、内黒壺 26g。 煮炊具 甲斐型壺 997g。 須恵器瓶子類 72g。 時期 VI 期。

M-S B 0 7

位置 B-5・6 グリッドに位置している。 形態 開丸長方形。 規模 長軸 5.13m、短軸 4.41m を測る、南北方向に長軸を取る。壁高は 15 ~ 26cm を測る。 覆土 確認面から最大で 33cm を測る。 ゆるやかな三角堆積と思われる。 主軸 N-78° - E。 床面 ほぼ水平に構築される。 周溝 なし。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 挖り方の規模は 188×147cm を測る。 ピット 検出されていない。
その他の施設 住居北東コーナー付近、南側、西側に硬化面が見られる。 遺物出土状況 カマドからまとまって出土している。 遺物 食膳具 甲斐型壺 625 g、内黒壺 264 g、須恵器壺 81 g、灰釉壺 14 g。 煮炊具 甲斐型甕 1,780 g、須恵器甕 79 g、灰釉甕子類 31 g。 時期 V~VI期。

M-S B 0 8

位置 B-5・6 グリッドに位置している。 形態 開丸方形。 規模 長軸 3.12m、短軸 3.09m を測る。 壁高は 8 ~ 20cm を測る。 覆土 確認面から最大で 23cm を測る。 壁際には一部三角堆積が見られるが水平堆積。 主軸 N-98° - E。 床面 水平に構築される。 周溝 住居南西コーナーから北辺途中までと北東コーナーに巡る。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 挖り方の規模は 114×100cm を測る。 構築材の石の一部と支脚が残存している。 ピット 5 基検出されている。 Pit2 は柱穴の可能性がある。
その他の施設 Pit3、Pit4 はカマド周辺貯蔵穴状の施設と考えられる。 遺物出土状況 カマドの周辺からまとまって出土している。 床面中央から人頭大の礫が比較的集中して出土。 カマド構築材が良好に残されていることから構築材以外の旧地表面から覆土中への流れ込みか。 遺物 食膳具 甲斐型壺 815 g、内黒壺 185 g、内外黒壺 67 g、灰釉壺 6 g。 煮炊具 甲斐型甕 446 g、ロクロ甕 61 g、須恵器甕 10 g、灰釉甕子類 10 g。 時期 VI期。

M-S B 0 9

位置 C-D-6 グリッドに位置している。 形態 不整開丸方形。 規模 長軸 6.67m、短軸 6.03m を測る。 壁高は 24 ~ 30cm を測る。 覆土 確認面から最大で 32cm を測る。 壁際には一部三角堆積が見られるが中央部分は單一層。 主軸 N-10° - E。 床面 平板だが東側にわずかに傾斜して構築される。 南側は一段高くなっている。 周溝 住居北西コーナー付近以外は全周する。 カマド 住居北西コーナーに構築される。 挖り方の規模は 132×68cm を測る。 構築材の石の一部が残存している。 開カマド。 ピット 6 基検出されている。 その他の施設 Pit2、Pit5 が柱穴の可能性がある。 遺物出土状況 少量が散漫な出土状況を示す。 焼土も 5ヶ所に点在している。 遺物 食膳具 甲斐型壺 278 g、内黒壺 32 g。 煮炊具 甲斐型甕 8 g、須恵器甕 85 g。 時期 IX期。

M-S B 1 0

位置 C-4・5 グリッドに位置している。 形態 開丸方形。 規模 長軸 4.16m、残存短軸 3.46m を測る。 壁高は 14cm を測る。 主軸 N-77° - E。 床面 ほぼ平坦に構築される。 周溝 カマドから北東コーナーと南西コーナー付近で断続する以外は残存部分に全周する。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 挖り方の規模は 108×87cm を測る。 支石など構築材の石の一部と支脚が残存している。 ピット 1 基検出されている。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 最大で 100cm 程の地山の石が住居内に多く見られる。 遺物はほとんど出土していない。 遺物 食膳具 甲斐型壺 159 g、内黒壺 19 g、灰釉壺 21 g。

煮炊具 甲斐型甕 104 g、ロクロ甕 8 g。須恵器甕 70 g、羽釜 28 g、置き甕 135 g。 時期 VI～VII期か。

M-SB1 3

位置 B-4 グリッドに位置し、北側を溝に切られている。 形態 略方形か。 規模 残存長軸 4.36m、残存短軸 2.67m を測る。壁高は 6cm を測る。 主軸 N 5° W か。 床面 水平に構築されるとと思われる。周溝 なし。 カマド 検出されていない。 ピット 検出されていない。 その他の施設 なし。 遺物 出土状況 山上遺物無し。 時期 不明。

M-SB1 4

位置 B・C-3 グリッドに位置し、南側を溝に切られている。 形態 割丸方形か。 規模 長軸 3.98m、残存短軸 2.94m を測る。壁高は 18 ~ 47cm を測る。 覆土 確認面から最大で 47cm を測る。壁際には三角堆積が見られる。 主軸 N-86° - E。 床面 水平に構築される。 周溝 なし。 カマド 住居東辺に構築される。掘り方の規模は 103 × 76cm を測る。構築材の石の一部が残存している。 ピット Pit1、Pit2 が柱穴の可能性がある。 その他の施設 Pit5 はカマド周辺貯蔵穴状の施設か。 遺物出土状況 カマドからまとまって出土している。 遺物 食膳具 甲斐型甕 138 g、内黒甕 190 g、須恵器甕 5 g。 煮炊具 甲斐型甕 748 g、ロクロ甕 4 g。 須恵器甕 601 g、灰釉瓶子類 27 g。 時期 V～VI期。

M-SB1 5

位置 B-3 グリッドに位置し、北側と南側を溝に切られている。 形態 不明。 規模 残存長軸 3.26m、残存短軸 2.79m を測る。壁高は 8 ~ 15cm を測る。 覆土 溝の覆土と思われる黒色土を除去中に確認したもので、覆土はほぼ削平されていたものと考えられる。 主軸 N-86° - E。 床面 平坦だが南側にわずかに傾斜して構築される。 周溝 残存部分の東辺のカマド以外に巡る。 カマド 住居東辺に構築される。掘り方の規模は 88 × 87cm を測る。構築材の石の一部と支脚が残存している。 ピット 2基検出されている。 その他の施設 カマド北西側に深さ 20cm 程度の Pit1、Pit2 が接して構築されている。 遺物出土状況 カマドとピットからわずかに出土している。 遺物 食膳具 甲斐型甕 60 g、内黒甕 367 g、須恵器甕 5 g。 煮炊具 甲斐型甕 496 g。 時期 VI～VII期か。

M-SB1 6

位置 C・D-3 グリッドに位置し、南側は流出している。 形態 割丸方形か。 規模 残存長軸 4.30m、短軸 4.20m を測る。壁高は 19 ~ 21cm を測る。 覆土 確認面から最大で 30cm を測る。壁際には三角堆積が見られるがほぼ水平堆積。 主軸 N-81° - E。 床面 水平に構築される。 周溝 なし。 カマド 住居東辺に構築される。掘り方の規模は 145 × 127cm を測る。構築材の石の一部が残存している。 ピット 検出されていない。 その他の施設 住居中央部分に便化面が見られる。 遺物出土状況 カマドからやまとまって出土しているが、全体に遺物の分布は散漫である。 遺物 食膳具 甲斐型甕 281 g、内黒甕 6 g、灰釉甕 120 g。 煮炊具 甲斐型甕 1,225 g。 須恵器甕 1,321 g、灰釉瓶子類 4 g。 時期 VI期。

M-SB1 7

位置 D-2 グリッドに位置している。 形態 不正長方形か。 規模 長軸 6.12m、短軸 5.38m を測る。

壁高は 22～30cm を測る。 覆土 確認面から最大で 31cm を測る。壁際にはわずかに三角堆積が見られるがほぼ水平堆積。黒色土巾で確認。 主軸 N 86° -E。 床面 平坦だが東南側に傾斜して構築される。 黒色土巾に構築され、硬化はほとんど認められなかった。 周溝 なし。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。掘り方の規模は 189 × 113cm を測る。構築材の石の一部が残存している。 ピット 検出されていない。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 カマド周辺からわずかに出土している。 遺物 食膳具 甲斐型壺 40 g、内巻壺 117 g、灰釉壺 5 g。 煮炊具 甲斐型甕 680 g。須恵器甕 30 g、灰釉瓶子類 11 g。 時期 VI～VII期か。

M-S B 18

位置 B-2 グリッドに位置し、西側を溝に切られ、西側は流出している。 形態 四丸方形か。 規模 残存長軸 3.80m、残存短軸 3.40m を測る。壁高は 22～30cm を測る。 覆土 確認面から最大で 31cm を測る。 岸際には三角堆積が見られるがほぼ水平堆積。 主軸 N-89° -E。 床面 平坦だが東南側に傾斜して構築される。 周溝 なし。 カマド 住居北東隅に構築される。 掘り方の規模は 110 × 101cm を測る。 構築材の石の一部が残存している。 ピット 2 基検出されている。 その他の施設 Pit1 はカマド周辺貯蔵穴状の施設と考えられる。 遺物出土状況 住居中央部から刀子が出上している。 遺物 食膳具 甲斐型壺 36 g。 煮炊具 甲斐型甕 3 g。須恵瓶子類 5 g。 時期 IX期か。

M-S T 01

位置 C・D-8 グリッドに位置する。 形態 2間 × 3間。 柱穴 9基検出されている。主柱穴は 6 基、周連するピットが 3 基と思われる。 規模 衍行 3.40m、梁行 3.04m を測る。柱穴間隔は Pit1 - Pit2 は 1.84m、Pit2 - Pit3 は 1.56m、Pit4 - Pit5 は 1.68m、Pit5 - Pit6 は 1.73m を測る。Pit1 は長軸 80cm、短軸 74cm、深さ 24cm、柱穴底面レベル 811.130m、Pit2 は長軸 70cm、短軸 70cm、深さ 22cm、柱穴底面レベル 811.130m、Pit3 は長軸 69cm、短軸 67cm、深さ 24cm、柱穴底面レベル 811.160m、Pit4 は長軸 93cm、短軸 90cm、深さ 22cm、柱穴底面レベル 811.170m、Pit5 は長軸 85cm、短軸 81cm、深さ 16cm、柱穴底面レベル 811.220m、Pit6 は長軸 78cm、短軸 70cm、深さ 30cm、柱穴底面レベル 811.110m、Pit7 は長軸 55cm、短軸 48cm、深さ 8cm、柱穴底面レベル 811.340m、Pit8 は長軸 54cm、短軸 46cm、Pit9 は長軸 40cm、短軸 32cm を測る。 覆土 確認面から最も深いピットで 30cm を測り、断面形状は皿状を呈す。 Pit1 ~ 6 では二重の掘方が明瞭に観察された。 主軸 N-0° -E。 その他の施設 Pit6 周辺に周連すると思われる小ピットが検出された。 遺物出土状況 出土していない。 遺物 食膳具 甲斐型壺 6 g、内巻壺 5 g。 煮炊具 甲斐型甕 46 g。 時期 不明。

M-S T 02

位置 C・D-9 グリッドに位置する。 形態 3間 × 3間。 柱穴 9基検出されている。 規模 衍行 3.42m、梁行 2.70m を測る。柱穴間隔は Pit1 - Pit4 は 1.54m、Pit4 - Pit7 は 1.90m、Pit2 - Pit5 は 1.70m、Pit5 - Pit8 は 1.76m、Pit3 - Pit6 は 1.62m、Pit6 - Pit9 は 1.70m を測る。Pit1 は長軸 77cm、短軸 (59) cm、深さ 9cm、柱穴底面レベル 811.750m、Pit2 は長軸 96cm、短軸 68cm、深さ 18cm、柱穴底面レベル 811.710m、Pit3 は長軸 88cm、短軸 74cm、深さ 30cm、柱穴底面レベル 811.720m、Pit4 は長軸 74cm、短軸 66cm、深さ 16cm、柱穴底面レベル 811.690m、Pit5 は長軸 86cm、短軸 72cm、深さ 22cm、柱穴底

面レベル 811.670m、Pit6 は長軸 82cm、短軸 74cm、深さ 20cm、柱穴底面レベル 811.680m、Pit7 は長軸 67cm、短軸 66cm、深さ 22cm、柱穴底面レベル 811.640m、Pit8 は長軸 66cm、短軸 50cm、深さ 17cm、柱穴底面レベル 811.580m、Pit9 は長軸 90cm、短軸 89cm、深さ 27cm、柱穴底面レベル 811.620m を測る。 覆土 確認面から最も深いピットで 30cm を測り、断面形状は皿状を呈す。断面の観察できた Pit4 ~ 9 の内、Pit5 以外では柱痕が明瞭に観察できた。 主軸 N-0° - E。 その他の施設 Pit7、Pit8 に接して浅い方形の掘り込みが検出された。 遺物出土状況 小破片が Pit 覆土中から散漫に出土。 遺物 食器具 甲斐型环 10 g。 煮炊具 甲斐型壺 35 g。 時期 不明。

2) 清水地区

S-S B 0 3

位置 D-1・2 グリッドに位置している。 形態 滑丸正方形。 規模 長軸 3.96m、短軸 3.86m を測る。壁高は 9 ~ 16cm を測り、壁は急斜に立ち上がる。 覆土 確認面から最大で 24cm を測る。 主軸 N-91° - E。 床面 水平に構築される。 周溝 コーナー付近で断続するものの、東辺中央部から南辺途中まで巡る。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 掘り方の規模は 108×71cm を測る。 ピット 5 基検出されている。 その他の施設 南東隅にカマド周辺貯蔵穴状の施設が見られる。上層に炭化物、焼土、礫が分布している。 遺物出土状況 カマド周辺と南西隅に出土している。 遺物 食器具 甲斐型环 246 g、内黒环 10 g、須恵器环 8 g、灰陶塊 301 g。 煮炊具 甲斐型壺 1,240 g、ロクロ壺 803 g。 須恵器壺 371 g。 時期 VI期。

S-S B 0 4

位置 E-3 グリッドに位置している。 形態 滑丸正方形。 規模 長軸 4.56m、短軸 4.30m を測る。 壁高は 48 ~ 55cm を測る。 覆土 確認面から最大で 60cm を測る。 ゆるやかな三角形堆積が見られるが中央部分は水平堆積。 主軸 N-92° - E。 床面 平坦だが両側にわずかに傾斜して構築される。 周溝 住居北東コーナー部分から西辺まで巡る。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 掘り方の規模は 121×93cm を測る。 構築材の石と支脚が残存している。 ピット 7 基検出されている。 その他の施設なし。 遺物出土状況 カマド内と Pit5 付近にややまとまって出土している。 遺物 食器具 甲斐型环 430 g、内黒环 1,202 g、内黒鉢 492 g、須恵器环 9 g、灰陶塊 189 g。 煮炊具 甲斐型壺 3197 g、ロクロ壺 32 g。 須恵器壺 196 g、灰釉瓶子瓶 26 g。 時期 VI期。

S-S B 0 5

位置 D-E-3 グリッドに位置している。 形態 四丸方形。 規模 長軸 4.66m、短軸 3.90m を測る。 壁高は 19 ~ 23cm を測り、壁は急斜に立ち上がる。 覆土 確認面から最大で 51cm を測る。 壁際に一部三角形堆積が見られる他は水平堆積。 主軸 N-88° - E。 床面 水平に構築される。 周溝 住居東辺から南辺の途中まで巡るが、北西コーナーの Pit1 部分は断続する。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。 掘り方の規模は 120×94cm を測る。 支脚、構築材の被石が残存し、袖石の下層には両側とも新土が見られる。 ピット 4 基検出されている。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 カマド内と住居南東部分にややか

たよった出土状況を示す。 遺物 食膳具 甲斐型壺 102 g、内黒壺 51 g、須恵器壺 10 g、灰釉壺 77 g、煮炊具 甲斐型壺 2,134 g、須恵瓶子類 191 g。 時期 VI期か。

S-SB09

位置 B-3 グリッドに位置している。 形態 やや不整な正方形。 規模 長軸 3.92m、短軸 3.80m を測る。壁高は 19 ~ 23cm を測り、壁は急斜に立ち上がる。 覆土 壁溝の覆土しか残されていない。 主軸 N-90° -E。 床面 水平に構築されると思われる。 周溝 住居南西隅、南東隅で断続する。北辺部分は最大60cmほどで船が広くなっている。 カマド 住居北東隅に構築される。掘り方の規模は 108×77cm を測る。構築材等は見られない。 ピット 検出されなかった。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 主にカマド内からわずかに出土している。 遺物 食膳具 甲斐型壺 45 g。 煮炊具 甲斐型壺 86 g。 時期 不明。

S-SB10

位置 C-4 グリッドに位置している。 形態 不整方形。 規模 残存長軸 4.81m、短軸 3.44m を測る。 覆土 覆土は確認できず、カマドや周溝等の施設から住居跡として認識した。 主軸 N-90° -E。 床面 やや凹凸があるものには水平に構築されると思われる。 周溝 北西コーナーおよび東辺北寄りの部分のみ周溝状の溝が認められる。 カマド 住居東辺中央部に構築される。掘り方の規模は 163×78cm を測る。構築材と思われる石と焼土が検出された。 ピット 北東隅と南西隅に柱穴が検出された。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 最大 1m 程の礫が散漫に分布する。 遺物 食膳具 甲斐型壺 44 g、灰釉壺 9 g。 煮炊具 甲斐型壺 119 g。 時期 不明。

S-SB12

位置 C-6・7 グリッドに位置している。 形態 北側大半は調査区外であるが方形か。 規模 残存長軸 2.37m、残存短軸 1.90m を測る。壁高は 9 ~ 11cm を測る。 覆土 覆土面から最大で 15cm を測る。 主軸 不明。 床面 ほぼ水平に構築されると思われる。 周溝 なし。 カマド 検出されなかった。 ピット 1基検出されている。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 調査区端付近からわずかに出土している。 遺物 食膳具 甲斐型壺 21 g、内黒壺 136 g。 煮炊具 甲斐型壺 81 g。 時期 VI~VII期。

S-SB13

位置 B-9・10 グリッドに位置している。 形態 西側と南側に擾乱を受けているが四角形か。 規模 残存長軸 4.3m、残存短軸 3.93m を測る。壁高は 2 ~ 9cm を測る。 覆土 擅乱による南平のためほとんど覆土は残されていない。 主軸 N-91° -E。 床面 水平に構築されると思われる。北側に硬質部が検出された。 周溝 なし。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。掘り方の規模は 88×78cm を測る。 擅乱により中央部分しか残されていないが、焼土が検出された。 ピット 検出されていない。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 カマド内と住居北西側からわずかに出土している。 遺物 食膳具 甲斐型壺 215 g、内黒壺 175 g、灰釉壺 6 g。 煮炊具 甲斐型壺 355 g、ロクロ壺 20 g。 時期 VI期。

S-SB16

位置 D-10 グリッドに位置している。 形態 四丸正方形。 規模 長軸 3.41m、短軸 3.30m を測る。

壁高は9～14cmを測る。覆土 確認面から最大で15cmを測る。壁際に一部二角堆積が見られる。主軸 N-91°-E。床面 ほぼ水平に構築される。周溝なし。カマド 住居東辺南寄りに構築される。掘り方の規模は85×68cmを測る。焼成材等はほとんど残されていないが焼土が検出された。ピット2基検出されている。その他の施設なし。遺物出土状況 住居東側から散漫に出土している。遺物 食器具 甲斐型壺131g、内黒壺146g、灰釉壺7g。煮炊具 甲斐型壺279g、須恵器壺476g。

時期 VI期か。

S-SB17

位置 D-E 11グリッドに位置している。形態 不整形。規模 長軸5.00m、短軸4.38mを測る。壁高は15～17cmを測る。覆土 確認面から最大で20cmを測る。一部に三角堆積が見られるがほぼ単一層である。主軸 N 78°-E。床面 ほぼ水平に構築される。周溝なし。カマド 住居東辺中央部に構築される。掘り方の規模は139×127cmを測る。周辺にも構築の石が一部残されている。ピット 検出されなかった。その他の施設なし。遺物出土状況 住居南側から散漫に分布する。遺物 食器具 甲斐型壺91g、灰釉壺122g。時期 VI期。

S-SB19

位置 C-11グリッドに位置している。形態 圓丸長方形。規模 長軸4.89m、短軸4.02mを測る。壁高は10～16cmを測る。覆土 確認面から最大で21cmを測る。一部に三角堆積が見られるがほぼ単一層である。主軸 N-100°-E。床面 ほぼ水平に構築される。周溝 北東コーナーおよび北西コーナーから西辺部分にのみ周溝状の溝が認められる。南西隅は最大77cmほどに幅が広くなっている。カマド 住居東辺南寄りに構築される。掘り方の規模は93×87cmを測る。構築材の石の一部と支脚が残存している。ピット5基検出されている。その他の施設なし。遺物出土状況 南東部分から散漫な出土状況を示す。遺物 食器具 甲斐型壺215g、内黒壺9g。煮炊具 甲斐型壺572g、ロクロ壺23g。

時期 V～VI期。

S-SB23

位置 C-D-12グリッドに位置している。形態 南側を欠失するが圓丸方形か。規模 残存長軸4.69m、短軸5.06mを測る。壁高は18～24cmを測る。覆土 確認面から最大で30cmを測る。壁際に一部三角堆積が見られる他は水平堆積。主軸 N-8°-E。床面 ほぼ水平に構築される。周溝なし。カマド 検出されなかった。ピット3基検出されている。その他の施設 床面中央に明瞭な立ち上がりを持つ長方形プランのPit3が穿たれている。遺物出土状況 住居東側からわずかに出土している。遺物 食器具 甲斐型壺89g、内黒壺29g、灰釉壺25g。煮炊具 甲斐型壺181g、須恵器壺211g、灰釉壺81g、須恵器壺19g。時期 VII期。

S-SB25

位置 D-E-13グリッドに位置している。形態 時間差を持って拡張された住居跡で、平面形態はともに圓丸正方形。規模 旧住居は短軸3.85、長軸3.90ほどを図り、新住居は長軸5.55m、短軸5.10mを測る。壁高は26～35cmを測る。旧住居は新住居のプランの中に納まる。覆土 確認面から最大で43cm

を測る。壁際に三角堆積が見られるが中央部分は水平堆積。 主軸 N-96°-E。 床面 平坦だが中央より南側が低くなっている。 周溝 新・旧住居共に周溝が巡り、いずれも東辺中央から西辺まで巡り、新住居は北西隅が、旧住居は西辺中央で断続する。 カマド 新・旧住居共に東辺やや南寄りに構築される。掘り方の規模は新住居は 140×69cm で旧住居カマド掘方を一部破壊し、旧住居は 64×53cm を測る。新住居カマドでは構築材の石の一部が残存し、焼土が検出され、旧住居カマドでも焼土が検出された。 ピット 9 基検出されている。 Pit5、6 を新住居の入口施設に係るものとすると、M-SB03 同様南入りの竪穴ということになる。 その他の施設 西辺壁際中央部に小さく張り出し部が見られる。北辺は壁が一部周溝より張り出している。また、新・旧どちらの住居に帰属するか不明であるが、床面中央に地床が状の焼土が検出されているが、周辺他遺跡にも同様の事例が見られる。 遺物出土状況 カマド周辺の東側にやや多く分布する。 遺物 食膳具 甲斐型壺 534 g、内黒坏 770 g、灰釉塊 57 g。 煮炊具 甲斐型壺 2,671 g、ロクロ壺 268 g。須恵器壺 93 g、転用瓶 185 g。 時期 VI期。

S-SB26

位置 E-13・14 グリッドに位置している。 形態 不整形。 規模 長軸 6.18m、短軸 6.00m を測る。壁高は 9 ~ 26cm を測る。 覆土 碓礎面から最大で 25cm を測る。ゆるやかな三角堆積。 主軸 N-90°-E。 床面 ほぼ水平に構築される。 周溝 なし。 カマド 住居東辺中央に構築される。掘り方の規模は 71×68cm を測る。構築材の石の一部が残存し、焼土が検出された。 ピット 13 基検出されている。 その他の施設 住居の南東部分約 1/4 ほどが一段低くなり、カマドと Pit6 ~ Pit11 もその内部に含まれる。何らかの機能空間であったのだろうか。また、床面中央部に 2 カ所、地床が状の焼土が検出されている。 遺物出土状況 ごく少量が全体に散漫な出土状況を示す。 遺物 食膳具 甲斐型壺 29 g、内黒坏 64 g、灰釉塊 30 g。 煮炊具 甲斐型壺 41 g、ロクロ壺 10 g。須恵器壺 116 g、灰釉直子類 15 g。

時期 VI期か。

S-SB32

位置 B-8・9 グリッドに位置している。 形態 四丸正方形。 規模 長軸 3.91m、短軸 3.82m を測る。壁高は 23 ~ 38cm を測り、壁は急斜に立ち上がる。 覆土 碓礎面から最大で 54cm を測る。壁際はゆるやかな三角堆積だが中央部は水平堆積。 主軸 N-94°-E。 床面 ほぼ水平に構築される。中央部と北東側、壁際を除く部分に硬化面が見られる。 周溝 住居南辺中央部から東辺中央部に連続する。 カマド 住居東辺やや南寄りに構築される。掘り方の規模は 99×72cm を測る。構築材の石の一部と支脚が残存し、焼土が検出された。 ピット 3 基検出されている。 その他の施設 Pit3 は貯蔵穴状の施設であろう。 遺物出土状況 ごく少量が全体に散漫な出土状況を示す。東側と南側に焼土が見られる。 遺物 食膳具 甲斐型壺 50 g、内黒坏 355 g、灰釉塊 11 g。 煮炊具 甲斐型壺 801 g、ロクロ壺 299 g。須恵器壺 823 g、灰釉壺 65 g。 時期 V期か。

S-SB37

位置 Z-A 7・8 グリッドに位置している。 形態 略正方形か。 規模 残存長軸 3.76m、残存短軸 3.36m を測る。壁高は 5 ~ 8cm を測る。 覆土 覆土は擾乱によりほとんど残されていない。 主軸 N-90°-E。 床面 水平に構築される。住居西側中央と南側中央に硬化面が見られる。 周溝 なし。 カ

マド 住居東辺中央に構築される。掘り方の規模は 47×42cm を測る。焼土が検出された。 ピット 1基 検出されている。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 主に住居南側に分布する。焼上ブロックが4ヶ所に見られる。 遺物 食器具 甲斐型壺 29 g、内黒壺 94 g、灰釉壺 49 g。 煮炊具 甲斐型甕 86 g。 時期 VII期か。

3) 寺所地区

T-SB01

位置 J-2 グリッドに位置している。工事による影響がないと判断し、上面確認のみに留めた。

T-SB02

位置 H-1 グリッドに位置している。 形態 四角長方形。 規模 長軸 5.55m、短軸 4.09m を測る。 壁高は 20 ~ 25cm を測る。 覆土 確認面から最大で 28cm を測る。壁際に一部三角堆積が見られる他は水平堆積。 主軸 N-92° - E。 床面 平坦だが南側にわずかに傾斜して構築される。 周溝 住居南東コーナー部分で所絶するものの、ほぼ全周する。 カマド 住居東辺向寄りに構築される。 掘り方の規模は 99×98cm を測る。 ピット 2基検出されている。 その他の施設 住居西辺の周溝に沿う形で Pit1 が、住居南東コーナーの周溝が途切れる部分に Pit1、Pit3 が構築されている。 Pit4 は入口施設に関わるものであろうか。 遺物出土状況 カマド周辺と南西隅からややまとまって出土しているが、全体には散漫な出土状況を示す。 遺物 食器具 甲斐型壺 2 g、内黒壺 51 g。 煮炊具 甲斐型甕 550 g、ロクロ甕 130 g。 時期 IV期か。

T-SB03

位置 H-4 グリッドに位置している。 形態 不規方形。 規模 長軸 3.33m、短軸 3.18m を測る。 壁高は 10 ~ 19cm を測る。 覆土 確認面から最大で 30cm を測る。 壁際に三角堆積が見られる他は水平堆積。 主軸 N-90° - E。 床面 平坦だが南側にわずかに傾斜して構築される。 周溝 なし。 カマド 住居東辺やや南寄りに構築される。 掘り方の規模は 77×75cm を測る。 石組みの構築材と支脚が残されている。 ピット 2基検出されている。 その他の施設 住居西辺南側に張出し部が見られる。 床面より 17cm 高くなっている。 遺物出土状況 ほとんどが住居中央から南半にかけて出土し、土器はカマド周辺から出土している。また、住居中央部から人頭人の甕がまとまって検出されている。カマドの構築材は良好に残されたうえで甕がまとめて出土している状況は M-SB08 と同様な状況であり、住居規模的にも同等の規模であることから共通した事由による所産、例えば上層構造に係るものや生業に係るものなどが想定されようか。 遺物 食器具 甲斐型壺 85 g、内黒壺 805 g。 煮炊具 甲斐型甕 596 g、ロクロ甕 21 g。 時期 VI期。

T-SB04

位置 F・G-4 グリッドに位置している。 形態 四角正方形と思われるが、住居西側は周溝の外側に最大 66cm ほどやや弧状に張り出している。 規模 長軸 6.18m、短軸 5.92m を測る。 壁高は 6 ~ 17cm を測る。 覆土 確認面から最大で 54cm を測る。 壁際に三角堆積が見られる他はほぼ水平堆積。 2ヶ所に焼上ブロック

クが見られる。 主軸 N-92°-E。 床面 住居中央から南側部分がやや低くなっている。 周溝 住居北東・南東コーナー部分および南辺で断続するものの、ほぼ全周するが、西側は壁から最大66cmほど内側に壁の形状と比べると直線的に作られている。 カマド 住居東辺のほぼ中央に構築される。掘り方の規模は 144×92cm を測る。構築材の石が一部残されている。 ピット 14基検出されている。 その他の施設 Pit1～Pit8 はカマドを開むように、Pit10～Pit13 は南辺に平行して構築されている。高溝がこのPit10～13 の縦りで途切れていることを併せて考えると、明確な根拠とはしがたいものの入口施設に関わるもの可能性を指摘しておきたい。仮に入口施設に係るものとすると、南入りの入罪住居としてM-SB03、S-SB25 と同様の構造が想定できようか。 遺物出土状況 カマド内と南東付近からやまとまって出土している。 遺物 食器類 甲斐型壺 859 g、内黒壺 298 g、灰釉壺 105 g。 煎炊具 甲斐型壺 722 g、ロクロ壺 6 g。不明煮炊具 305 g、須恵瓶類 438 g。 時期 VI～VII期。

T-SB14

位置 G・H-2・3グリッドに位置している。 形態 圓丸正方形。 規模 長軸 4.03m、短軸 3.51m を測る。壁高は 14～21cm を測る。 覆土 確認面から最大で 26cm を測る。壁際に三角堆積が見られる他はほぼ水平堆積。 主軸 N-100°-E。 床面 水平に構築される。 周溝 住居北辺および北東コーナー部分から東辺にかけてと南辺の一部に周溝状の溝が見られる。 カマド 住居東辺南寄りに構築される。掘り方の規模は 114×104cm を測る。構築材の石の一部と支脚が残されている。 ピット 3基検出されている。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 住居中央から南半にかけて散漫な出土状況を示すが、カマド周辺に比較的集中が見られる。 遺物 食器類 甲斐型壺 396 g、内黒壺 523 g、灰釉壺 320 g。 煎炊具 甲斐型壺 604 g。武藏壺 54 g。 時期 VI期。

T-SB15

位置 G-II-1グリッドに位置している。 形態 圓丸正方形。 規模 長軸 3.56m、短軸 3.5m を測る。壁高は 9～14cm を測る。 覆土 確認面から最大で 20cm を測る。住居東側から流入によると思われる堆積が見られる他はほぼ水平堆積。 主軸 N-96°-E。 床面 ほぼ水平に構築されるが、中央部が若干深くなる。 周溝 住居西辺中央で一度途切れるが、東辺北側から南辺西側にかけて見られる。西辺北側部分のみ 2重になっている。 カマド 住居東辺やや南寄りに構築される。規模は 75×59cm を測る。擾乱のため南側が削られている。 その他の施設 住居中央に 75×59cm 深さ 20cm を測るPit1 が検出された。 遺物出土状況 カマドと Pit1 より出土している。 遺物 食器類 甲斐型壺 228 g、内黒壺 86 g。 煎炊具 甲斐型壺 355 g。不明煮炊具 115 g、灰釉壺 70 g、羽釜 220 g。 時期 VI～VII期。

T-SB17

位置 F-1グリッドに位置している。 形態 調査区壁際のセクションでのみ確認されたため不明。 規模 不明。北側大半は調査区外と思われる。壁高は 15cm を測る、残存部分ではゆるやかに立ち上がる。 覆土 覆蓋面から最大で 16cm を測る。上層が削平された可能性もあるが、黒色の單一層。 主軸 不明。 床面 ほぼ水平に構築されるか。 周溝 検出されなかった。 カマド 住居東辺に構築されると思われる。 ピット 検出されなかった。 その他の施設 検出されなかった。 遺物出土状況 不明。 時期 不明。

T-SB 22

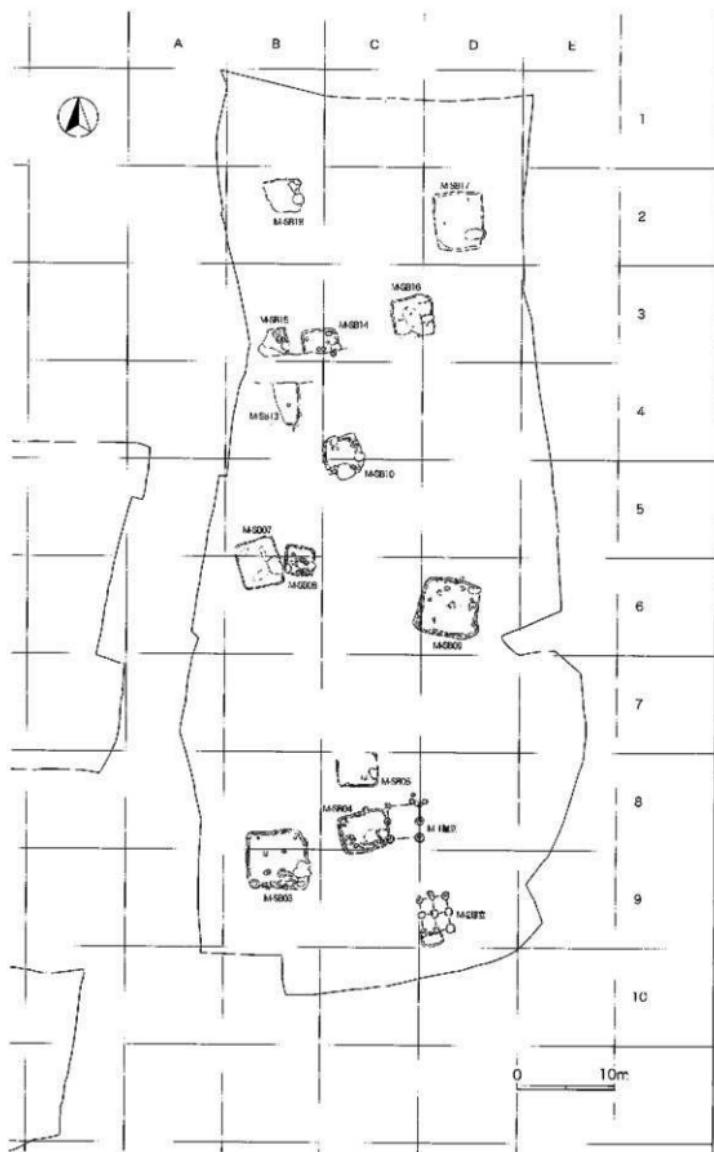
位置 F-4 グリッドに位置する。 形態 略正方形。 規模 長軸 4.07m、短軸 3.77m を測る。壁高は 23 ~ 37cm を測る。 覆土 確認面から最大で 48cm を測る。壁際に一部三角堆積が見られる他は水平堆積。 主軸 N-99° E。 床面 水平に構築される。 周溝 住居東辺の一部を除いて全周する。南辺は壁際より最大 27cm ほど内側に作られている。 力マド 住居東辺やや南寄りに構築される。規模は 116 × 99cm を測る。社石が一部残されている。 その他の施設 カマドの焚き口部に Pit1 が検出され、南側の掘り込みはカマド周辺貯蔵穴状の施設と考えられる。 遺物出土状況 ややカマドからの出土が多いが、全体に散漫な出土状況を示す。 遺物 食器類 甲斐型壺 11 g、内墨壺 120 g。 煮炊具 甲斐型壺 402 g、ロクロ壺 60 g。 時期 VI~VII期か。

T-SB 43

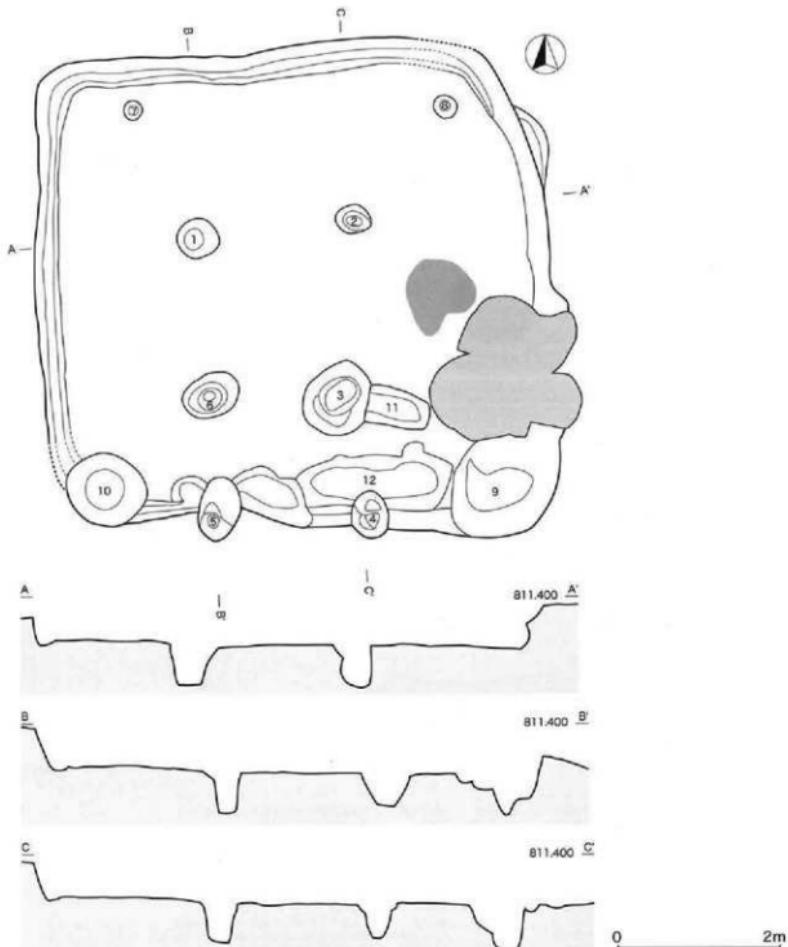
位置 R-3 グリッドに位置する。住居南側の一部のみ検出され、北側大半は調査区外と思われる。 形態 略方形か。 規模 残存長は 2.99m を測る。壁高は 14 ~ 37cm を測る。 覆土 確認面から最大で 48cm を測る。住居中央部まで三角堆積が見られる。 主軸 不明。 床面 やや凹凸はあるがほぼ水平に構築されると思われる。 周溝 検出されなかった。 力マド 検出されなかった。 ピット 1基検出されている。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 検出されていない。 時期 不明。

T-SB 46

位置 D-3 グリッドに位置する。住居南側の一部のみ検出され、北側大半は調査区外と思われる。 形態 略方形か。 規模 現存部で長軸 4.20m、短軸 1.12m を測る。壁高は 15cm を測る。 覆土 確認面から最大で 54cm を測る。壁際に一部三角堆積が見られる他は水平堆積。 主軸 不明。 床面 やや凹凸はあるがほぼ水平に構築されると思われる。 周溝 検出されなかった。 力マド 検出されなかった。 ピット 1基検出されている。 その他の施設 なし。 遺物出土状況 ほとんど出土していない。 遺物 食器類 内墨壺 22 g。 煮炊具 甲斐型壺 75 g。 時期 不明。

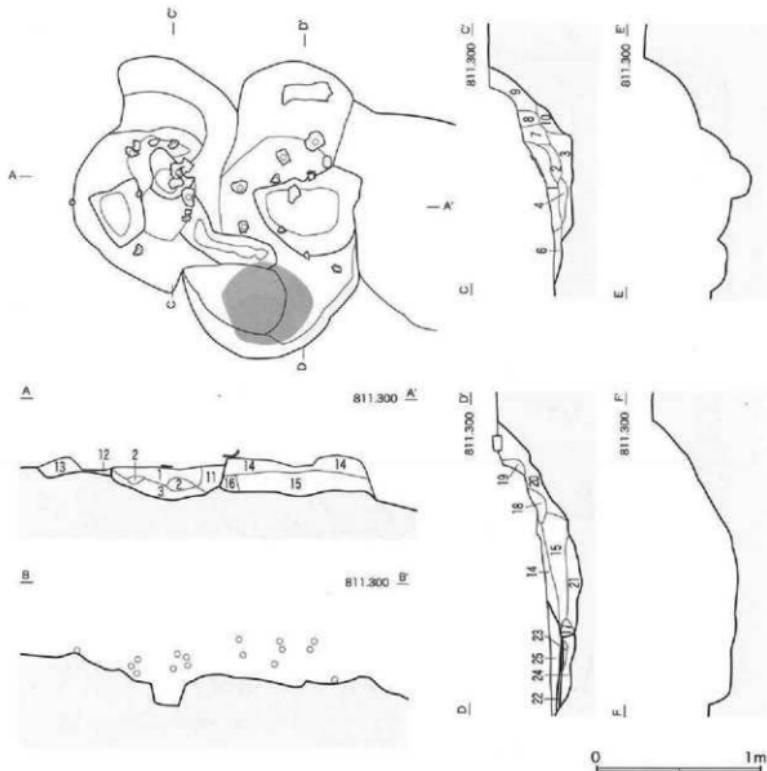


第4区 M地区調査区全体図 (S = 1/500)



pH1	黒色土 粘性普通	細まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含(下層はローム質)
pH2	黒色土 粘性普通	細まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒含(下層はローム質)
pH3	黒褐色土 粘性普通	細まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒含、焼土粒子少量含
pH4	黒色土 粘性普通	細まり弱	炭化物含、ローム粒少量含、焼土粒子含
pH5	黒色土 粘性中強	細まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含
pH6	黒色土 粘性普通	細まりやや弱	炭化物含、ローム粒少量含(下層はローム質)
pH7	黒褐色土 粘性中強	細まり普通	炭化物少量含、ローム粒少量含
pH8	黒褐色土 粘性普通	細まり普通	炭化物少量含、ローム粒少量含
pH9	黒色土 粘性やや強	細まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含
pH10	黒色土 粘性やや強	細まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含
pH11	黒褐色土 粘性やや強	細まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含、焼土粒子含
pH12	黒色土 粘性普通	細まり弱	炭化物含、ローム粒少量含、焼土粒子含

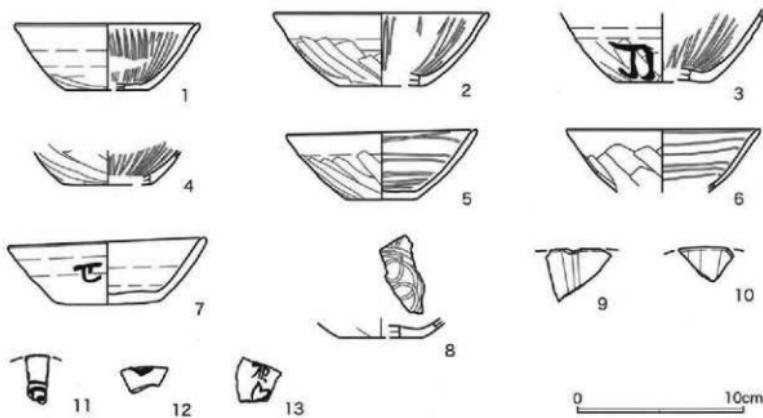
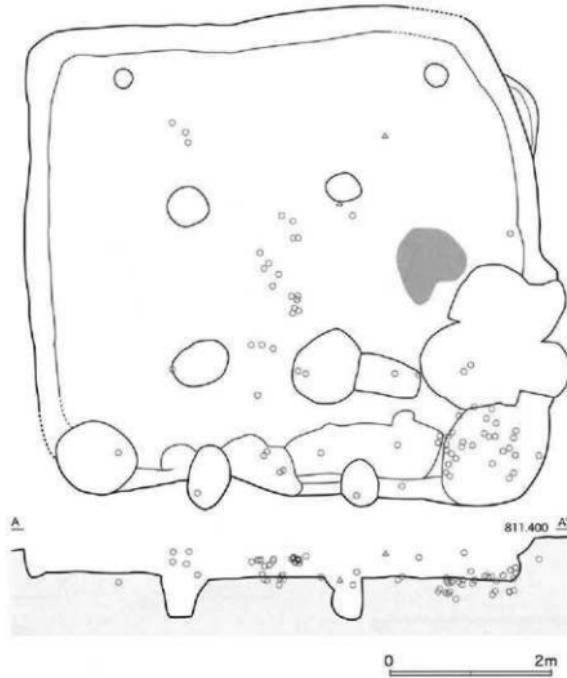
第5図 M-SB03 (S = 1/60)



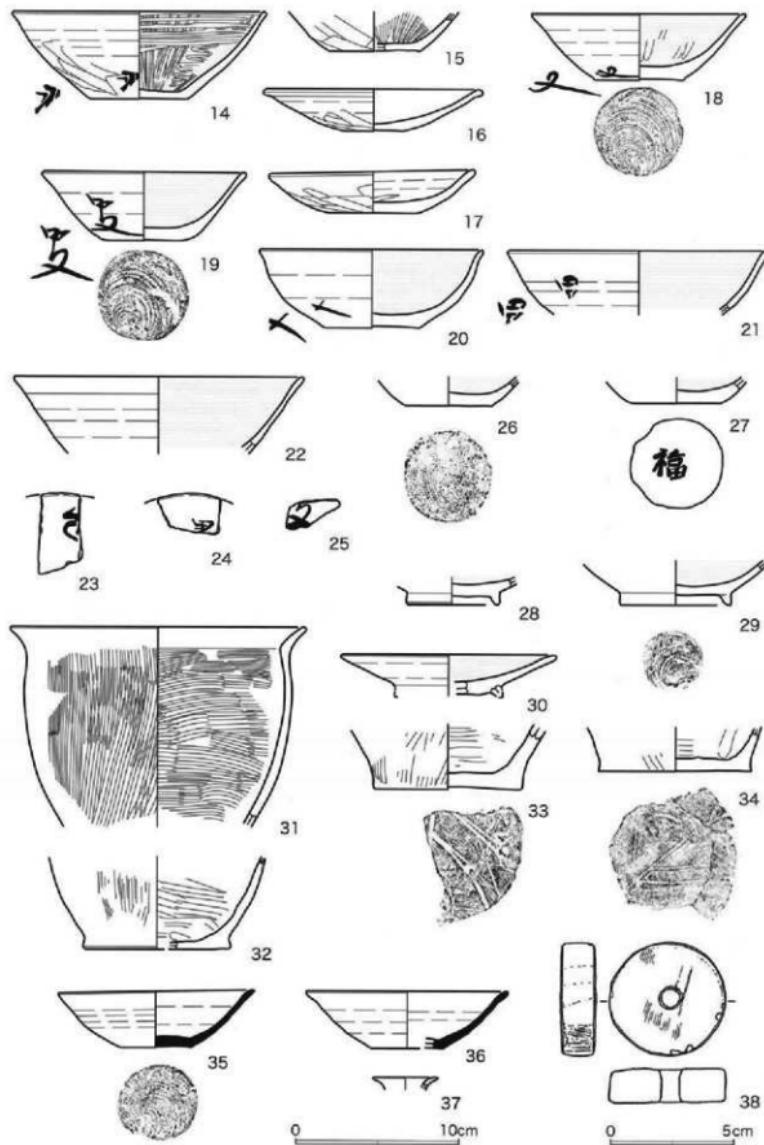
M-SB03 カマド土質解説

1層	黒褐色土	粘性普通	綿まり普通	炭化物多量含、粘土多量含、粘土少量含
2層	赤褐色土	粘性やや強	綿まり少	粘土多量含、粘土少量含
3層	赤褐色土	粘性弱	綿まり少	粘土少
4層	青褐色土	粘性やや強	綿まり少	炭化物少量含、ローム粒多量含
5層	黒褐色土	粘性やや強	綿まり普通	炭化物少量含、粘土少量含、ローム粒少量含
6層	黒褐色土	粘性やや強	綿まり普通	炭化物多量含、粘土多量含、ローム粒少量含
7層	暗赤褐色土	粘性普通	綿まり普通	炭化物多量含、粘土多量含、ローム粒少量含
8層	黒褐色土	粘性普通	綿まり普通	炭化物多量含、粘土多量含、ローム粒少量含
9層	黒褐色土	粘性普通	綿まり普通	炭化物多量含、粘土少合、ローム粒少量含
10層	暗褐色土	粘性弱	綿まり弱	炭化物少量含、粘土多量含、ローム粒少量含
11層	赤褐色土	粘性弱	綿まり普通	粘土多量含、粘土多量含(2層より粘土少量)
12層	暗褐色土	粘性普通	綿まり普通	粘土多量含、炭化物多量含
13層	暗褐色土	粘性普通	綿まり普通	炭化物少量含、ローム粒少量含、粘土少量含
14層	暗褐色土	粘性普通	綿まりやや強	炭化物少量含、粘土少量含
15層	赤褐色土	粘性弱	綿まり弱	粘土多量含、ローム粒多量含、粘土少量含
16層	暗褐色土	粘性やや弱	綿まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含、粘土少量含
17層	暗赤褐色土	粘性やや強	綿まりやや強	炭化物少量含、粘土多量含、ローム粒少量含
18層	暗褐色土	粘性普通	綿まり普通	炭化物少量含、粘土微量含
19層	暗褐色土	粘性普通	綿まり普通	ローム粒少量含、粘土少量含
20層	暗褐色土	粘性やや強	綿まりやや強	炭化物少量含、粘土少量含、ローム粒含
21層	赤褐色土	粘性弱	綿まり弱	粘土少
22層	暗褐色土	粘性強	綿まり強	粘土层、粘土層、炭土層
23層	黒褐色土	粘性強	綿まりやや弱	炭化物含、粘土含、ローム粒少量含
24層	赤褐色土	粘性弱	綿まり強	粘土层
25層	黒褐色土	粘性やや強	綿まり普通	炭化物少量含、粘土含、ローム粒含

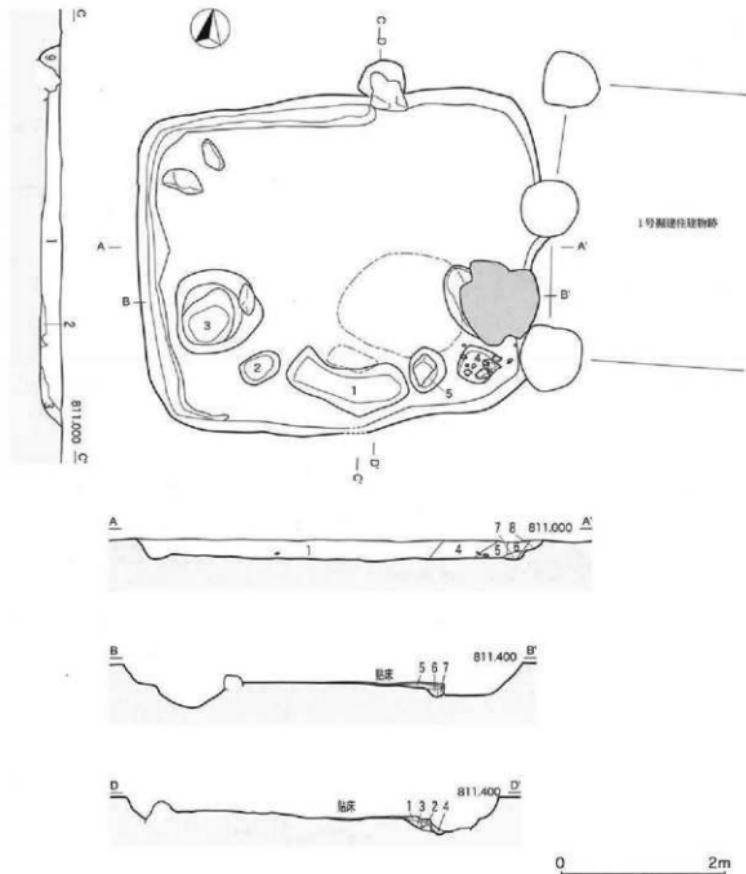
第6図 M-SB03カマド (= 1/30)



第7図 M-SB03遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物1 ($S = 1/3$)



第8図 M-SB03出土遺物2 (S=1/3・1/2)



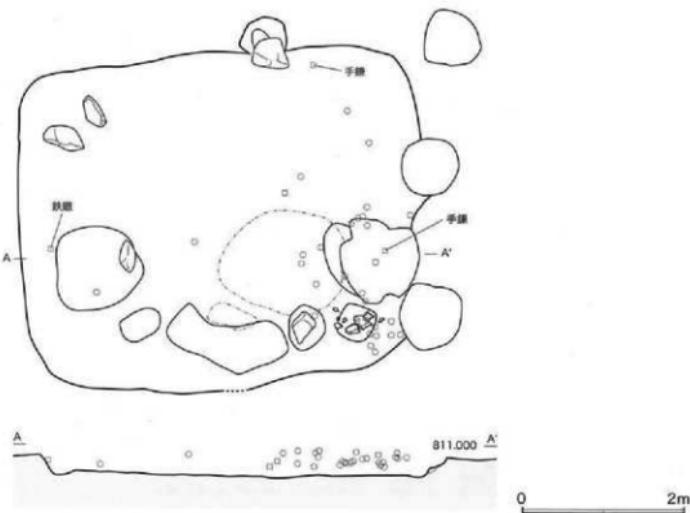
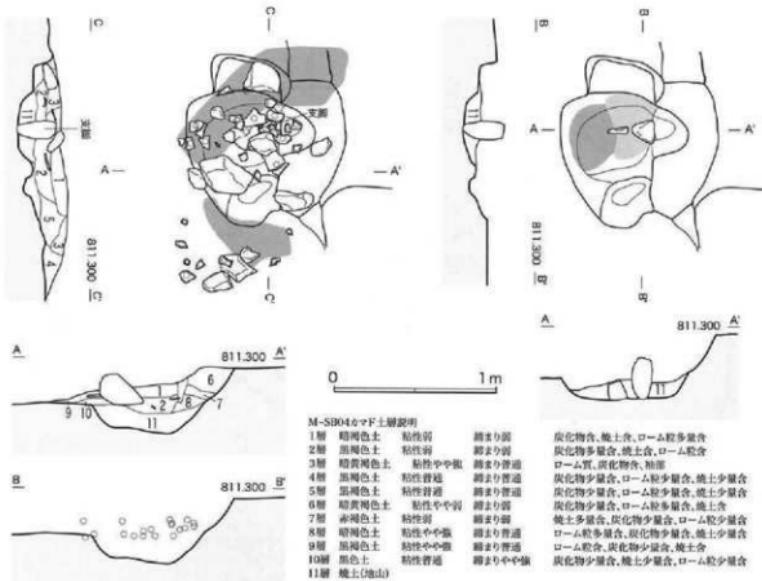
M-SB04 土解説

1層	黒褐色土	粘性強	縛まり強	炭化物合、ローム粒多量含、焼土含
2層	黒褐色土	粘性弱	縛まり普通	炭化物合、ローム粒多量含、焼土少量含
3層	黒褐色土	粘性弱	縛まりやや強	炭化物少量含、ローム粒合
4層	黒褐色土	粘性普通	縛まりやや強	炭化物少量含、ローム粒合
5層	黒褐色土	粘性やや弱	縛まり普通	炭化物合、ローム粒少量含、焼土少量含
6層	黒褐色土	粘性強	縛まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含、焼土合
7層	赤褐色土	粘性強	縛まりやや弱	焼土多量含、炭化物少量含、粘土多量含

M-SB04ピット土解説

Pit1	黒色土	粘性やや弱	縛まりやや弱	炭化物合、ローム粒少量含、焼土粒子少量含
Pit2	黒色土	粘性やや弱	縛まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含
Pit3	黒色土	粘性普通	縛まりやや弱	炭化物少量含
Pit4	黒褐色土	粘性普通	縛まり普通	炭化物合、ローム粒合、焼土粒子合
Pit5	黒色土	粘性普通	縛まり普通	炭化物少量含、ローム粒少量含、焼土粒子少量含

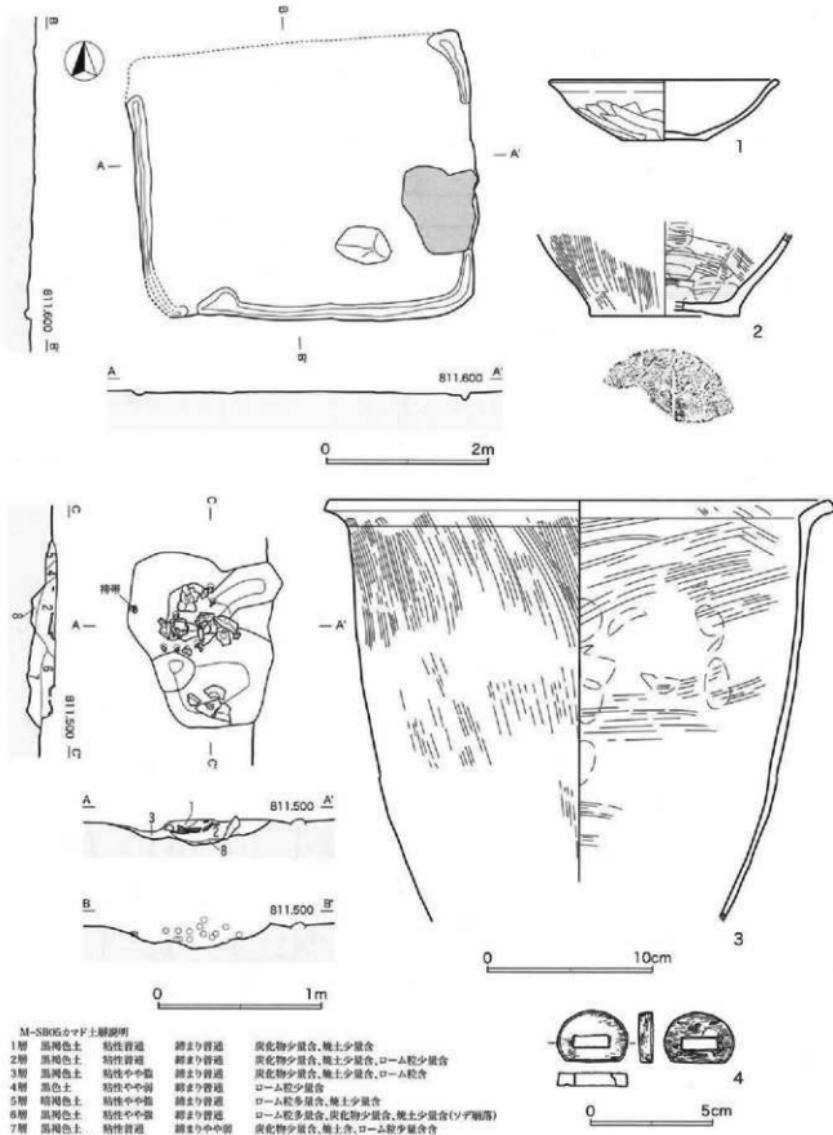
第9図 M-SB04 (S = 1/60)



第10図 M-SB04カマド ($S = 1/30$)・遺物分布図 ($S = 1/60$)

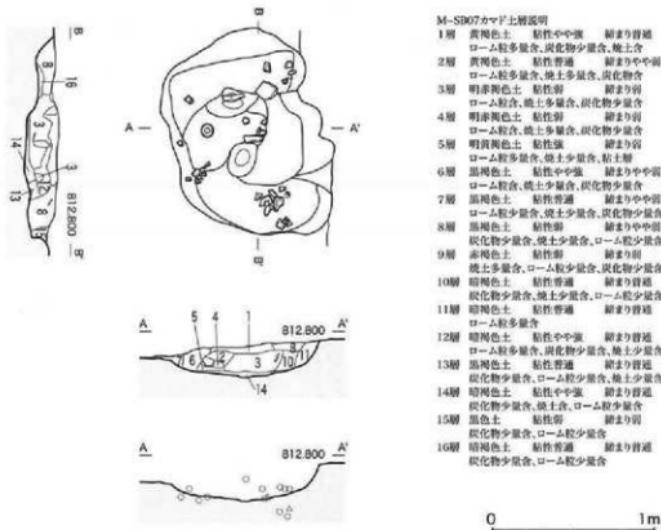
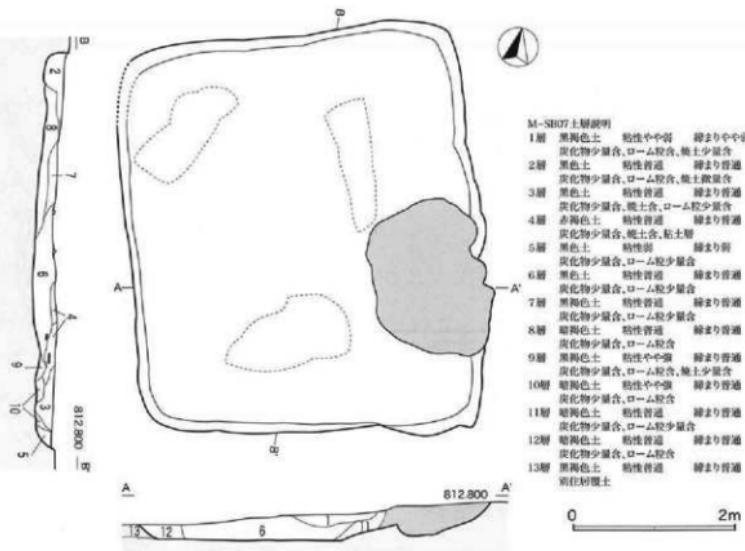


第11図 M-SB04出土遺物 ($S = 1/3$)

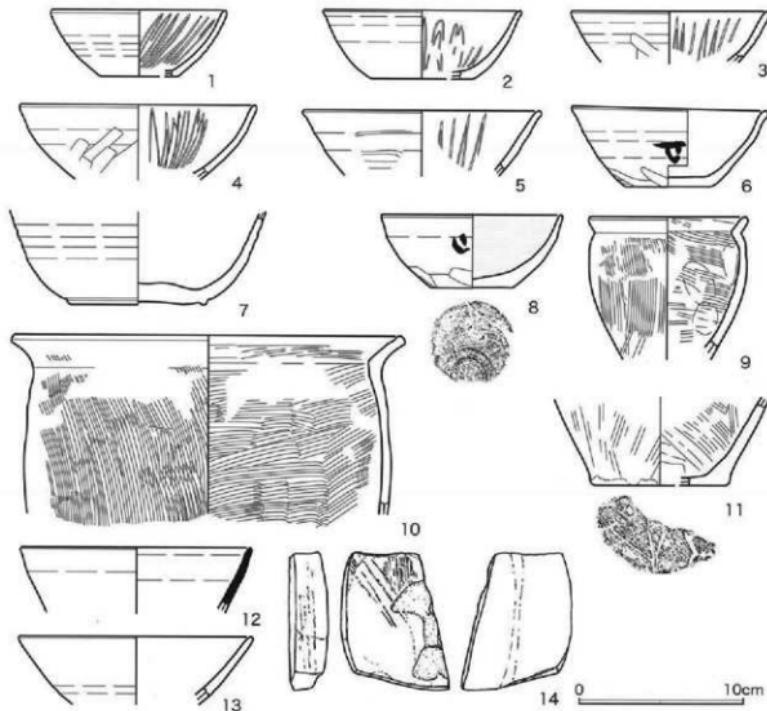


M-SB05カマド上層剖面		
1層	黒褐色土	弱性普通 耕さり普通 炭化物少混合、植土少量含
2層	黒褐色土	弱性普通 耕さり普通 炭化物少混合、ローム粒少量含
3層	黒褐色土	弱性少少強 耕さり普通 炭化物少混合、植土少量含、ローム粒含
4層	黒褐色土	弱性少少弱 耕さり普通 ローム粒少量含、植土少量含
5層	暗褐色土	弱性やや強 耕さり普通 ローム粒多量含、植土少量含
6層	黒褐色土	弱性やや強 耕さり普通 ローム粒多量含、炭化物少混合、植土少量含(ソリ崩落)
7層	黒褐色土	弱性普通 耕さりやや強 炭化物少混合、植土含、ローム粒少量含合
8層	地山被覆層	

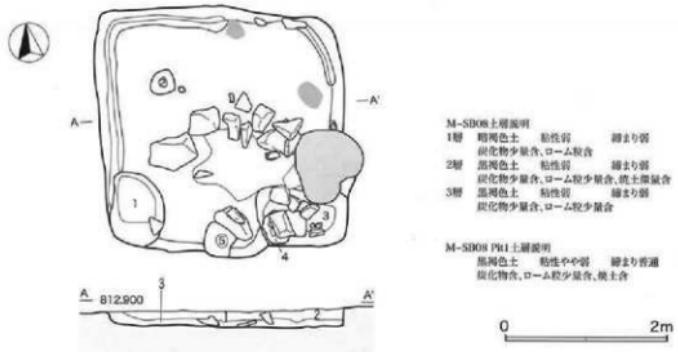
第12図 M-SB05 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)・出土遺物 (S = 1/3・1/2)



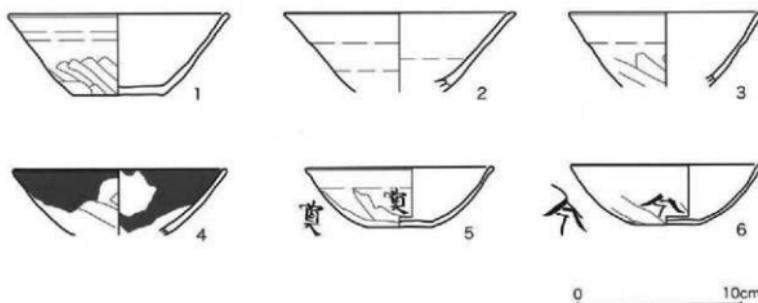
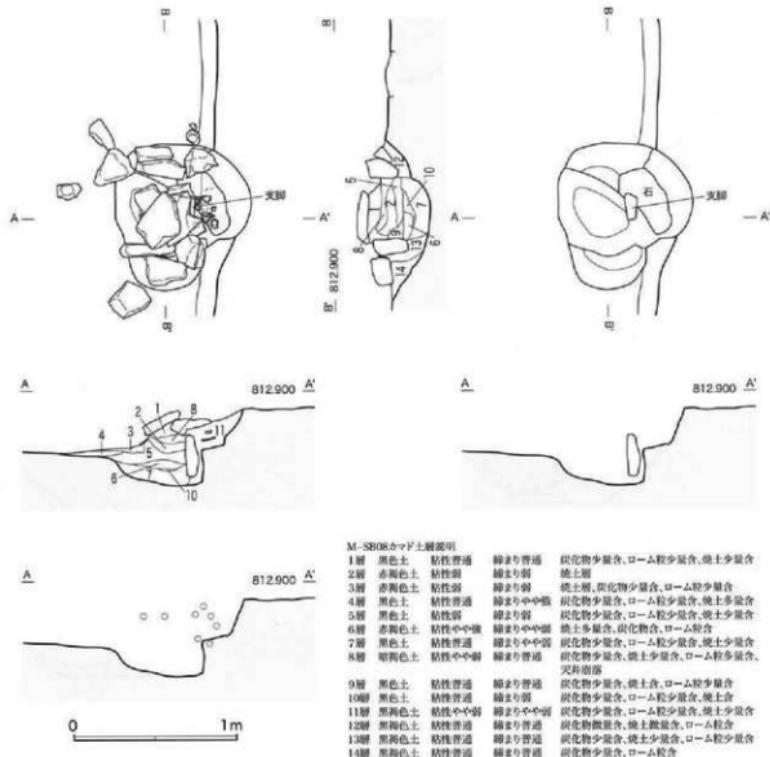
第13図 M-SB07 (S=1/60)・カマド (S=1/30)



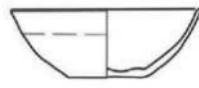
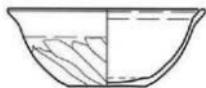
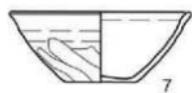
第14図 M-SB07出土遺物 (S = 1/3)



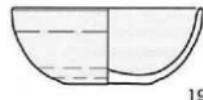
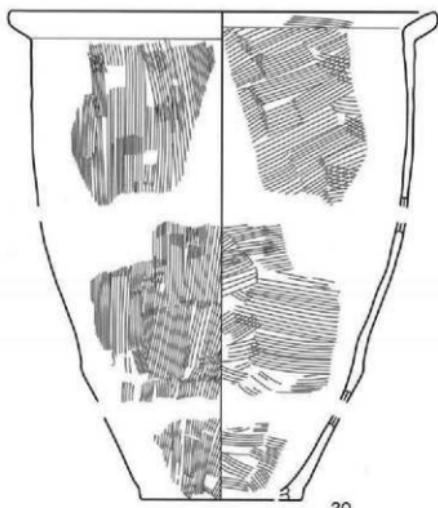
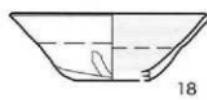
第15図 M-SB08 (S = 1/60)



第16図 M-SB08カマド ($S = 1/30$)・出土遺物1 ($S = 1/3$)

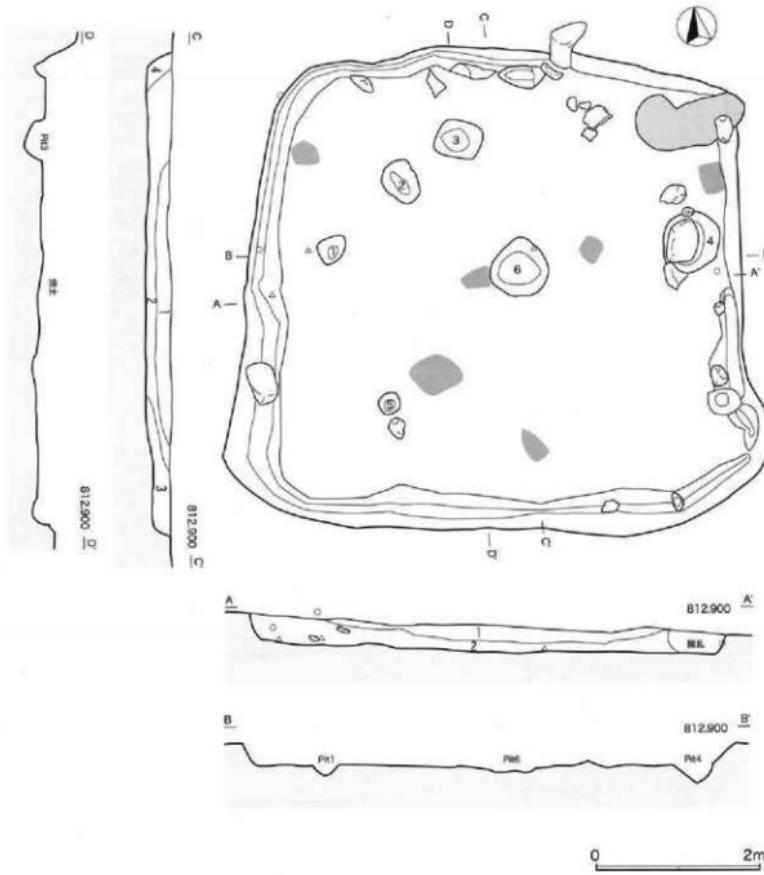


羅



0 10cm

第17図 M-SB08出土遺物2 (S = 1/3)



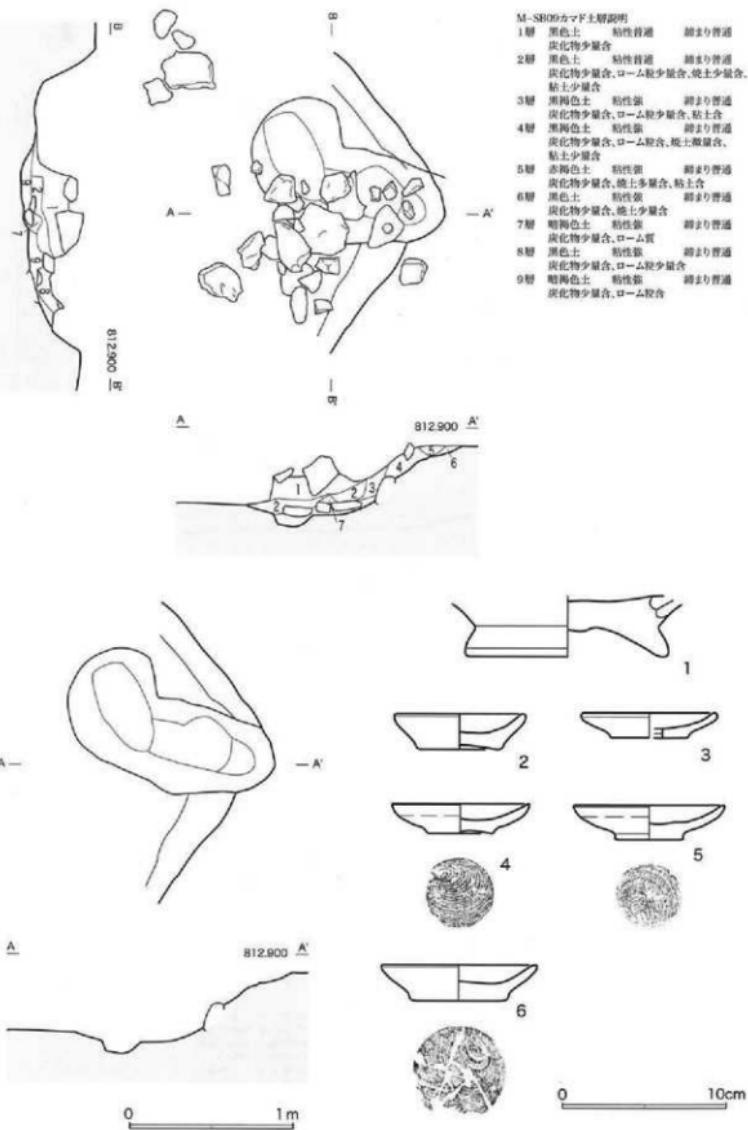
M-SB09上層説明

1層 黒色土	粘性普通	締まり普通	炭化物少量含、ローム粒微量含
2層 黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量含、ローム粒微量含
3層 黒色土	粘性やや強	締まり普通	ローム粒少量含
4層 黒褐色土	粘性普通	締まり普通	炭化物少量含、ローム粒少量含

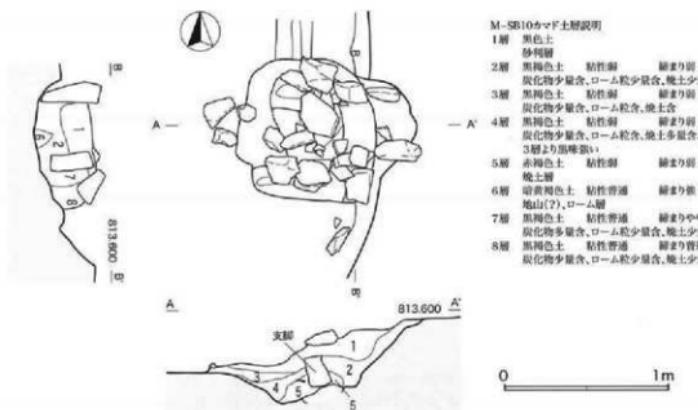
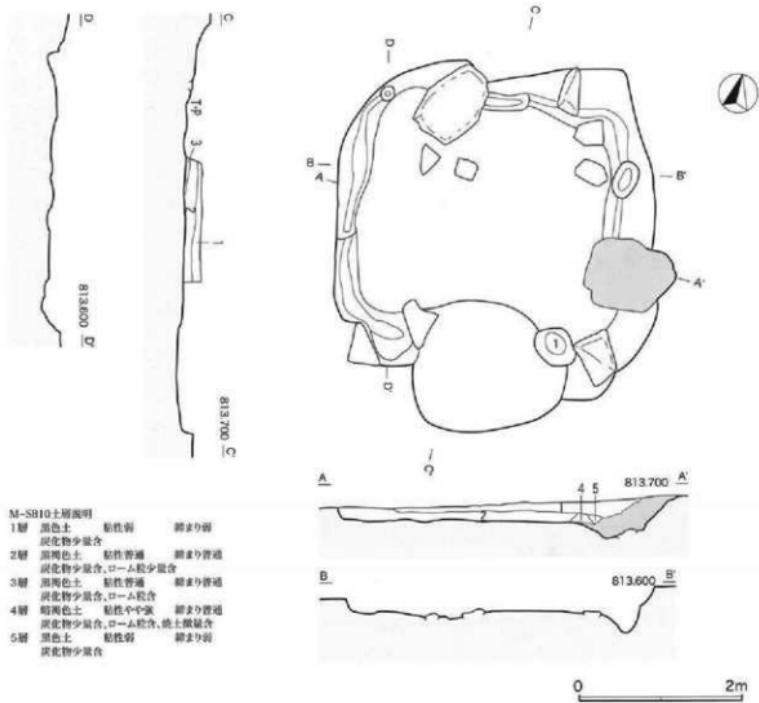
M-SB09ピット土層説明

Pit1 黒色土	粘性弱	締まり弱	炭化物少量含、ローム粒少量含
Pit2 黒色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量含、ローム粒少量含
Pit3 黒色土	粘性強	締まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒少量含
Pit4 黒色土	粘性強	締まりやや弱	炭化物少量含、ローム粒含
Pit5 黒色土	粘性弱	締まり弱	炭化物少量含、ローム粒少量含
Pit6 黒色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量含、ローム粒少量含

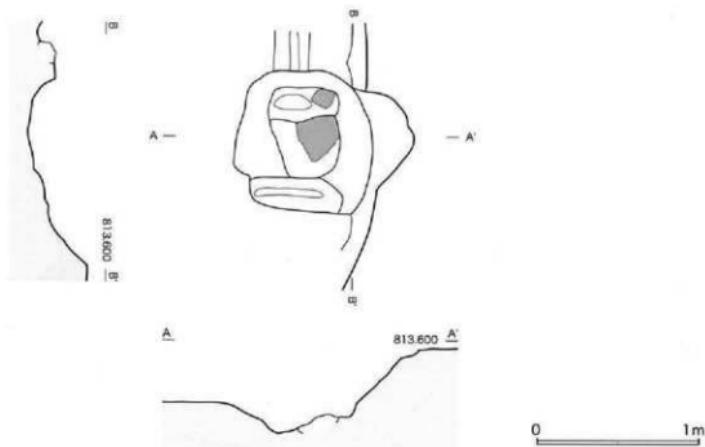
第18図 M-SB09 (S = 1/60)



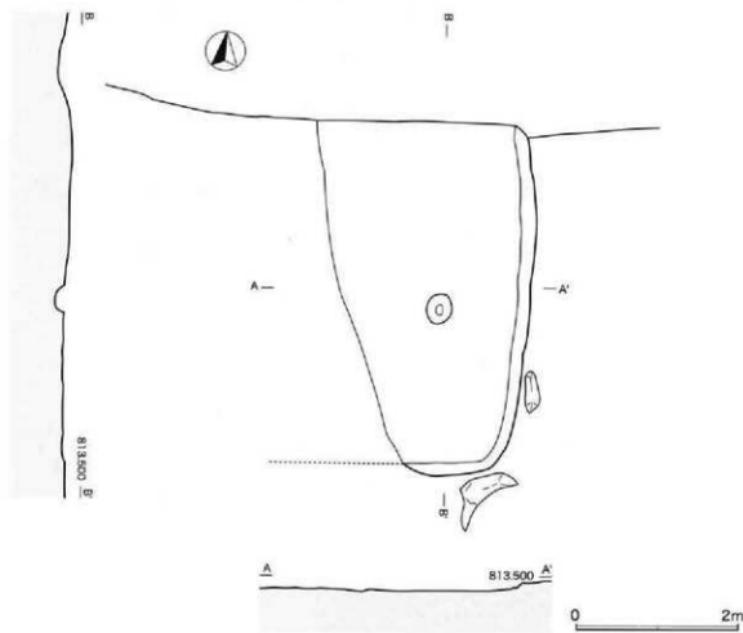
第19図 M-SB09カマド (S = 1/30)・出土遺物1 (S = 1/3)



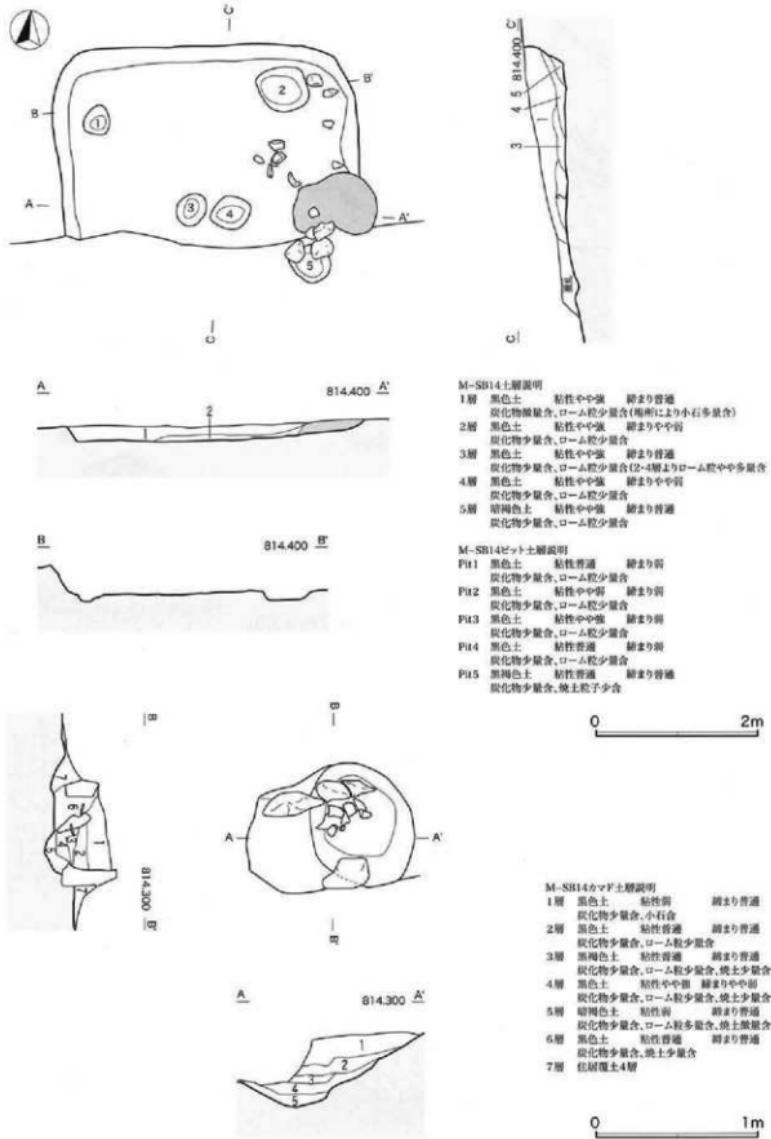
第20図 M-SB10 (S=1/60)・カマド (S=1/30)



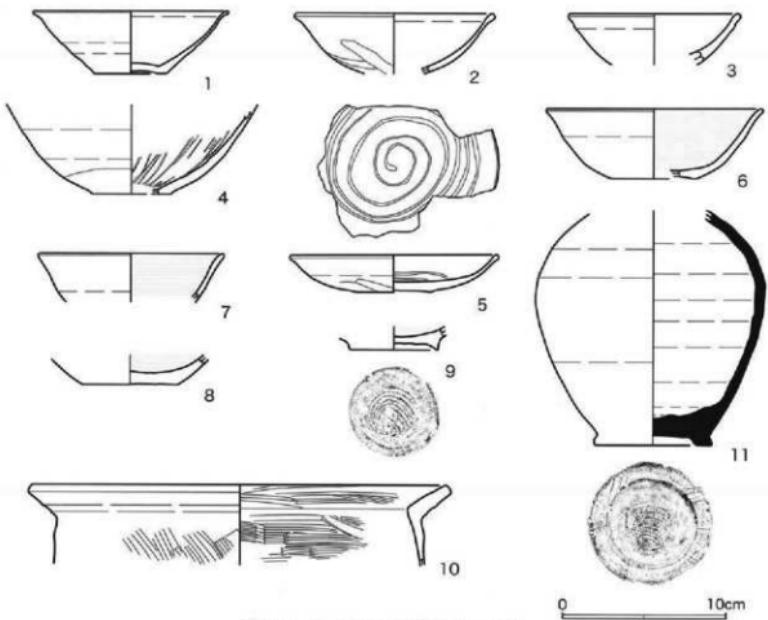
第21図 M-SB 10 カマド掘り方 ($S = 1/30$)



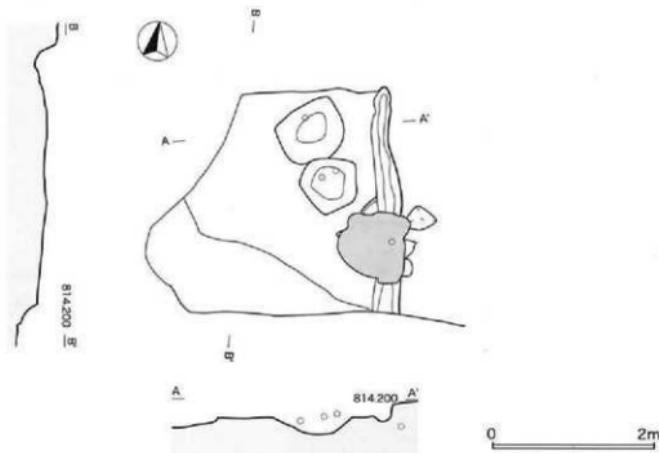
第22図 M-SB 13 ($S = 1/60$)



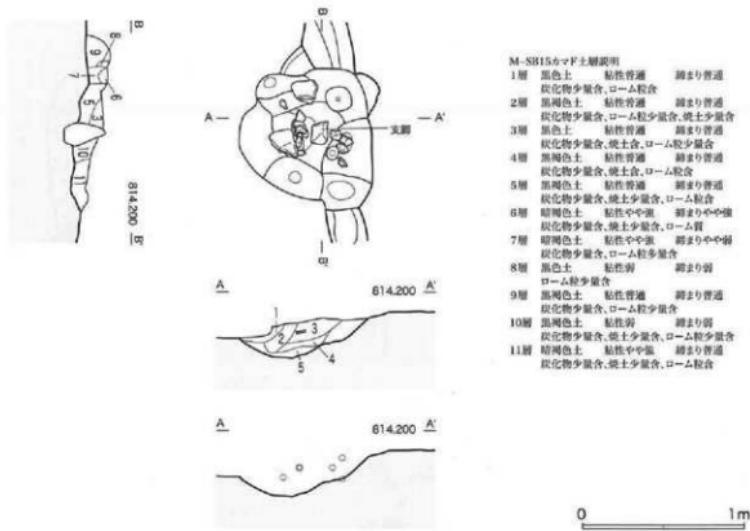
第23図 M-SB14 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)



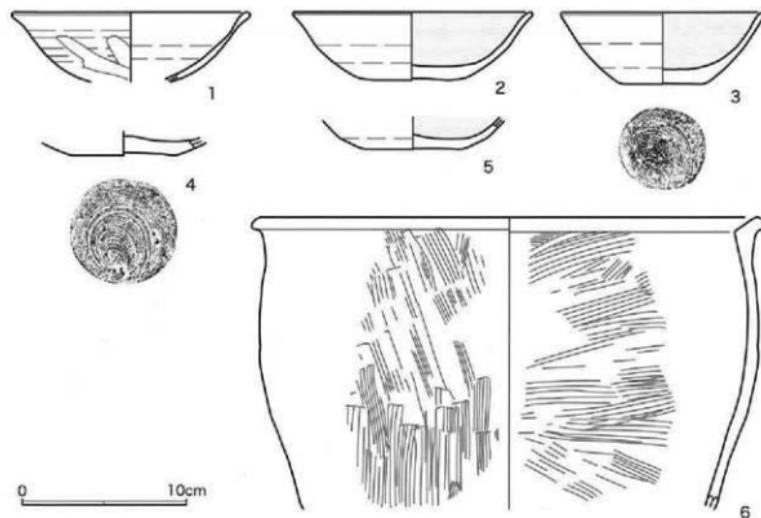
第24図 M-S B 14出土遺物 (S = 1/3)



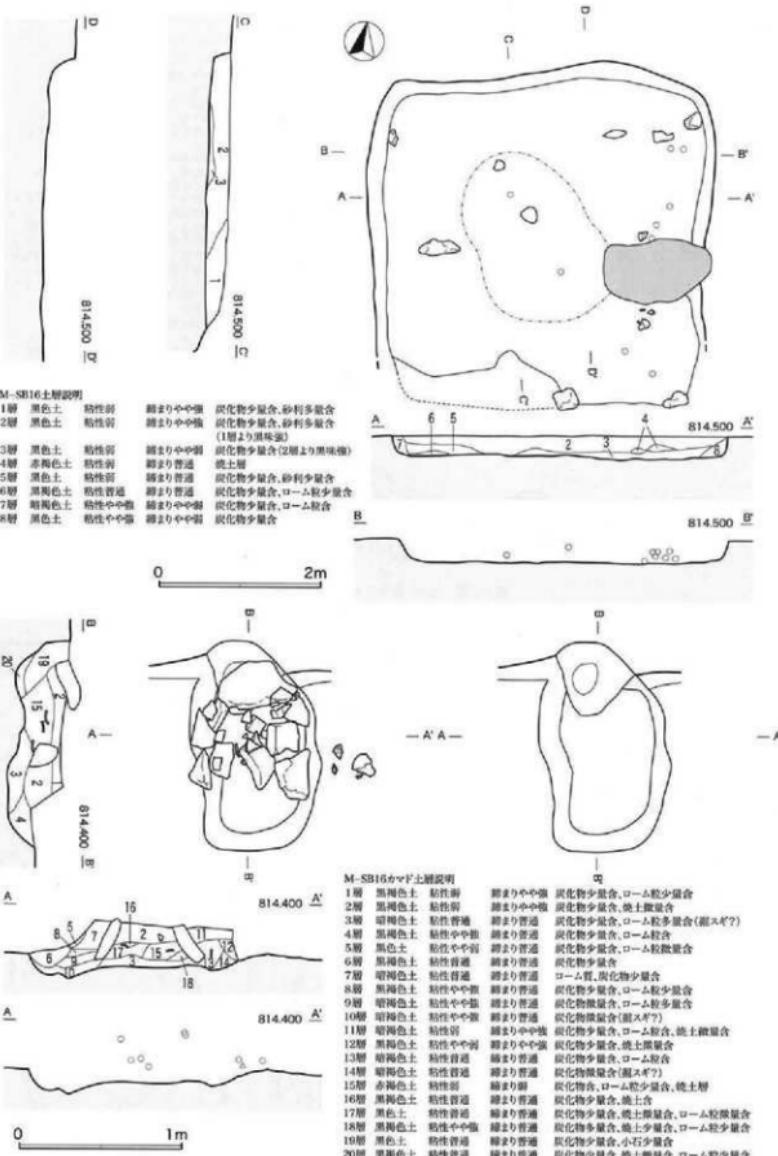
第25図 M-S B 15 (S = 1/60)



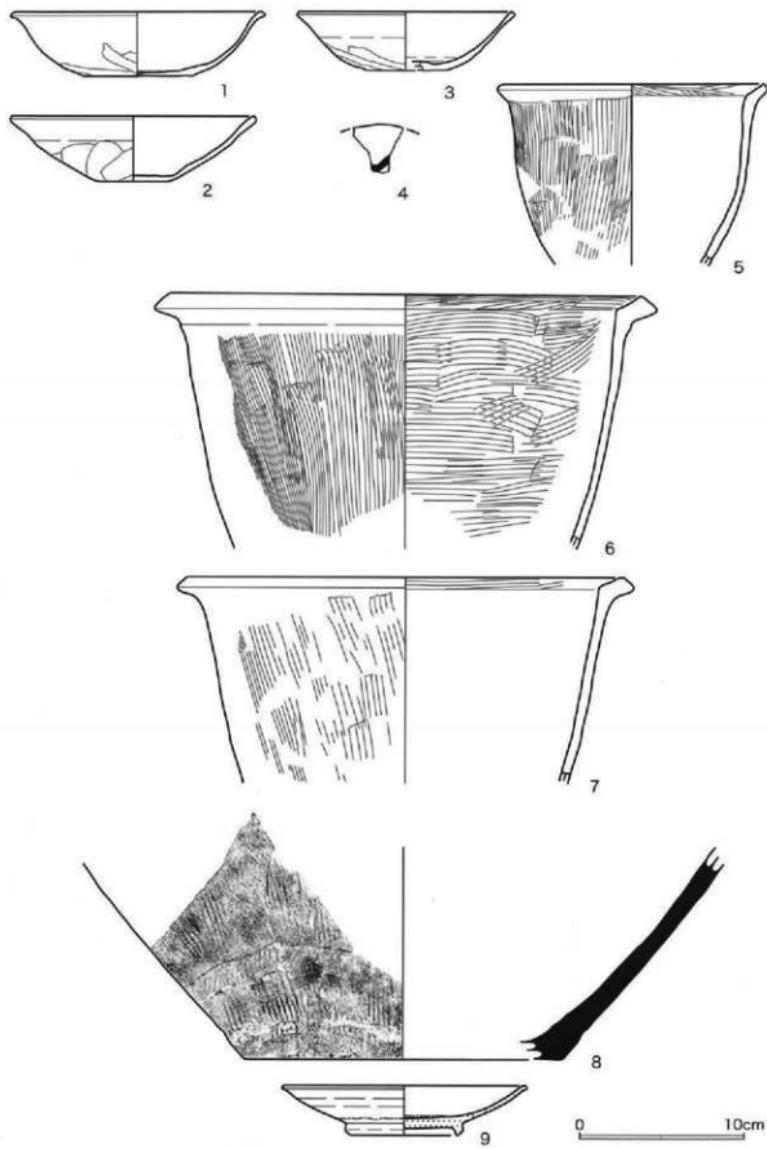
第26図 M-SB15カマド (S = 1/30)



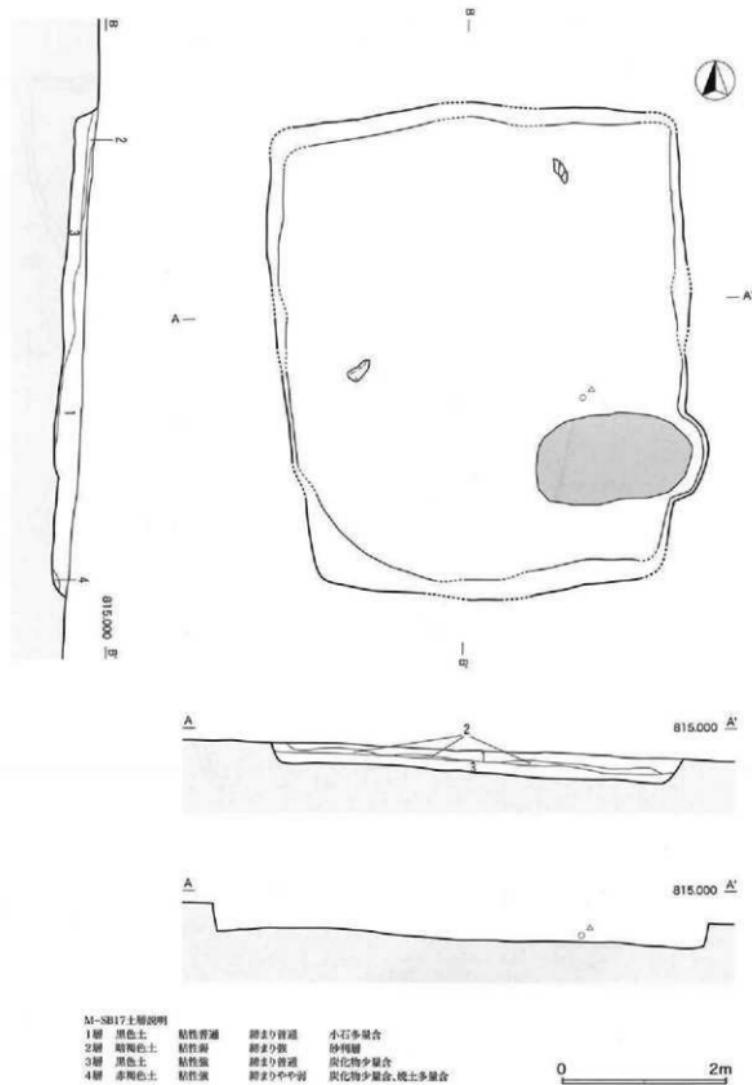
第27図 M-SB15出土遺物 (S = 1/3)



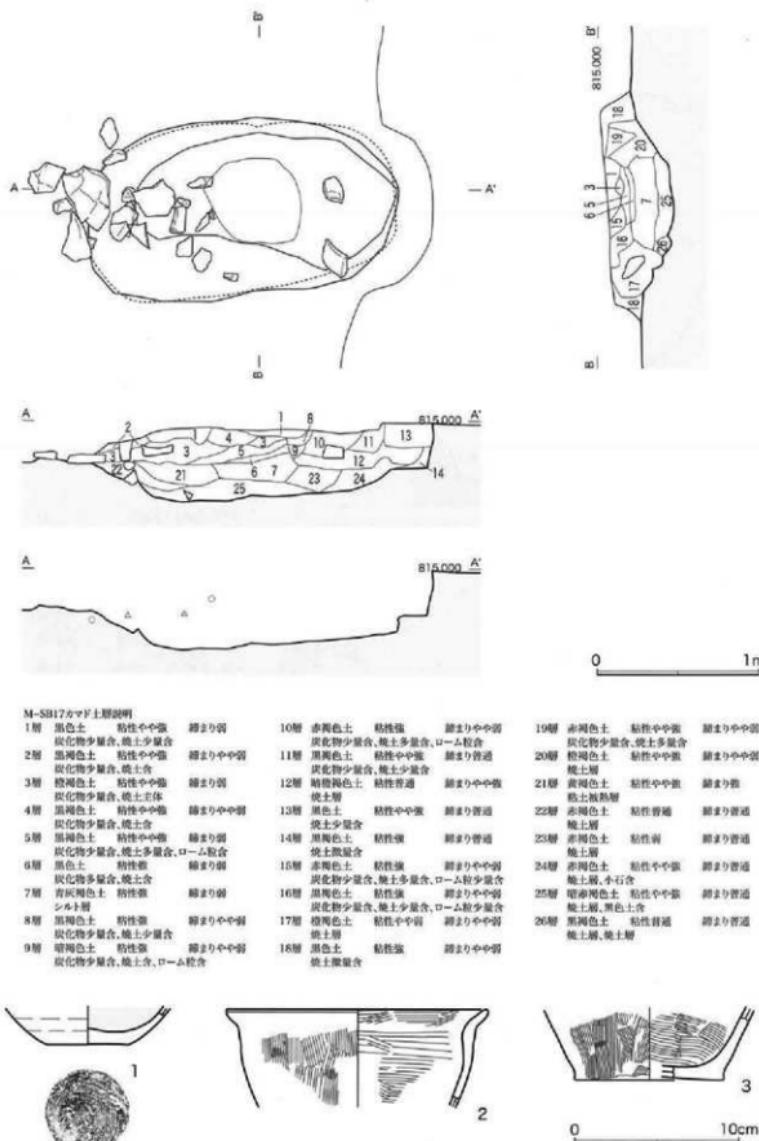
第28図 M-SB16 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)



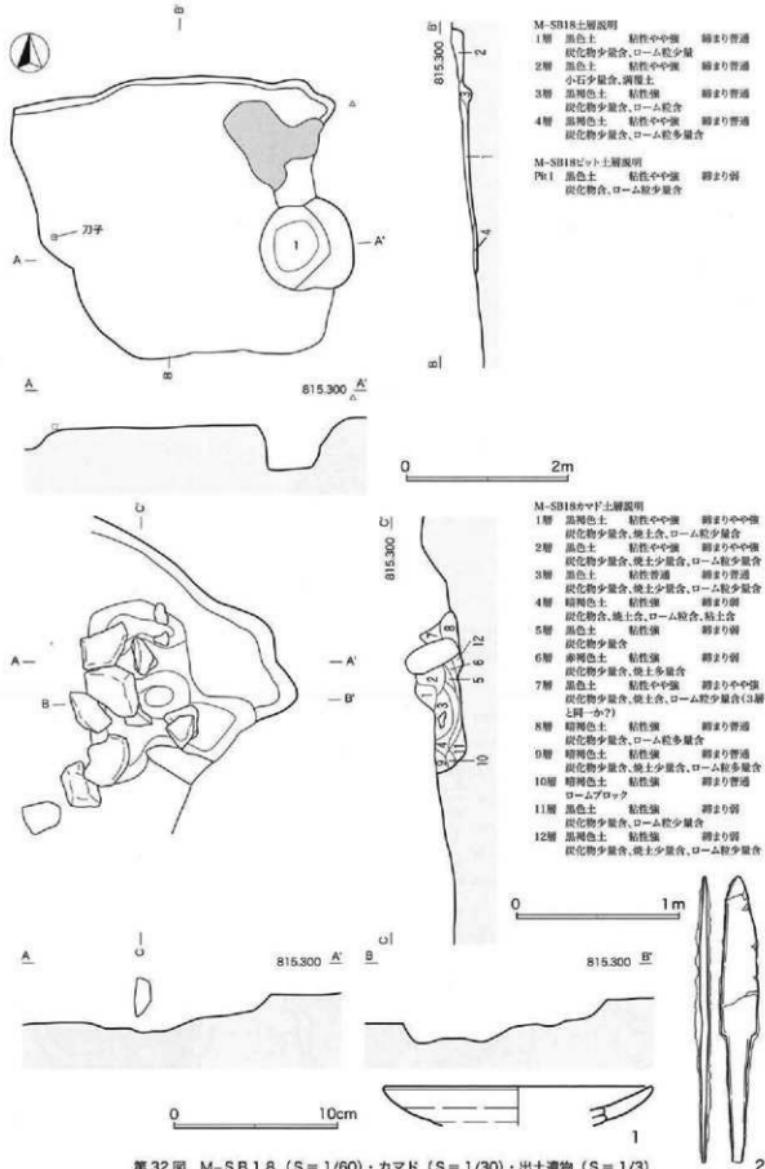
第29図 M-SB 16出土遺物 (S = 1/3)



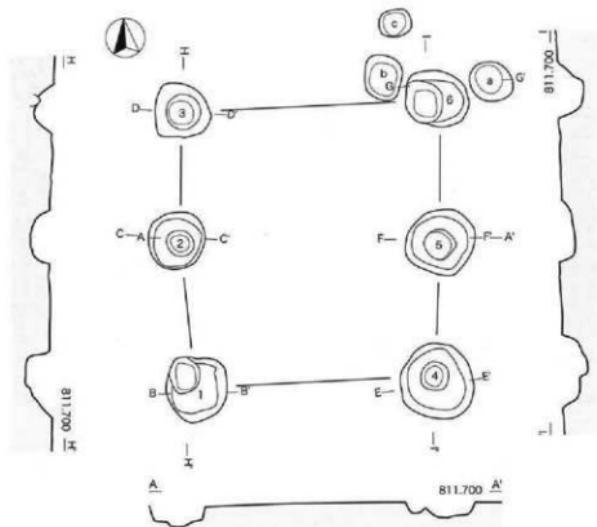
第30図 M-SB17 (S=1/60)



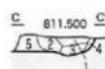
第31図 M-SB17出土遺物 (S = 1/3)



第32図 M-SB18 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)・出土遺物 (S = 1/3)



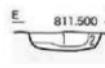
Ph1土層説明		
1層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒含	細まり普通
2層	褐色土 ローム粒少量含	細まり普通
3層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒含	細まりやや強
4層	暗褐色土 ローム粒含	細まり普通
5層	暗褐色土 ローム粒含	粘性普通
6層	暗褐色土 ローム粒含	粘性や強
7層	暗褐色土 ローム粒少量含(4往復土)	細まり普通



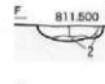
Ph2土層説明		
1層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒含	細まり普通
2層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒含	細まり普通
3層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒含	細まり普通



Ph3土層説明		
1層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒含	細まり普通
2層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒含	細まり普通



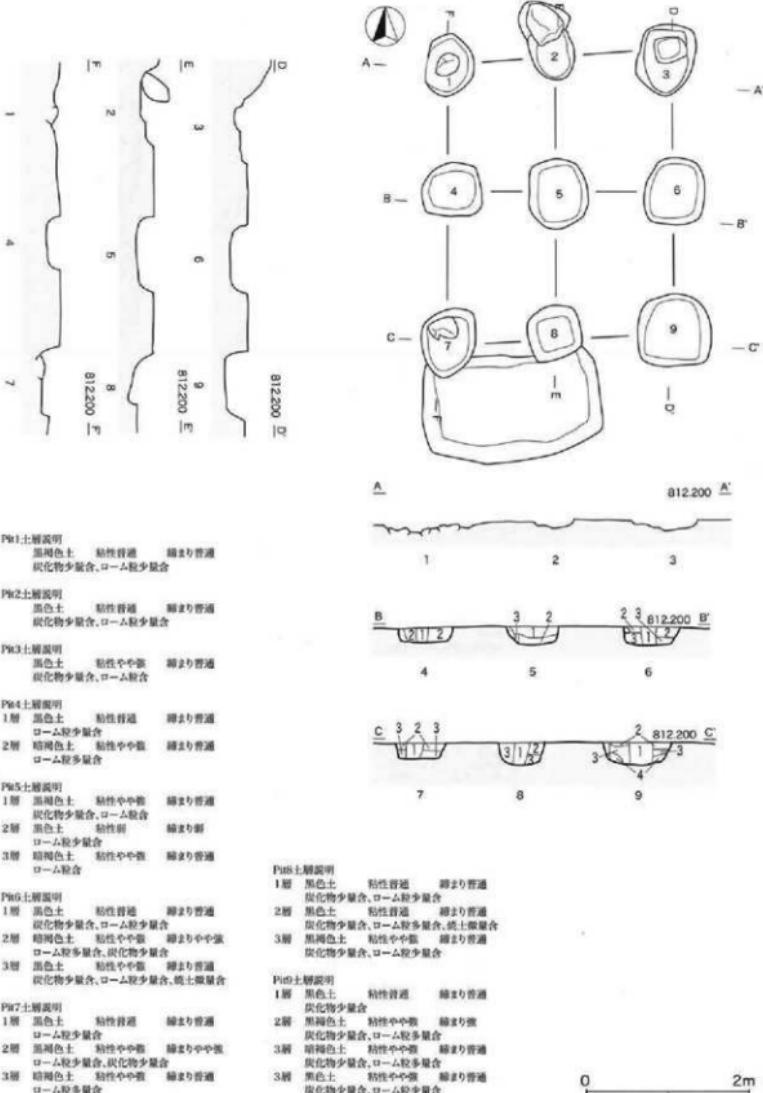
Ph4土層説明		
1層	暗褐色土 ローム粒含	細まりやや強
2層	暗褐色土 炭化物少量含、ローム粒多量含	細まりやや強



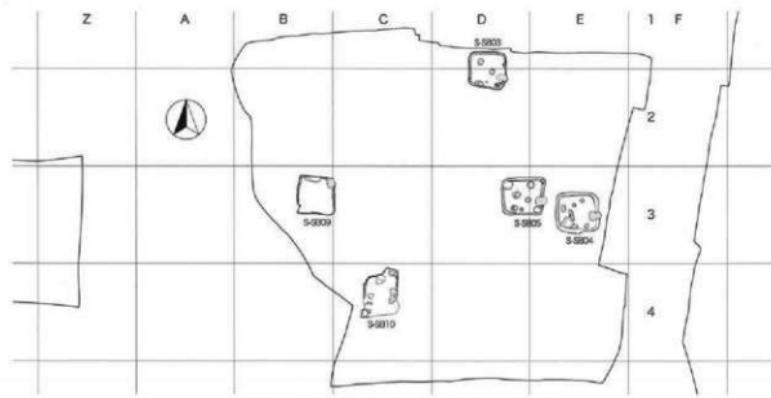
Ph5土層説明		
1層	暗褐色土 ローム粒含、ロームブロック含	細まり普通
2層	暗褐色土 ローム粒含、ロームブロック含	細まりやや強
3層	暗褐色土 ローム粒含	細まりやや強

0 2m

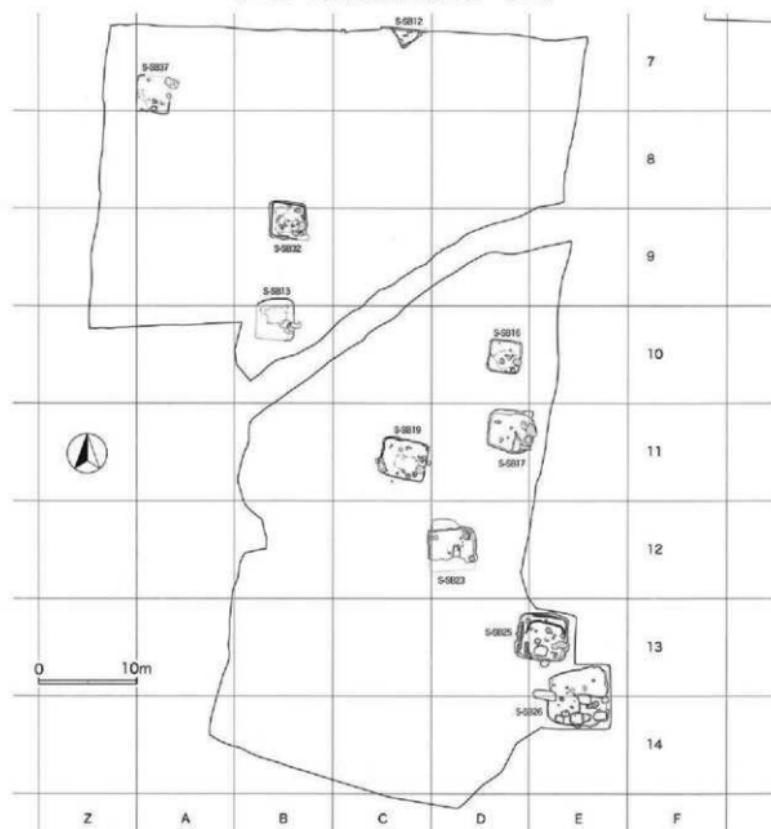
第33図 M-S T 01 (S = 1/60)



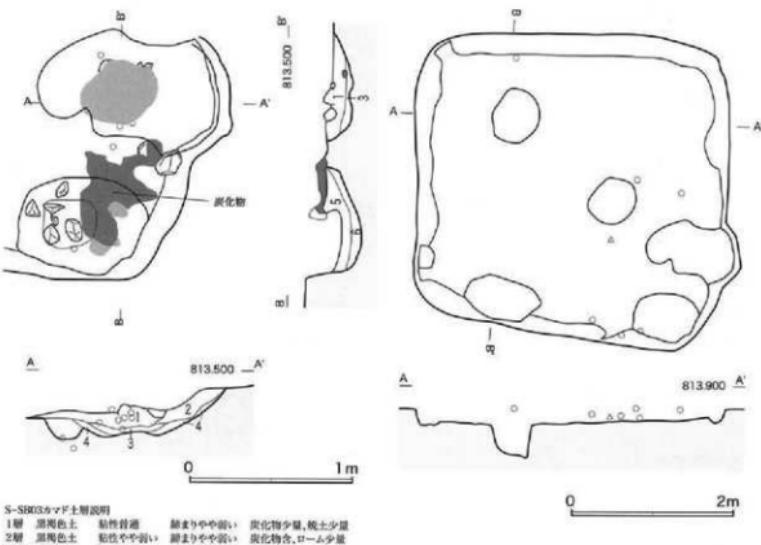
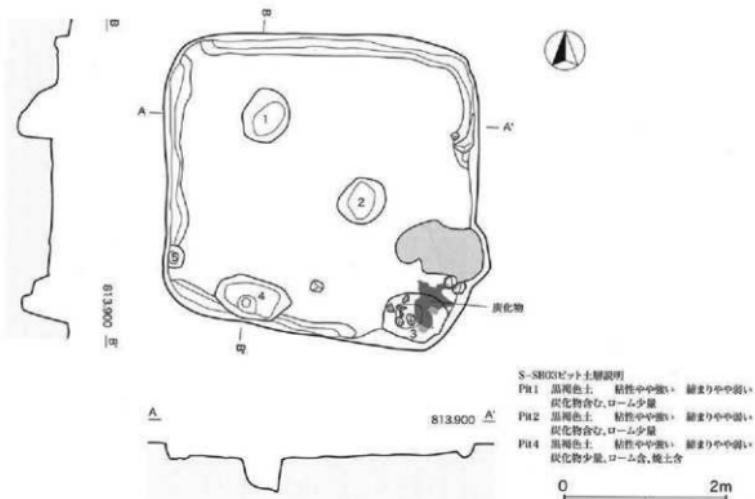
第34図 M-ST02 (S = 1/60)



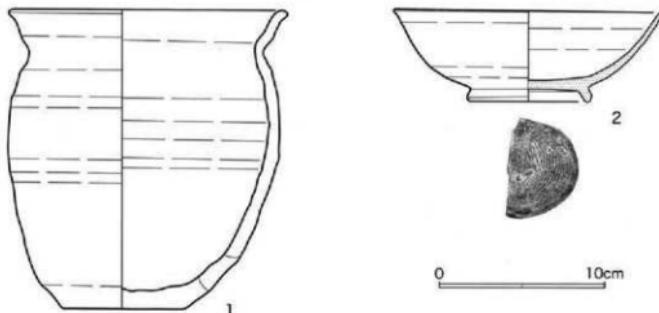
第35図 S地区北側調査区全体図 (S = 1/500)



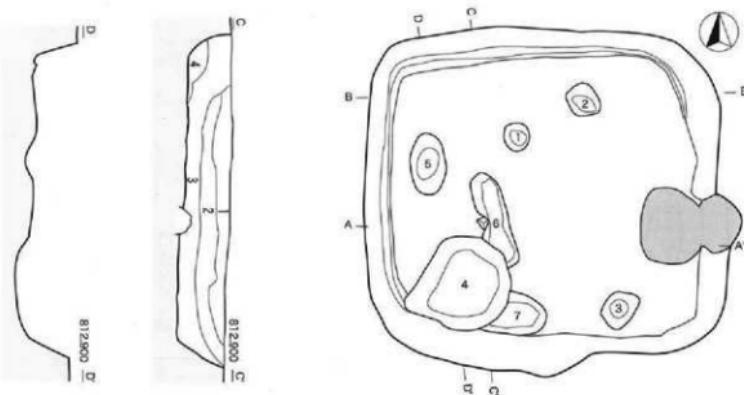
第36図 S地区南側調査区全体図 (S = 1/500)



第37図 S-SBO3 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)・遺物分布図 (S = 1/60)



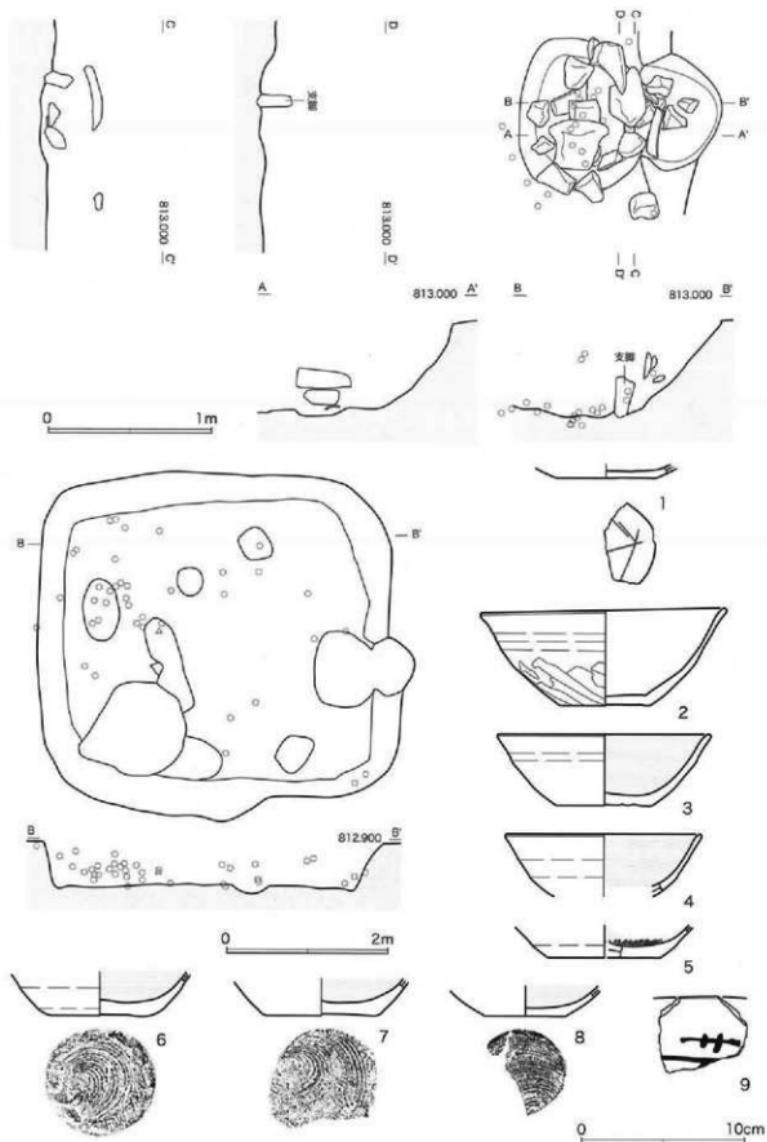
第38図 S-SB03出土遺物 (S = 1/3)



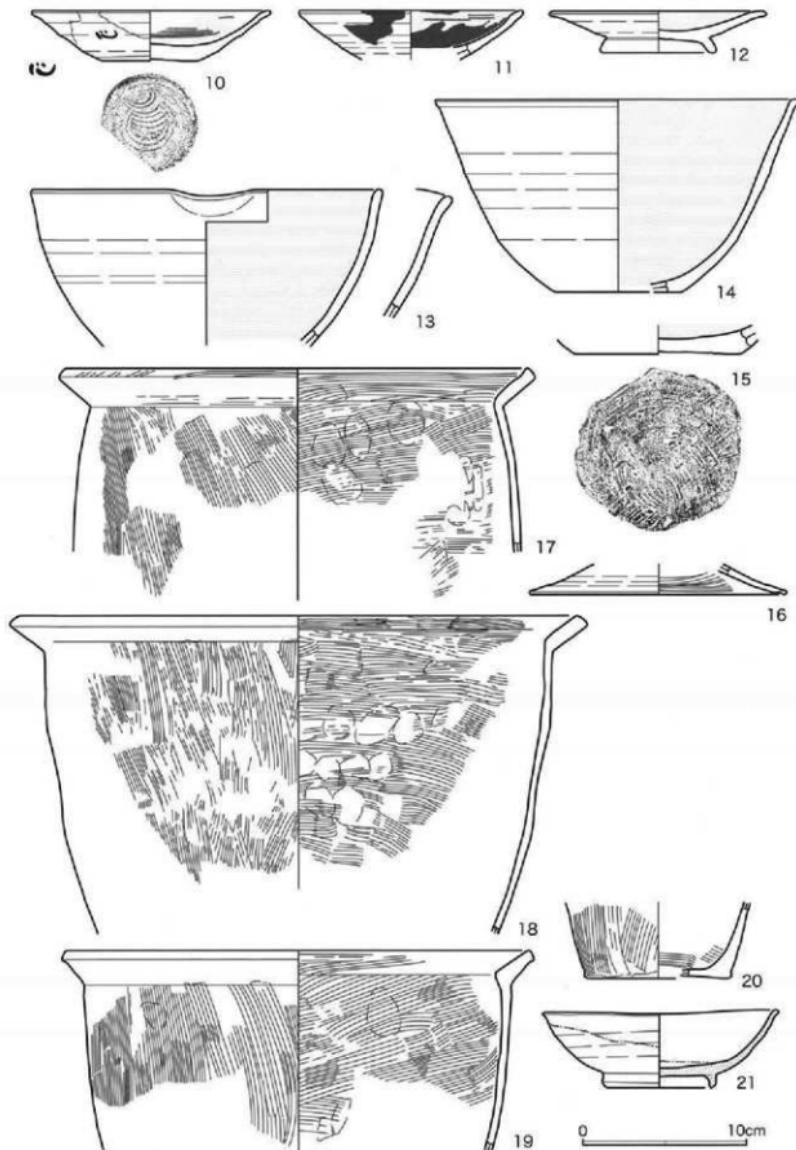
S-SB04土層説明
 1層 黒褐色土 热性やや弱い 締まり弱い
 腐化物少量、ローム少量
 2層 黒褐色土 热性普通 締まりやや弱い
 腐化物少量、ローム少
 3層 黒褐色土 热性普通 締まりやや弱い
 腐化物少量、ローム少、埴土少量
 4層 黑褐色土 热性普通 締まりやや弱い
 腐化物少量、ローム少
 5層 黑褐色土 热性普通 締まりやや弱い
 ローム少量

S-SB04ピット土層説明
 Pi1 黑褐色土 热性やや強い 締まりやや弱い
 腐化物少量、ローム少量
 Pi2 黑褐色土 热性普通 締まりやや弱い
 腐化物少量、ローム少量
 Pi3 黑褐色土 热性普通 締まり普通
 腐化物少量、ローム少、埴土少量
 Pi4 黑褐色土 热性普通 締まり普通
 腐化物少量、ローム少
 Pi5 黑褐色土 热性普通 締まり普通
 ローム少量
 Pi6 黑褐色土 热性普通 締まり普通
 腐化物少量、ローム少

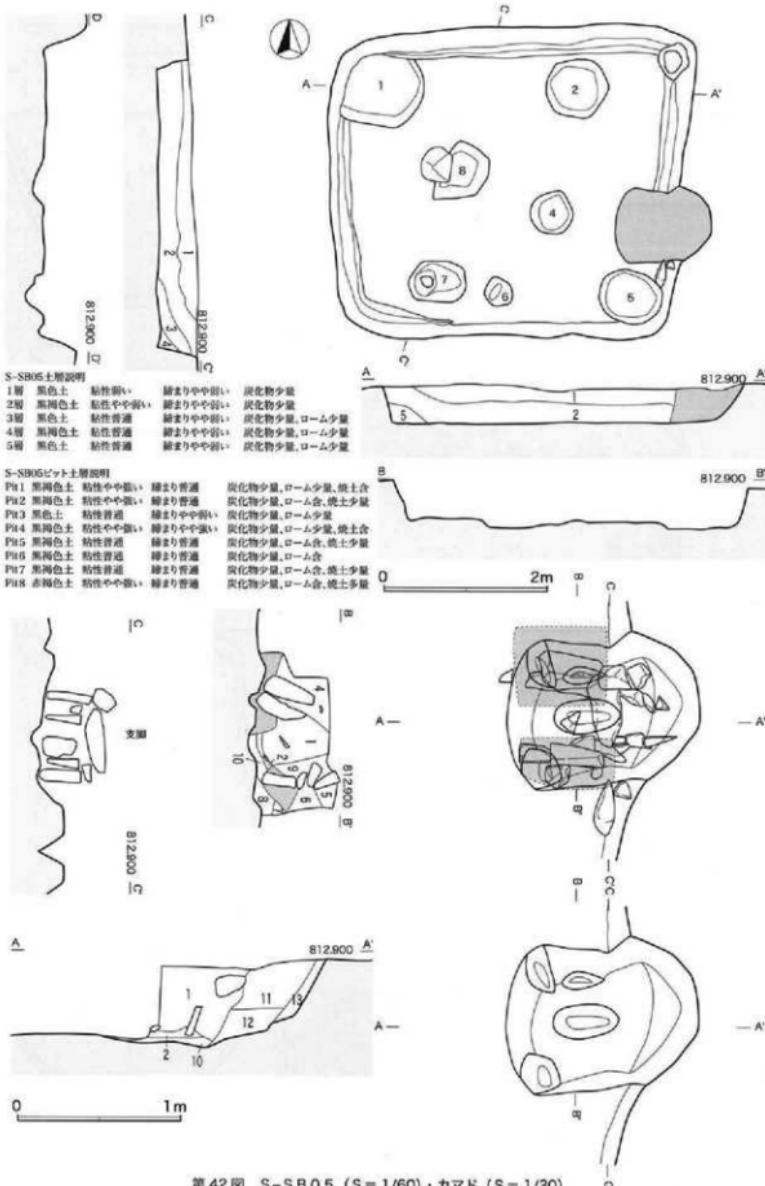
第39図 S-SB04 (S = 1/80)



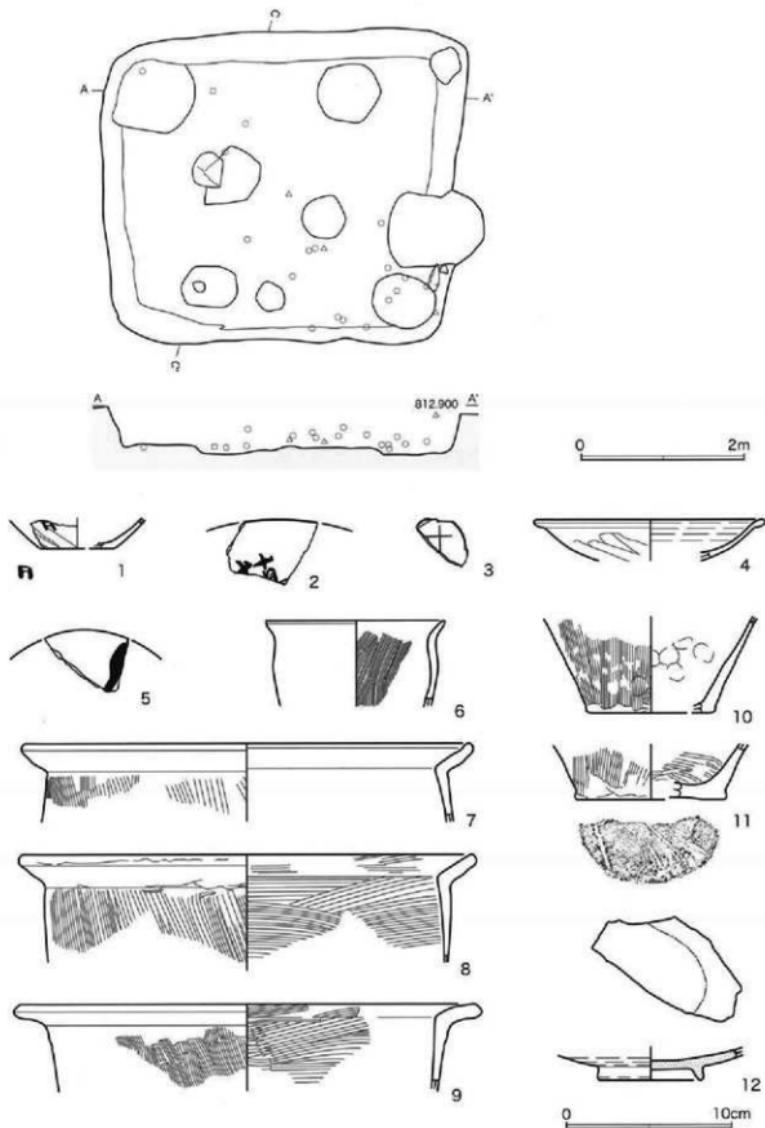
第40図 S-SB04カマド ($S = 1/30$)・遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物 ($S = 1/3$)



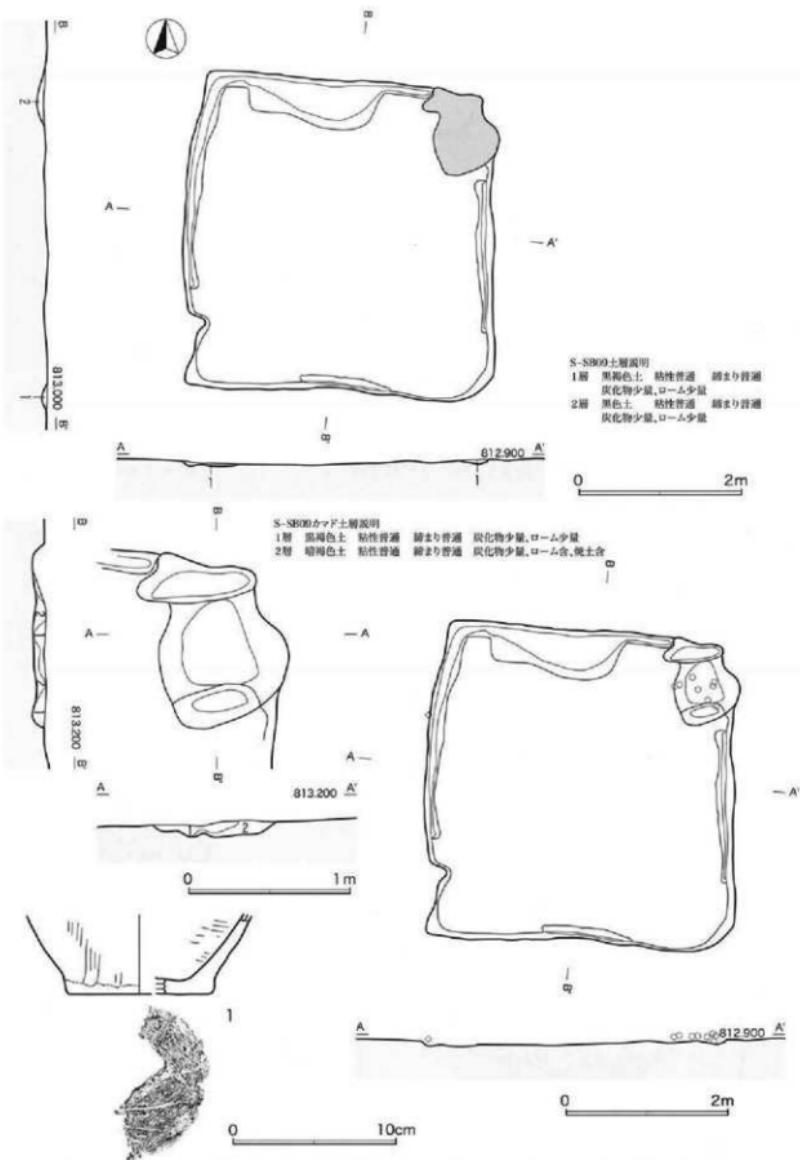
第41図 S-SB04出土遺物2 (S = 1/3)



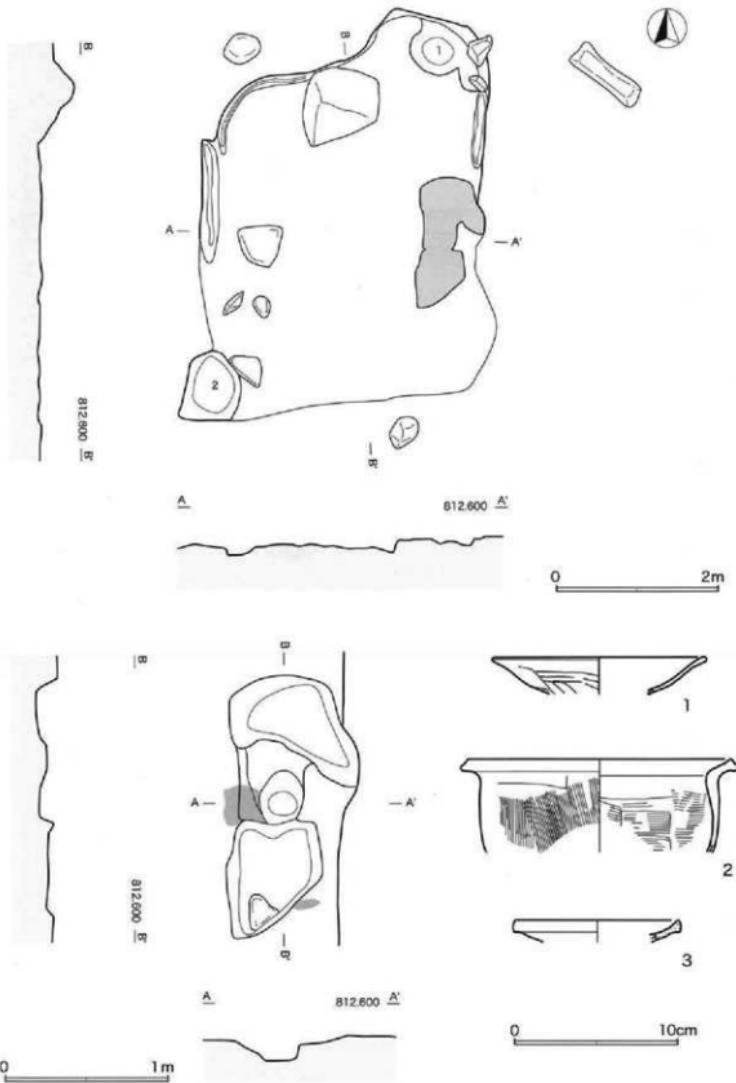
第42図 S-SB05 ($S=1/60$)・カマド ($S=1/30$)



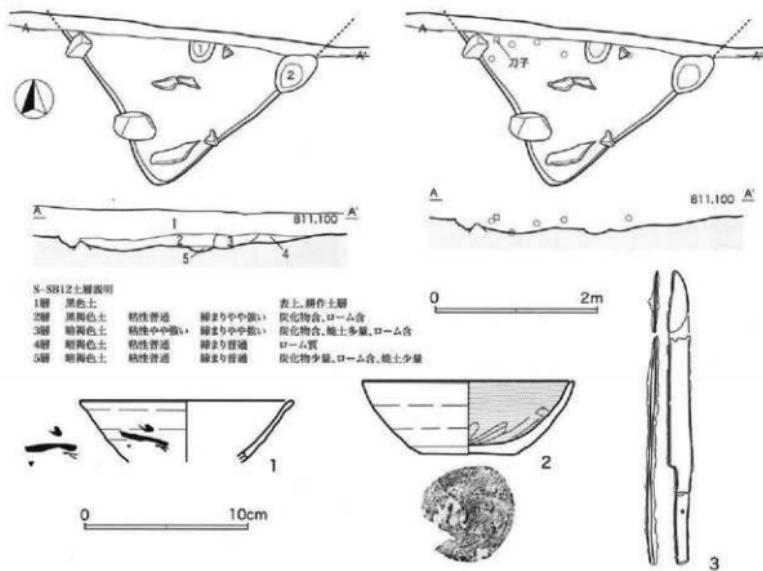
第43図 S-S B 05遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物 ($S = 1/3$)



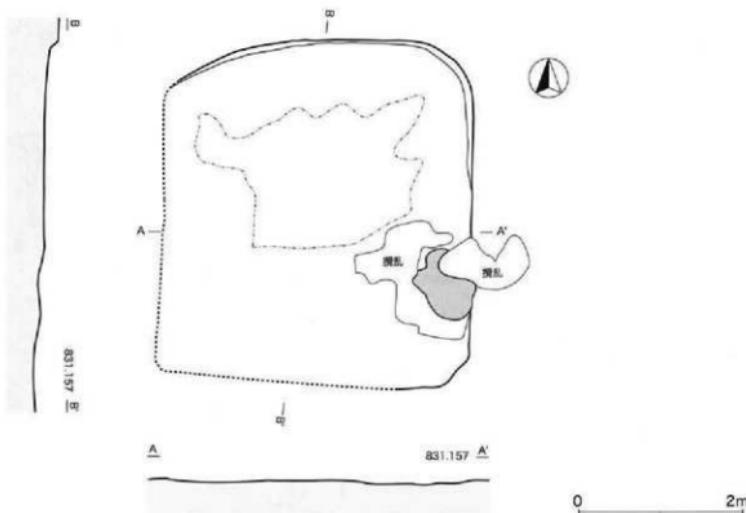
第44図 S-SB09 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)・遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



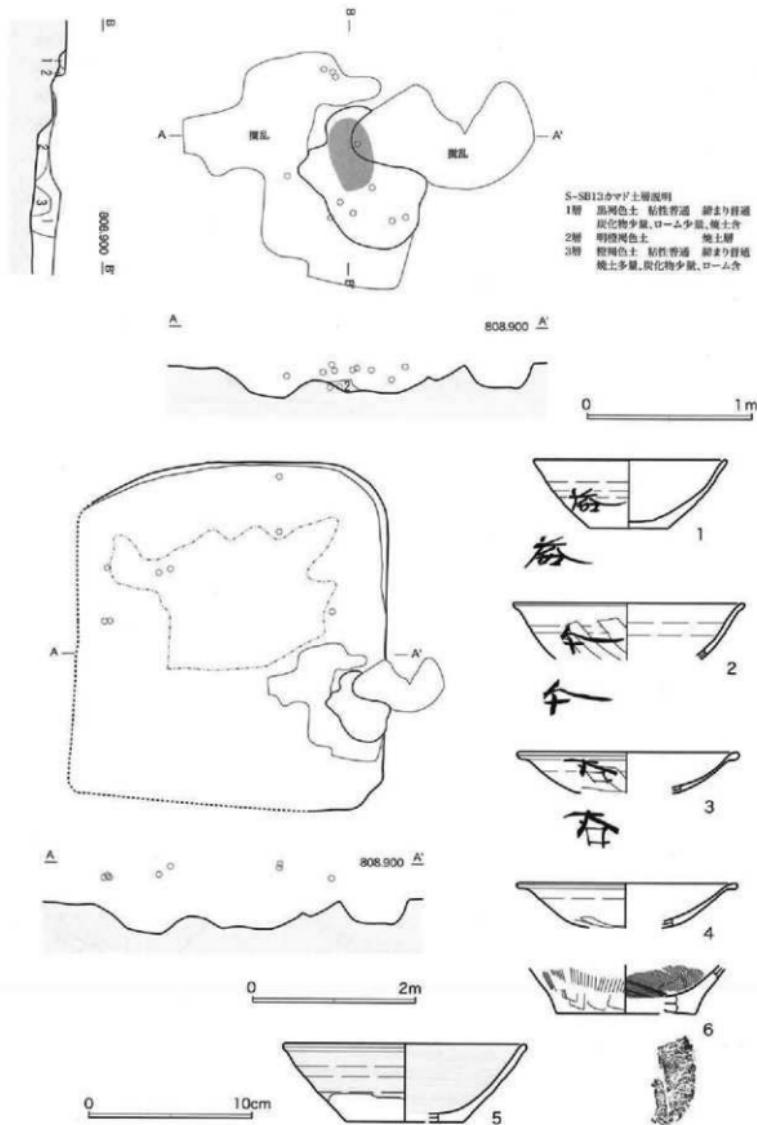
第45図 S-SB 10 ($S = 1/60$)・カマド ($S = 1/30$)・出土遺物 ($S = 1/3$)



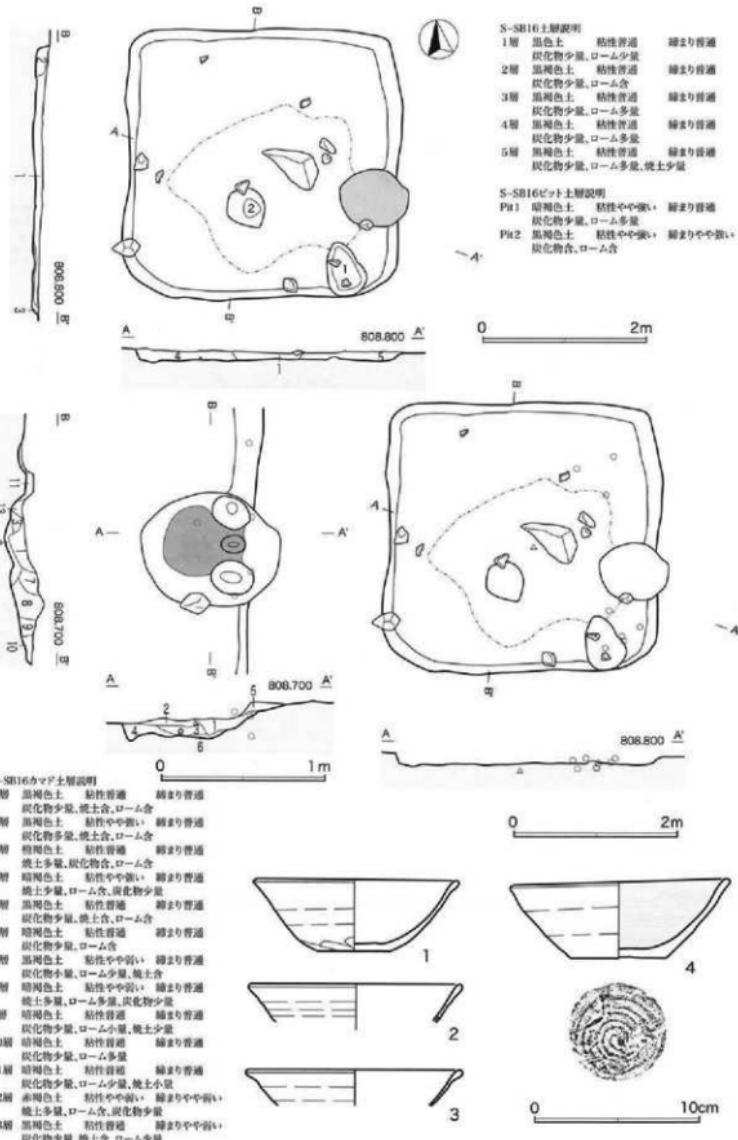
第46図 S-SB12 (S = 1/60)・遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



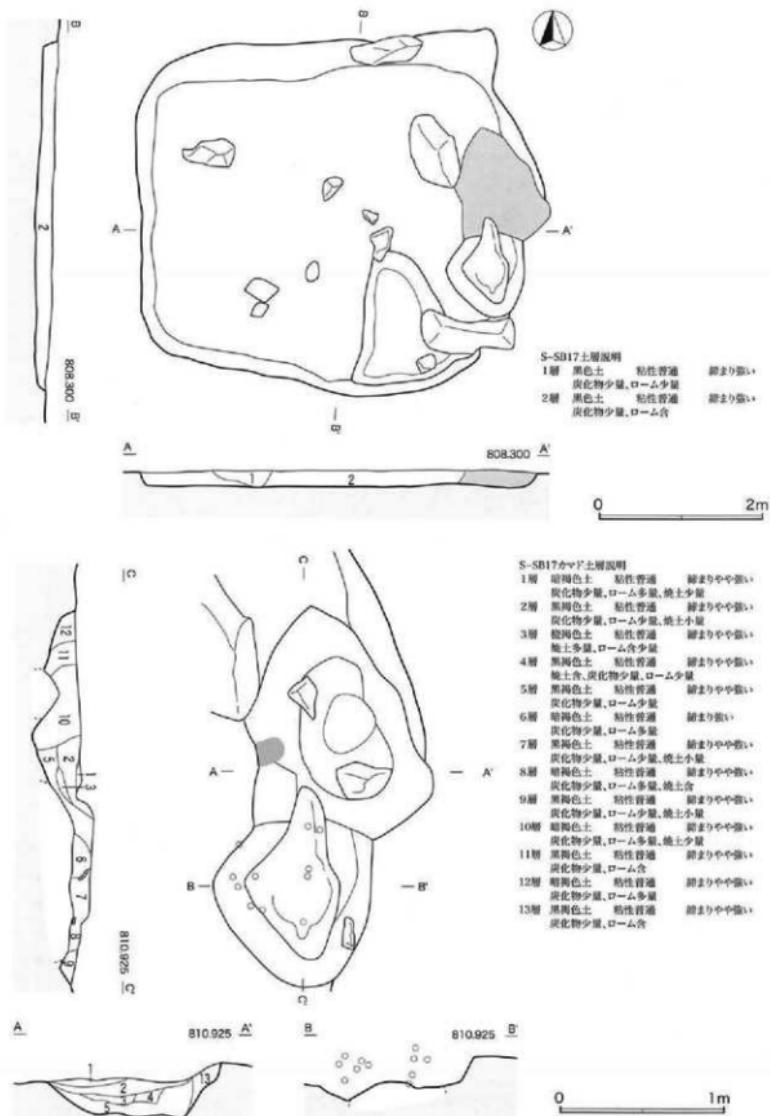
第47図 S-SB13 (S = 1/60)



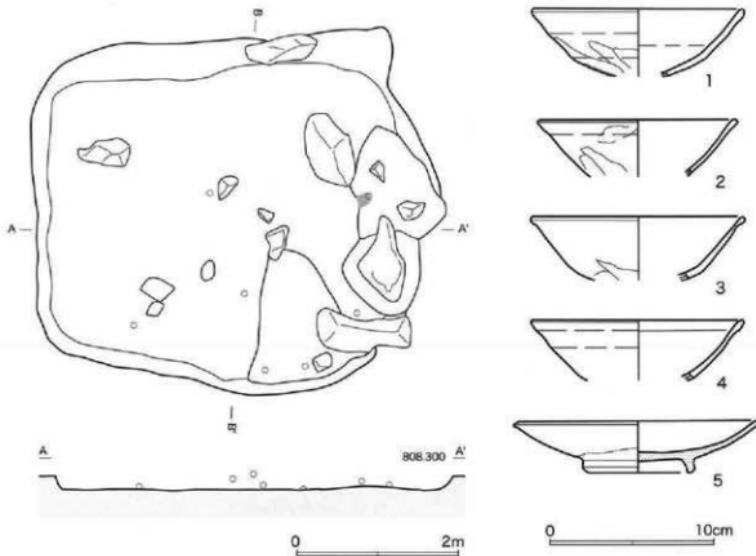
第48図 S-SB13カマド ($S = 1/30$)・遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物 ($S = 1/3$)



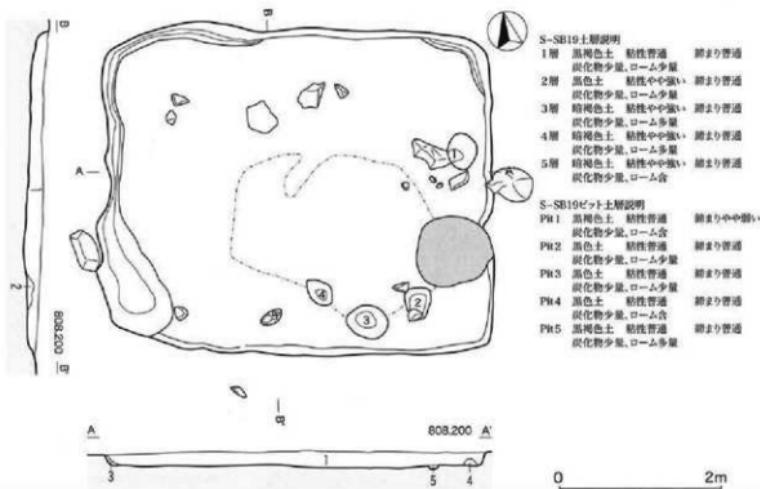
第49図 S-SB16 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)・遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



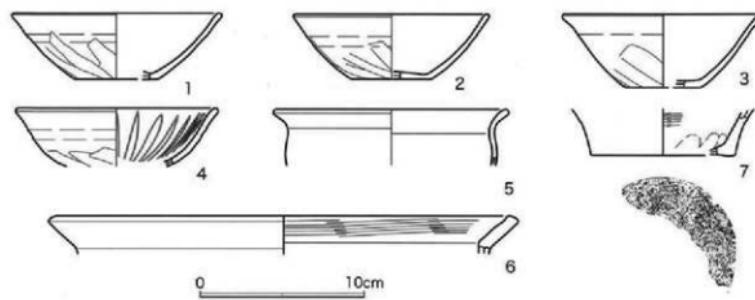
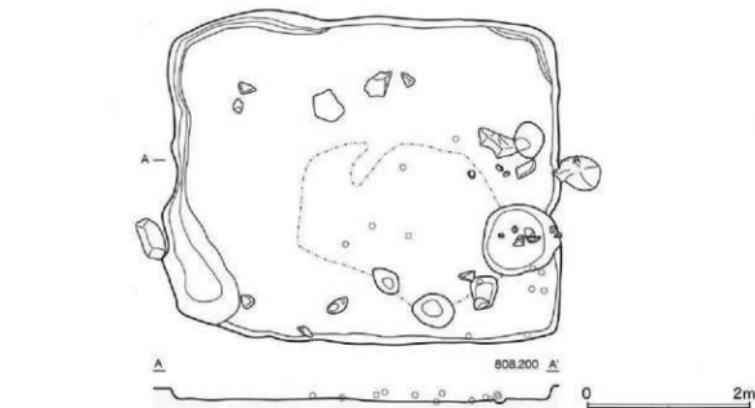
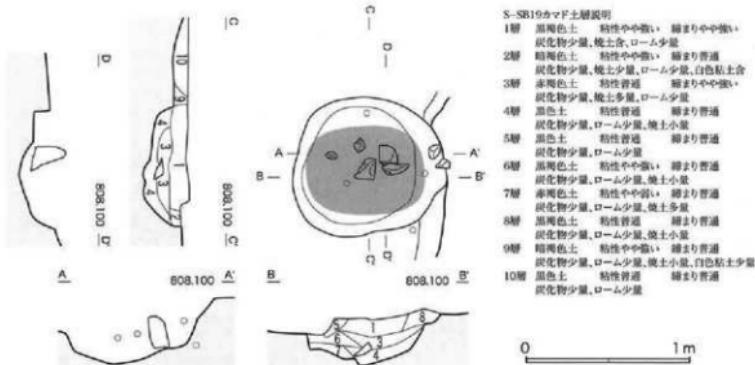
第50図 S-SB17 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)



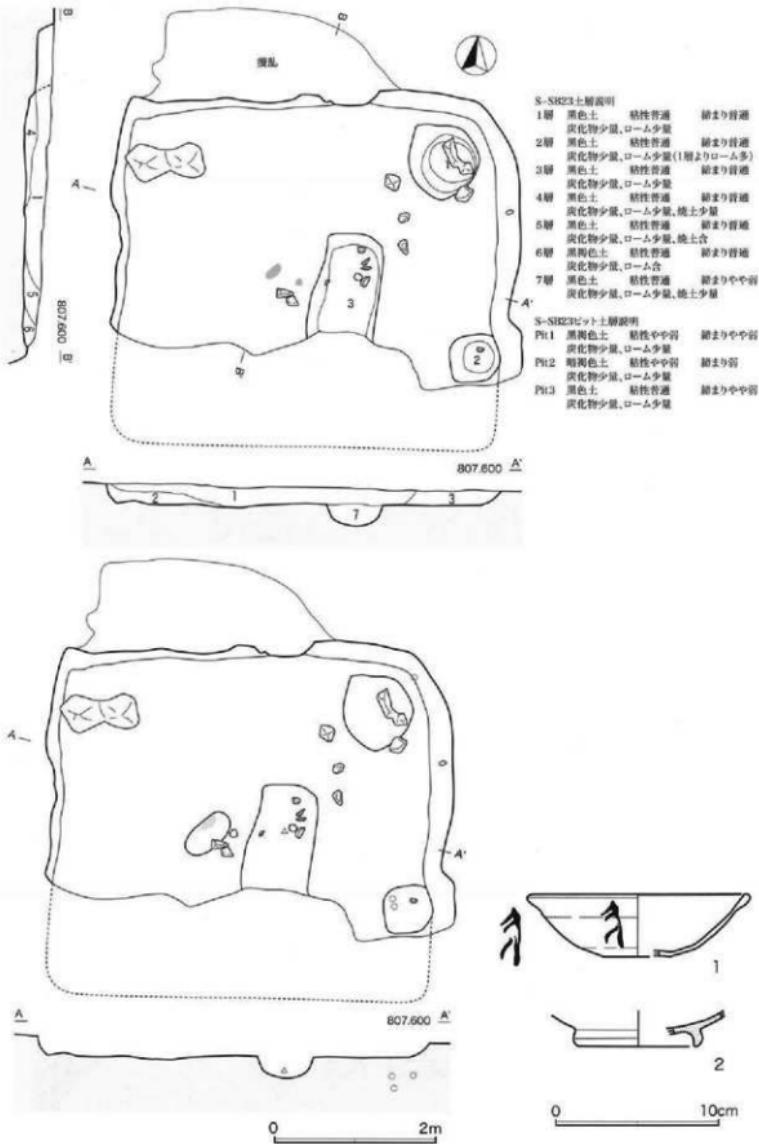
第51図 S-SB17カマド (S = 1/30)・遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



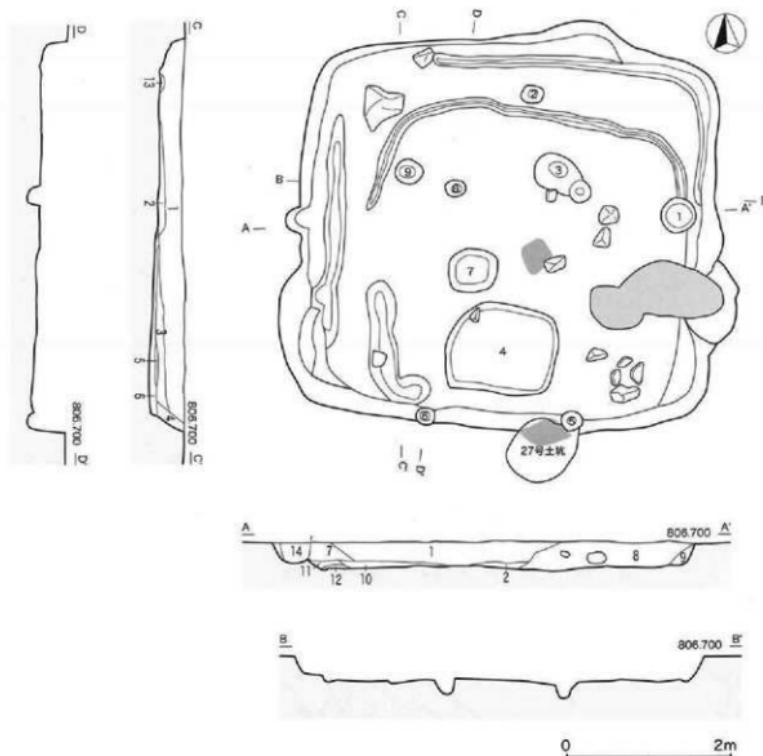
第52図 S-SB19 (S = 1/60)



第53図 S-SB19カマド (S=1/30)・遺物分布図 (S=1/60)・出土遺物 (S=1/3)



第54図 S-SB23 (S = 1/60)・遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



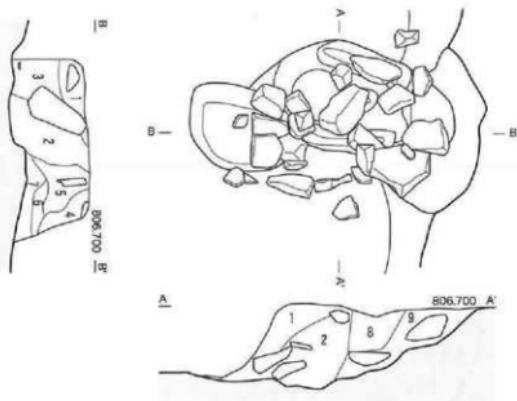
S-SB25上部説明

1層	黒褐色土	粘性普通	縮まりやや弱	炭化物少量、ローム少量、炭土少量
2層	黒褐色土	粘性普通	縮まりやや強	炭化物少量、ローム少量、炭土少量
3層	黒褐色土	粘性普通	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量、炭土微量
4層	黒褐色土	粘性やや強	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量、炭土微量
5層	暗褐色土	粘性強	縮まり強	見無
6層	黒褐色土	粘性やや強	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量
7層	黒褐色土	粘性やや強	縮まり普通	炭化物少量、ローム含
8層	黒褐色土	粘性普通	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量、炭土少量
9層	黒褐色土	粘性やや強	縮まりやや弱	炭化物少量、ローム少量
10層	黒褐色土	粘性やや強	縮まりやや弱	炭化物少量、ローム少量
11層	暗褐色土	粘性強	縮まり強	ローム質土(固末)
12層	黒褐色土	粘性やや強	縮まりやや弱	炭化物少量、ローム少量
13層	暗褐色土	粘性やや強	縮まりやや弱	炭化物少量、ローム多量
14層	黒褐色土	粘性やや強	縮まり普通	炭化物少量、ローム含

S-SB25下部説明

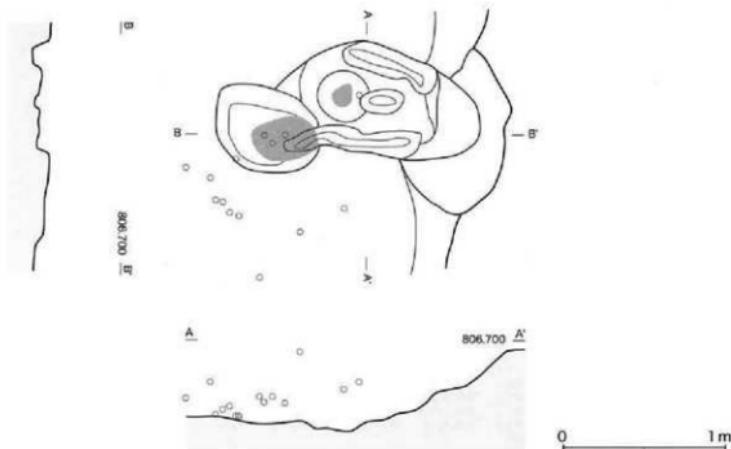
Pt1	黒褐色土	粘性普通	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量
Pt2	黒褐色土	粘性普通	縮まり普通	炭化物少量、ローム含
Pt3	黒褐色土	粘性やや強	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量
Pt4	黒褐色土	粘性やや強	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量
Pt5	完解済			
Pt6	完解済			
Pt7	黒褐色土	粘性やや強	縮まり普通	炭化物少量、ローム含
Pt8	完解済			
Pt9	黒褐色土	粘性普通	縮まり普通	炭化物少量、ローム少量

第55図 S-SB25 (S = 1/60)

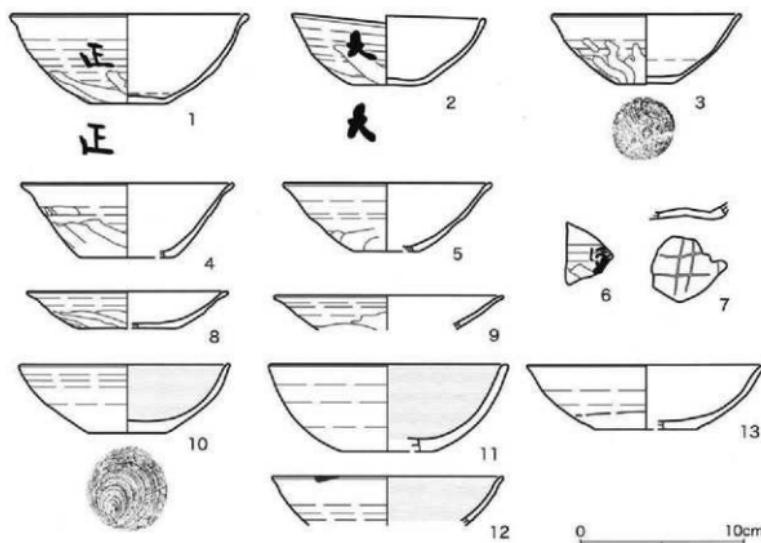
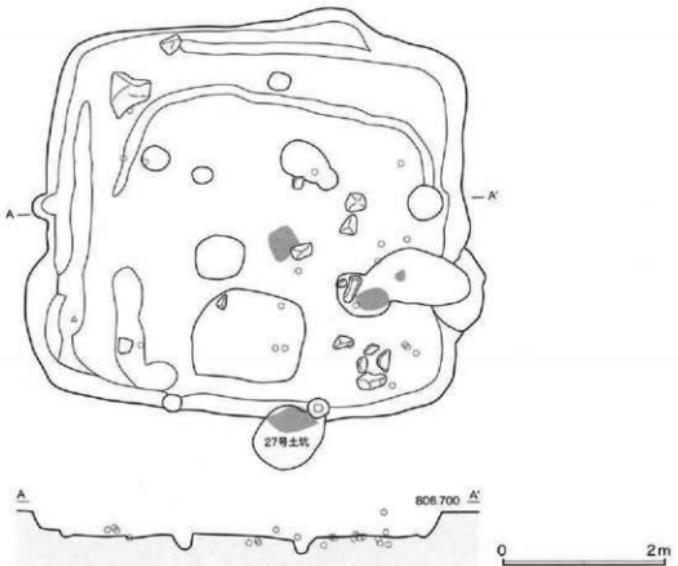


S-SB25カマド上層説明

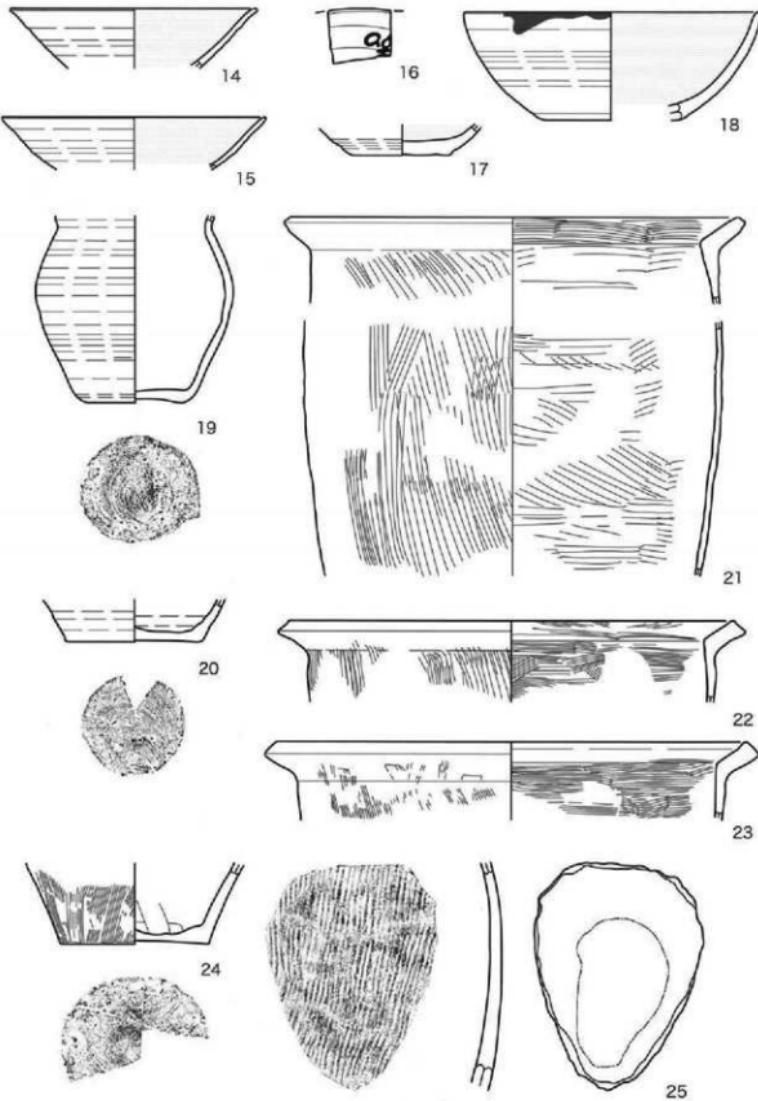
1層	黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物合、ローム少量、純土少量、白色粘土少量
2層	黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物合、ローム少量、純土合、白色粘土ブロック状に含
3層	黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量、ローム少量、純土多量
4層	黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量、ローム少量、純土少量
5層	黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量、ローム合、純土少量、白色粘土ブロック状に含
6層	黒褐色土	粘性普通	締まり普通	炭化物少量、ローム多量
7層	黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量、ローム少量
8層	黒褐色土	粘性やや弱	締まりやや弱	炭化物少量
9層	黒褐色土	粘性やや強	締まり普通	炭化物少量、ローム少量



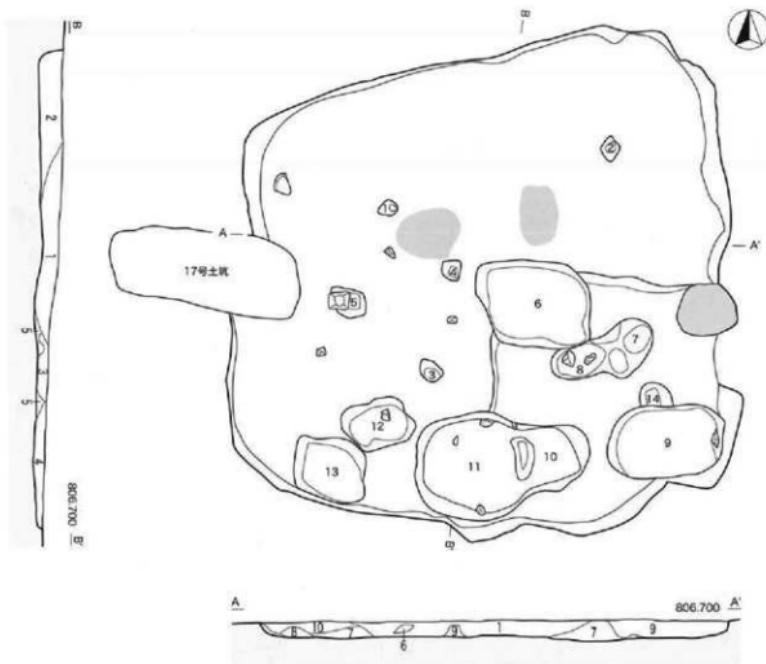
第56図 S-SB25カマド ($S = 1/30$)



第57図 S-SB25遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物1 ($S = 1/3$)



第58図 S-SB25出土遺物2 (S=1/3)



S-SB26地図説明

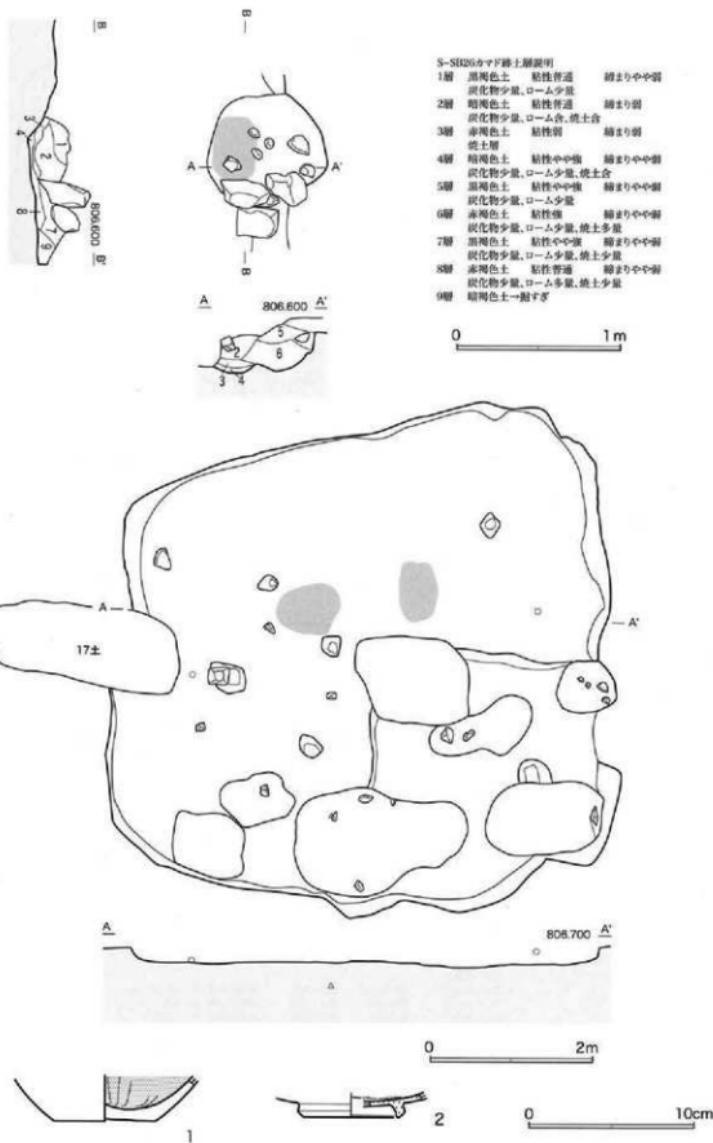
1層 黒色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少量、ローム少量
2層 黒色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少量、ローム含
3層 黒褐色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少量、ローム少量
4層 黒色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少量、ローム少量
5層 褐褐色土	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少量、ローム含
6層 褐褐色土	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少量、ローム少量、土壌含
7層 褐褐色土	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少量、ローム含
8層 黒褐色土	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少量、ローム少量、土壌多量
9層 黒色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少量、ローム少量
10層 黒色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少量、ローム少量

S-SB26ヒット土層説明

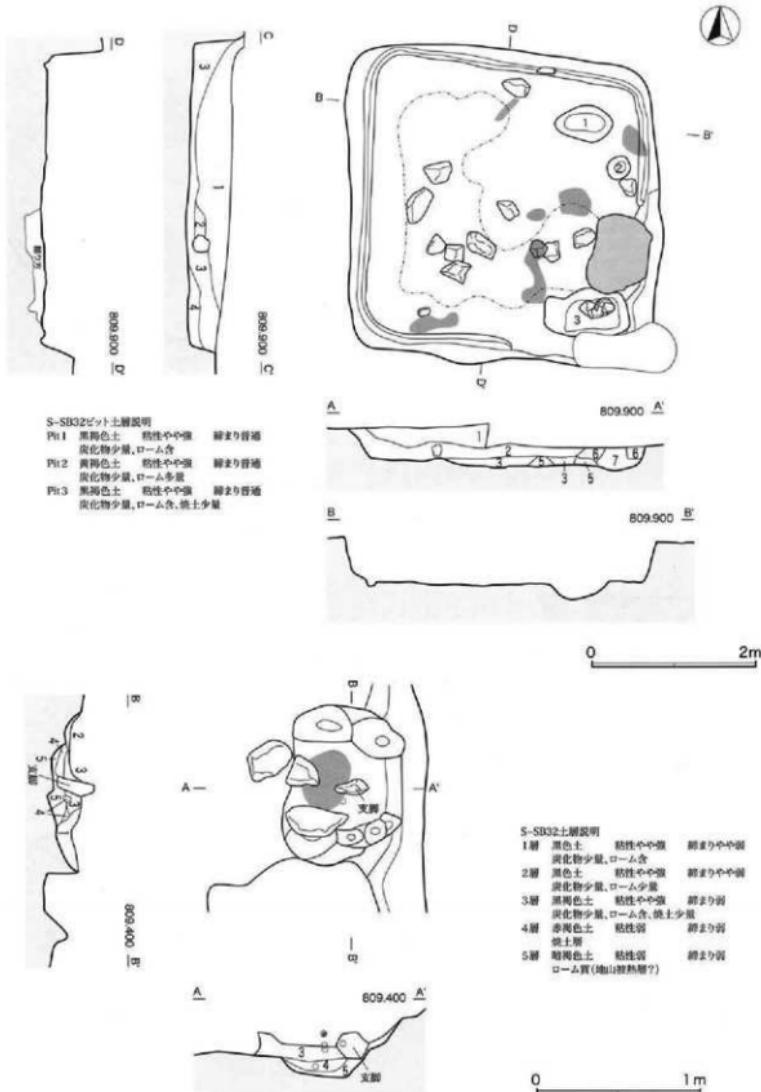
PW1 黒褐色	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少量、ローム含
PW2 黒褐色	粘性普通	細まり普通	炭化物少里、ローム含
PW3 黒褐色	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少里、ローム少量
PW4 黒褐色	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少里、ローム含
PW5 黒色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少里、ローム少量
PW6 黒色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少里、ローム少量
PW7 完成土			
PW8 元耕作			
PW9 黑褐色	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少里、ローム含、ロームブロック含(单一層)
PW10 黑褐色	粘性普通	細まり普通	炭化物少里、ローム含、ロームブロック少量(单一層)
PW11 黑色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少里、ローム少量
PW12 黑色土	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少里、ローム含
PW13 黑色土	粘性や少粘	細まり普通	炭化物少里、ローム含

0 2m

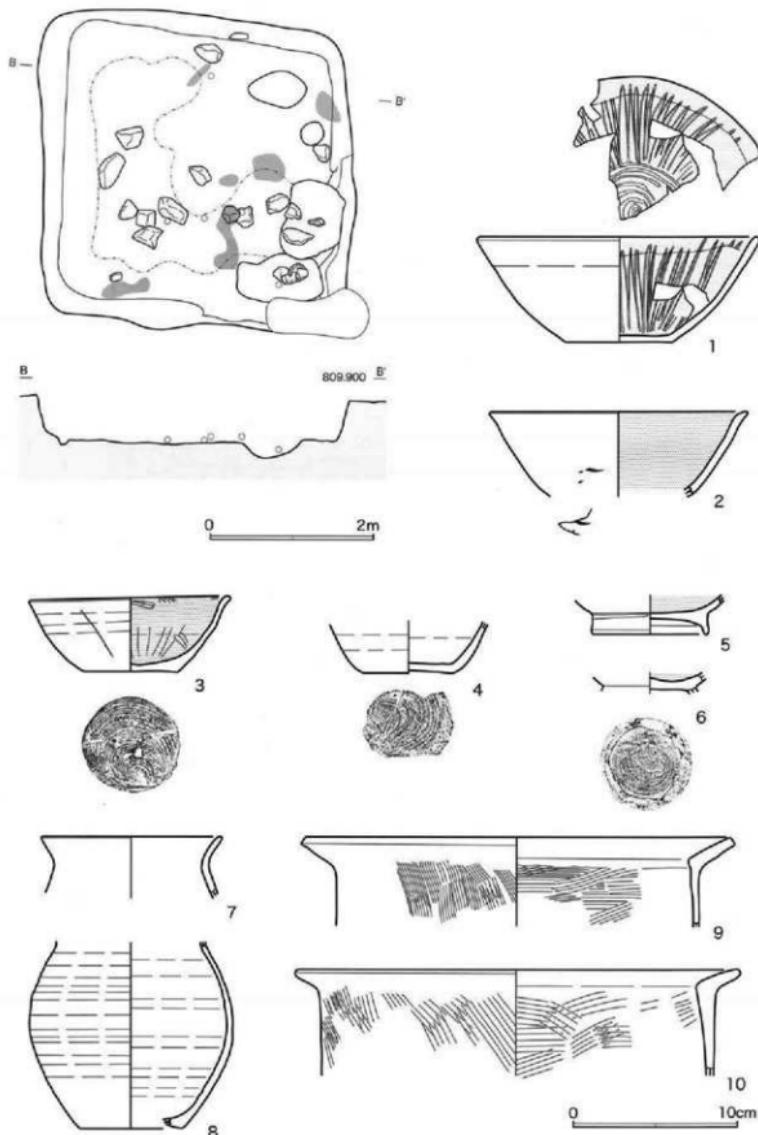
第59図 S-SB26 (S = 1/60)



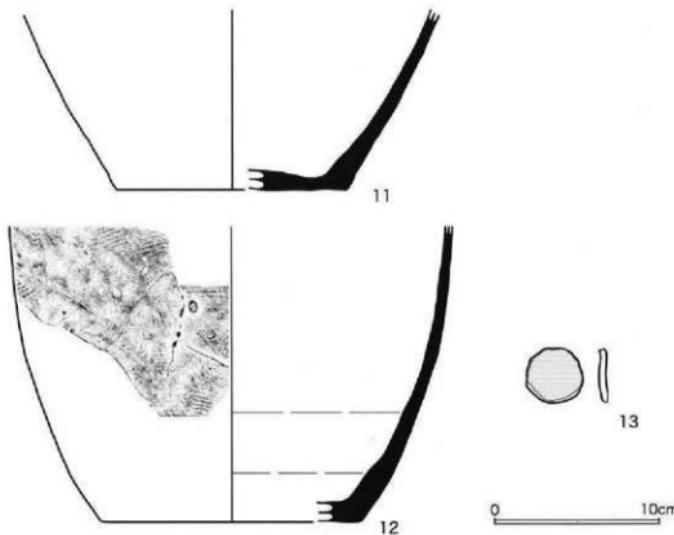
第60図 S-SB26 (S = 1/60)・遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



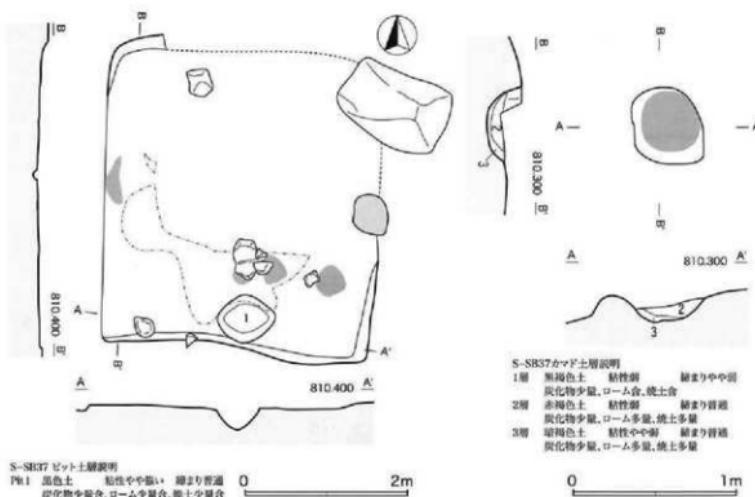
第 61 図 S-SB32 (S = 1/80)・カマド (S = 1/30)



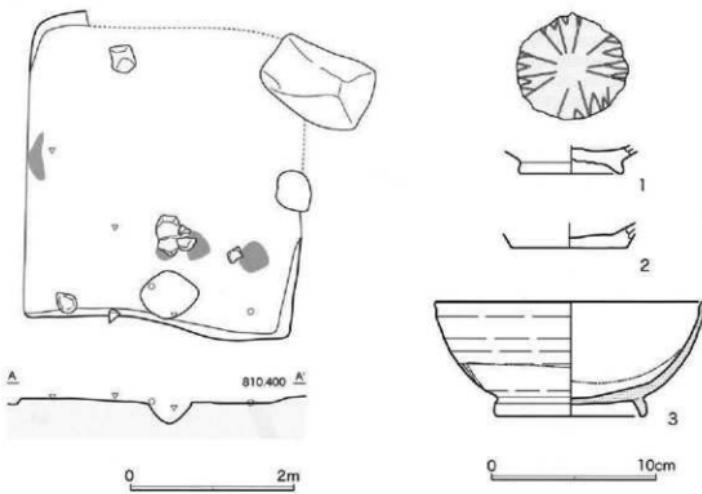
第62図 S-SB 3.2遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物1 (S = 1/3)



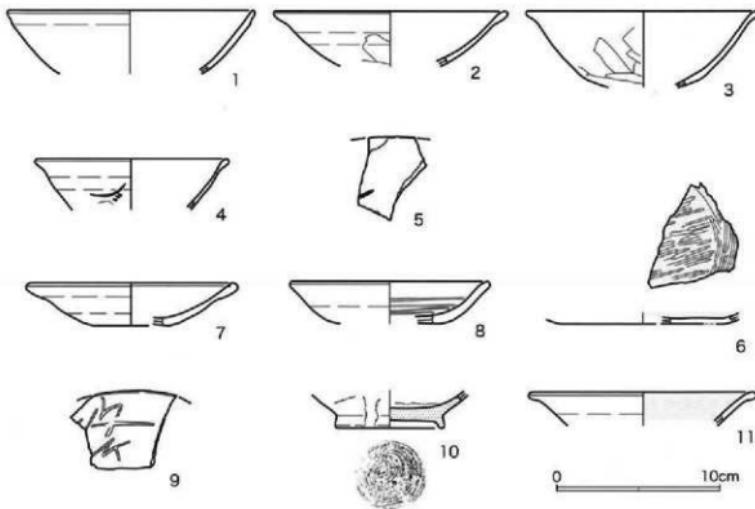
第63図 S-SB32出土遺物2 (S = 1/3)



第64図 S-SB37 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)

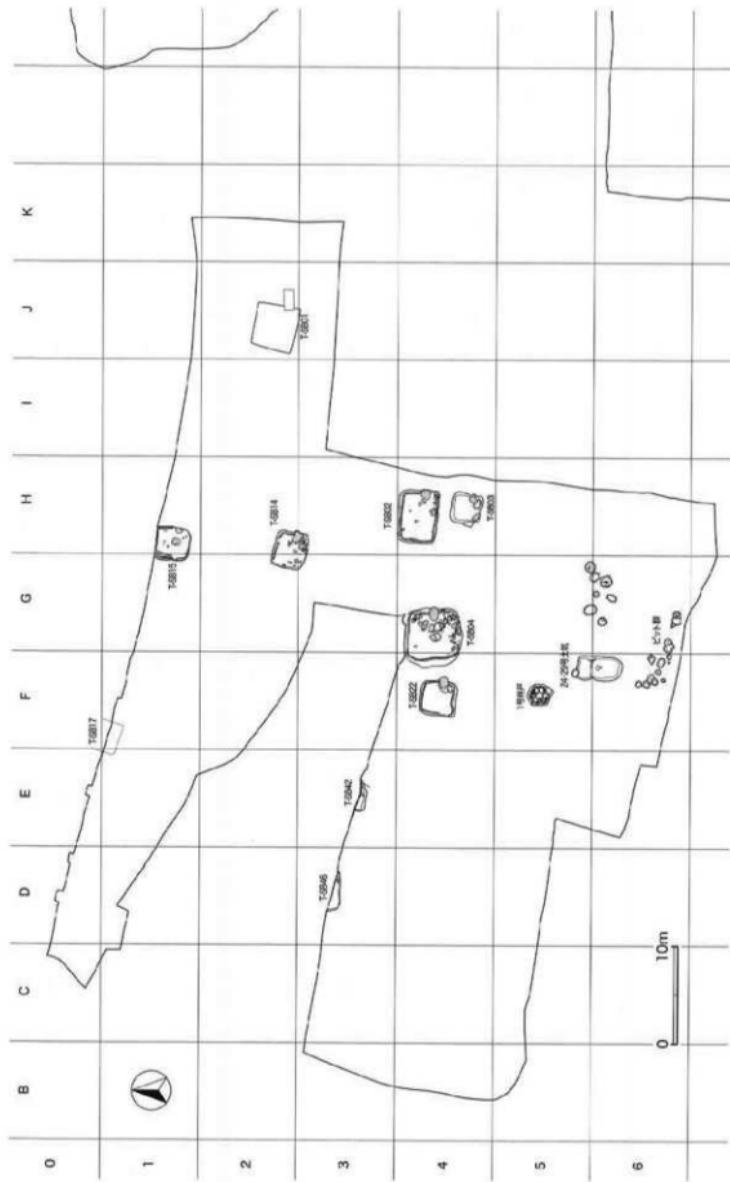


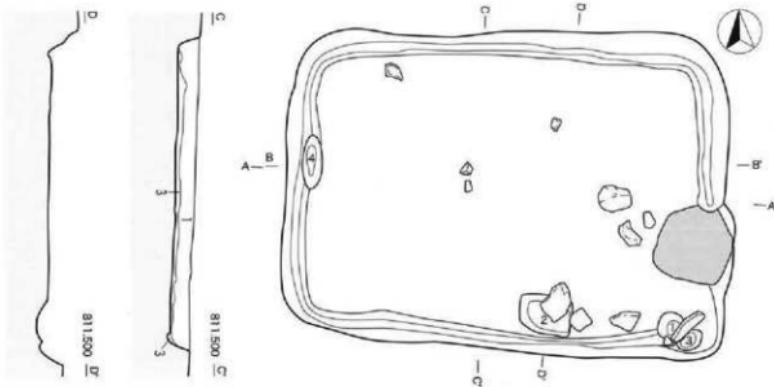
第65図 S-SB 37遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



第66図 S地区遺構外出土遺物 (S = 1/3)

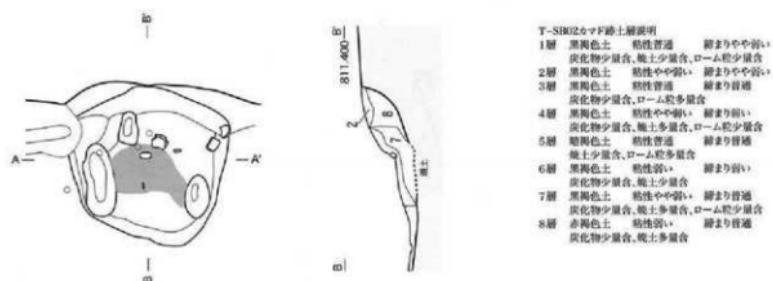
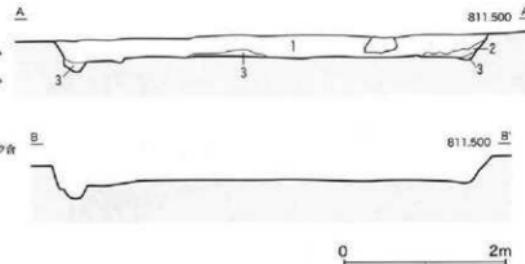
第67圖 T地區調查區全休圖 ($S = 1/500$)



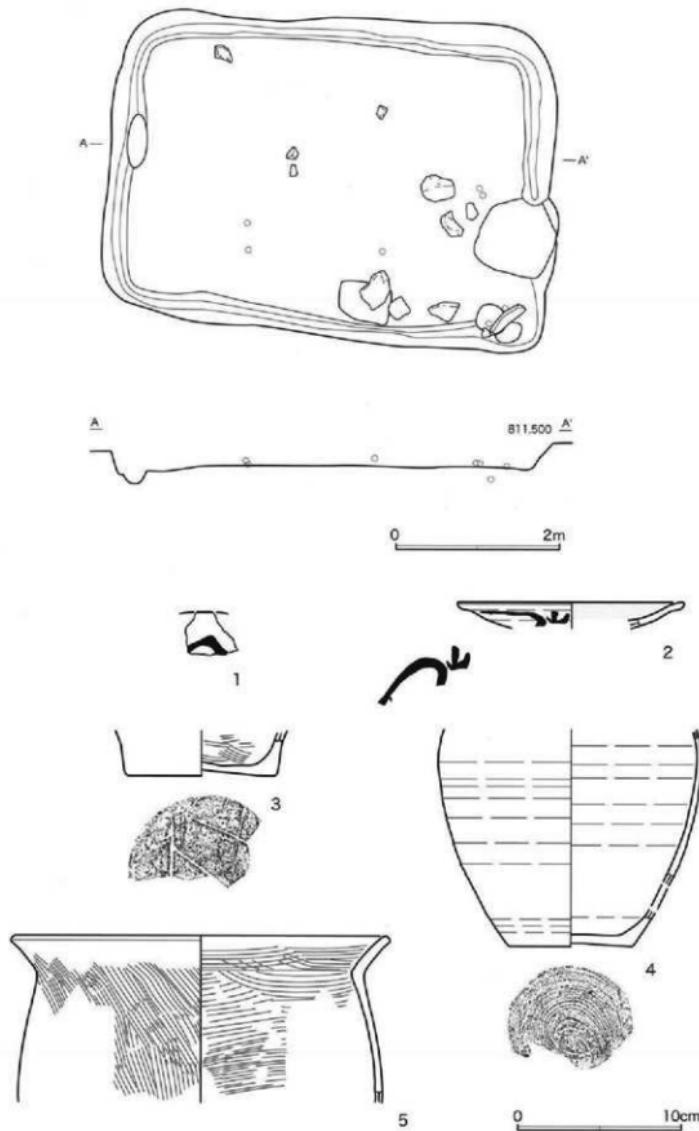


T-SB02土層説明
1層 黒褐色土 粘性弱い 繊まり弱い
炭化物少量合、ローム粒少量合
2層 黒褐色土 粘性普通 繊まりやや弱い
炭化物少量合、ローム粒合
3層 黒褐色土 粘性やや弱い 繊まりやや弱い
炭化物少量合、ローム粒少量合

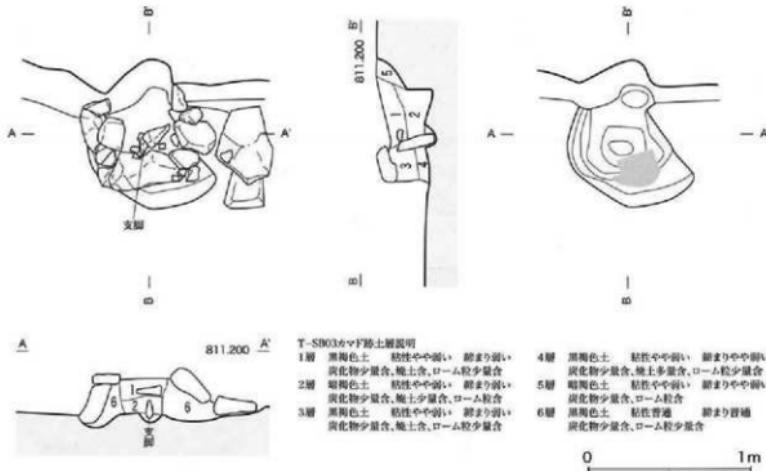
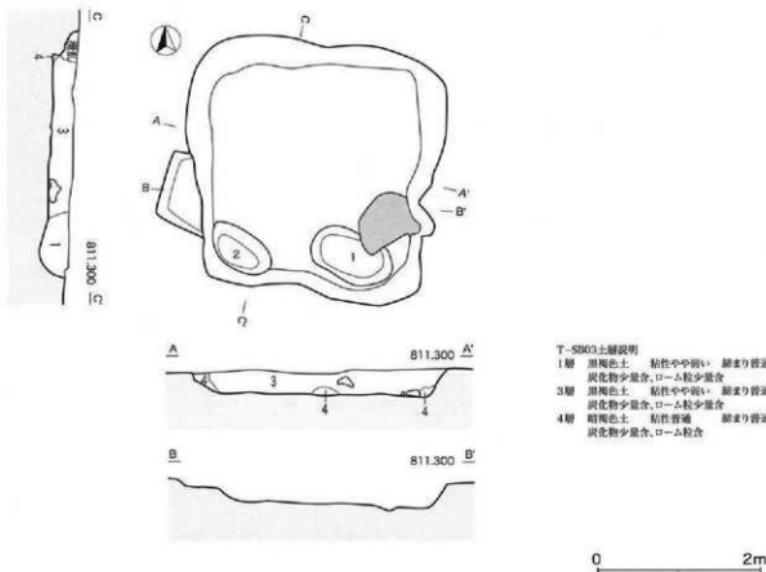
T-SB02ピット土層説明
Pit 1 黒褐色土 粘性普通 繊まり普通
炭化物少量合、ローム粒少量合、ロームブロック合



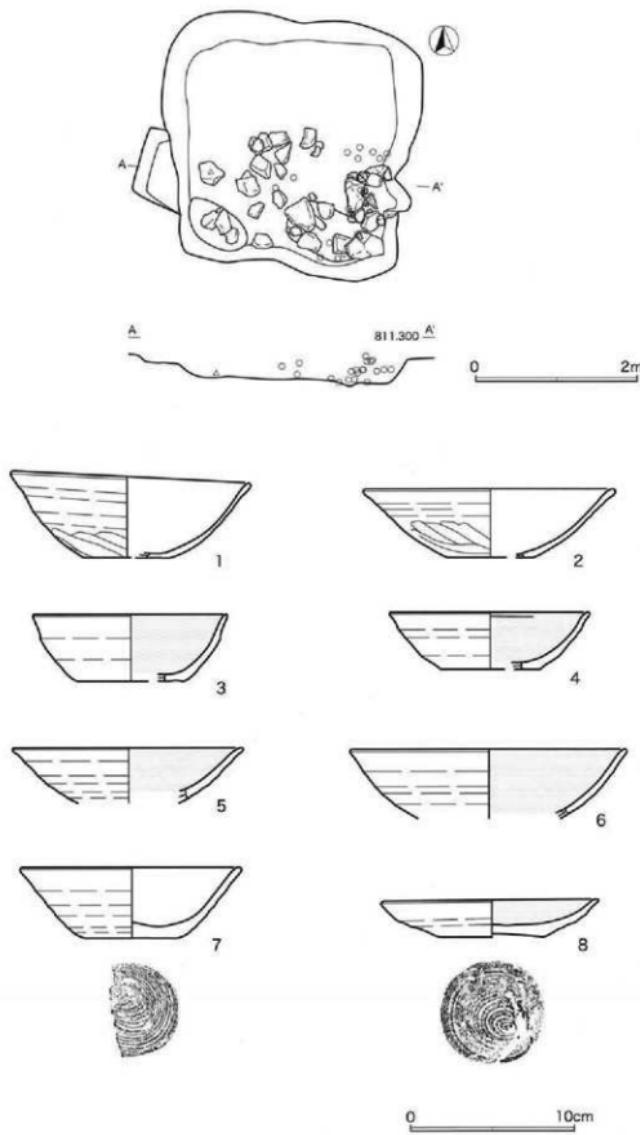
第68図 T-SB02 (S=1/60)・カマド (S=1/30)



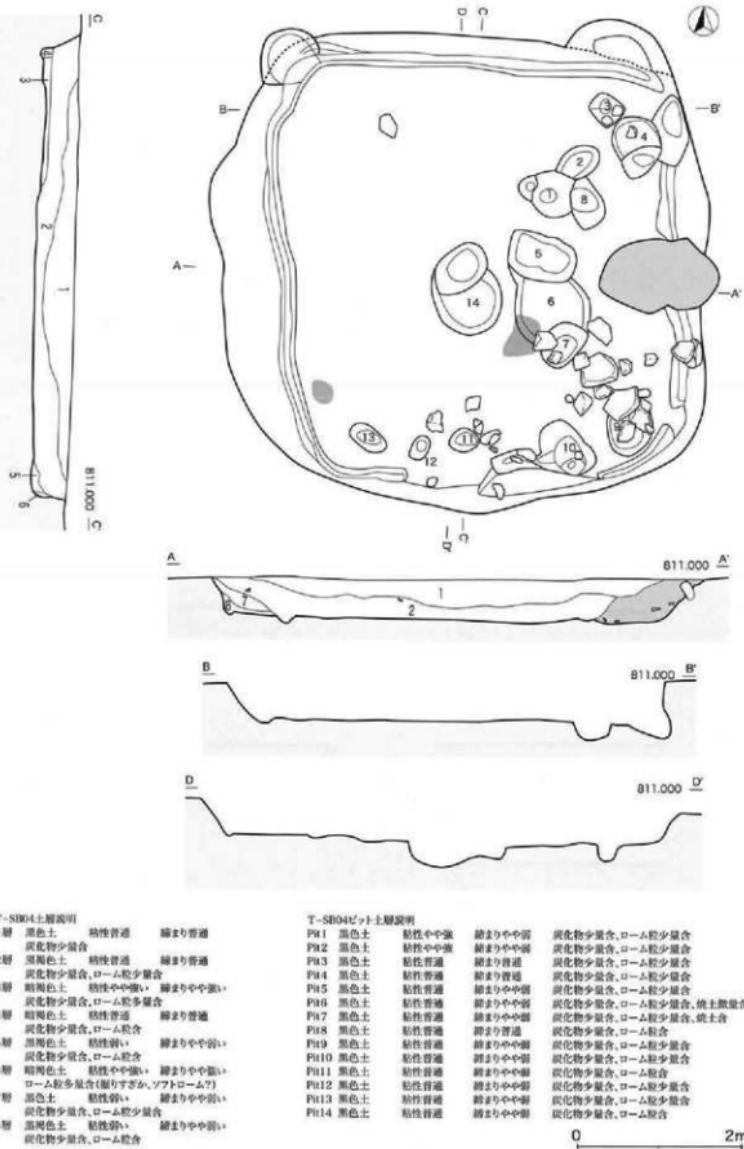
第 69 図 T-SB 02 遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物 ($S = 1/3$)

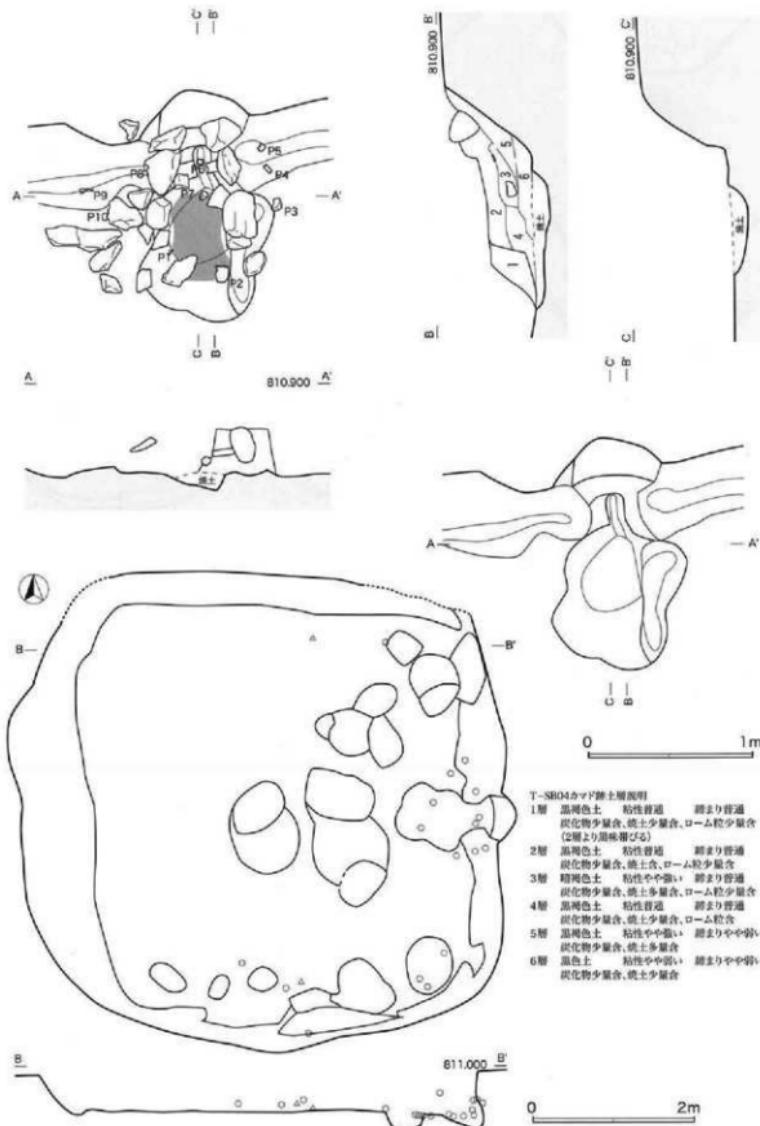


第70図 T-SB03 (S=1/60)・カマド (S=1/30)

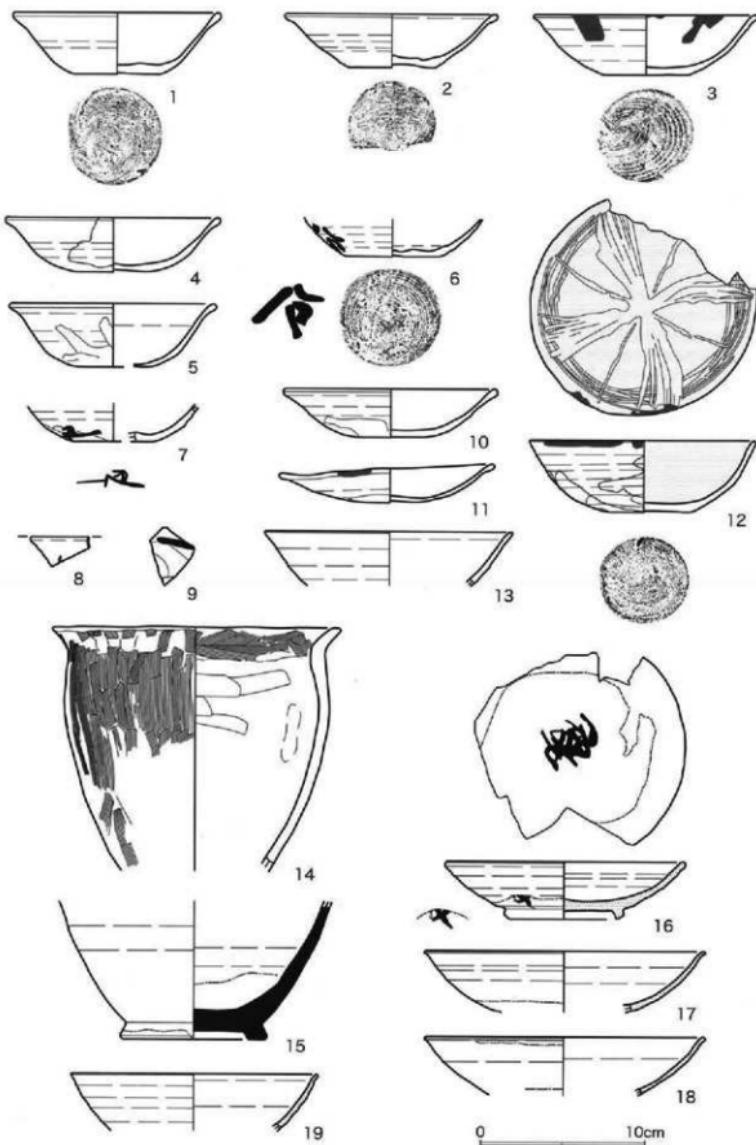


第71図 T-SB 03遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物 ($S = 1/3$)

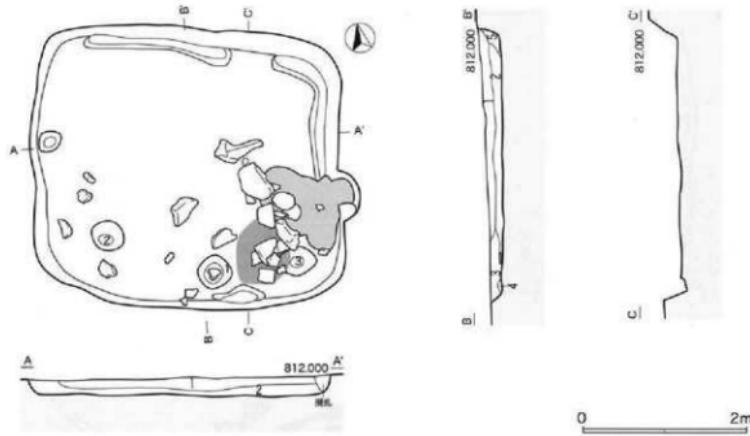




第73図 T-SB04カマド ($S = 1/30$)・遺物分布図 ($S = 1/60$)

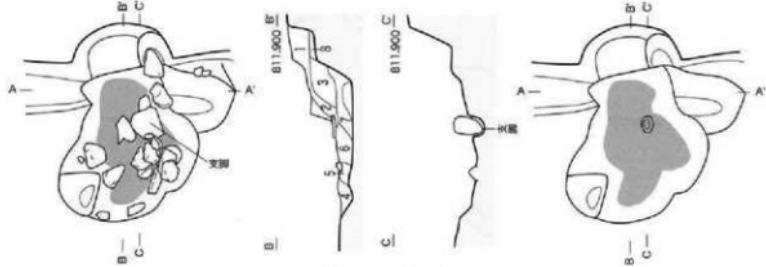


第74図 T-S B04出土遺物 (S = 1/3)



T-SB14土層説明					
1層 黒色土	粘性弱い	弱さり弱い	炭化物少量含	ローム粒少量含	
2層 黒色土	粘性弱い	弱さり中や弱い	炭化物少量含	施土微量含	ローム粒少量含
3層 黒褐色土	粘性普通	弱さり普通	炭化物少量含	ローム粒少量含	
4層 黒褐色土	粘性普通	弱さり普通	炭化物少量含	ローム粒含	
5層 黒褐色土	粘性弱い	弱さりやや弱い	炭化物少量含	ローム粒少量含	

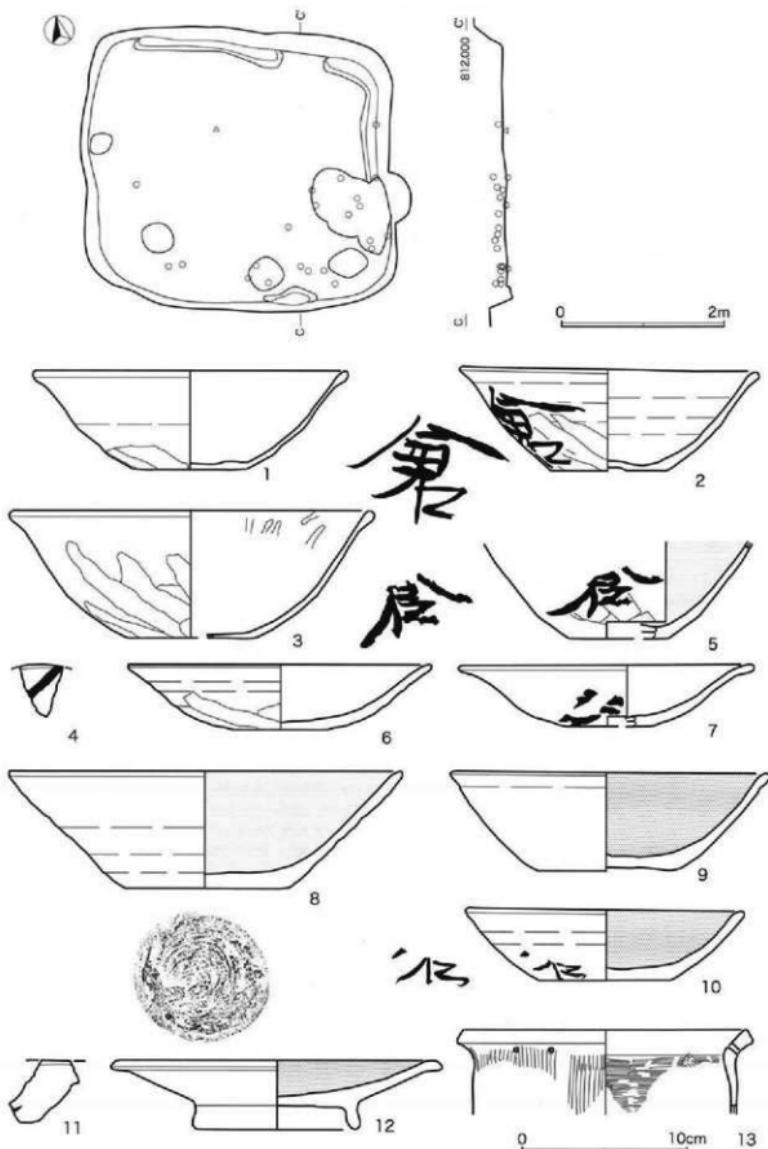
T-SB14ピット土層説明					
Pt1 黑褐色土	粘性やや強	弱さり普通	ローム粒多量含		
Pt2 黑褐色土	粘性普通	弱さり普通	炭化物少量含	ローム粒少量含	
Pt3 黑褐色土	粘性やや強	弱さり普通	炭化物少量含	ローム粒含	



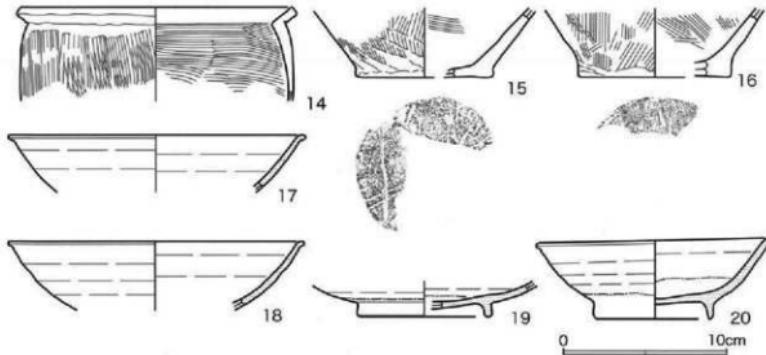
T-SB14カマド跡土層説明					
1層 黒褐色土	粘性普通	弱さり普通	炭化物少量含	ローム粒少量含	
2層 黒褐色土	粘性やや弱い	弱さりやや弱い	炭化物少量含	ローム粒少量含	
3層 黒褐色土	粘性普通	弱さり普通	炭化物少量含	施土少量含	ローム粒含
4層 黒褐色土	粘性やや弱い	弱さりやや弱い	炭化物少量含	ローム粒少量含	
5層 黑褐色土	粘性普通	弱さりやや弱い	炭化物少量含	ローム粒少量含	
6層 黑褐色土	粘性中や弱い	弱さりやや弱い	炭化物少量含	施土少量含	ローム粒少量含
7層 黑褐色土	粘性やや弱い	弱さり普通	炭化物少量含	施土微量含	ローム粒少量含
8層 黑褐色土	粘性普通	弱さり普通	炭化物少量含	ローム粒少量含	
9層 結青褐色土	粘性やや強	弱さりやや強	炭化物少量含	ローム粒少量含	
10層 黑褐色土	粘性やや弱い	弱さりやや弱い	炭化物少量含	ローム粒少量含	
11層 黑褐色土	粘性やや弱い	弱さりやや弱い	炭化物少量含	ローム粒少量含	
12層 結青褐色土	粘性普通	弱さり普通	炭化物少量含	ローム粒多量含(ソテ)	
13層 黑褐色土	粘性やや強	弱さりやや強	炭化物少量含	ローム粒多量含	

0 1m

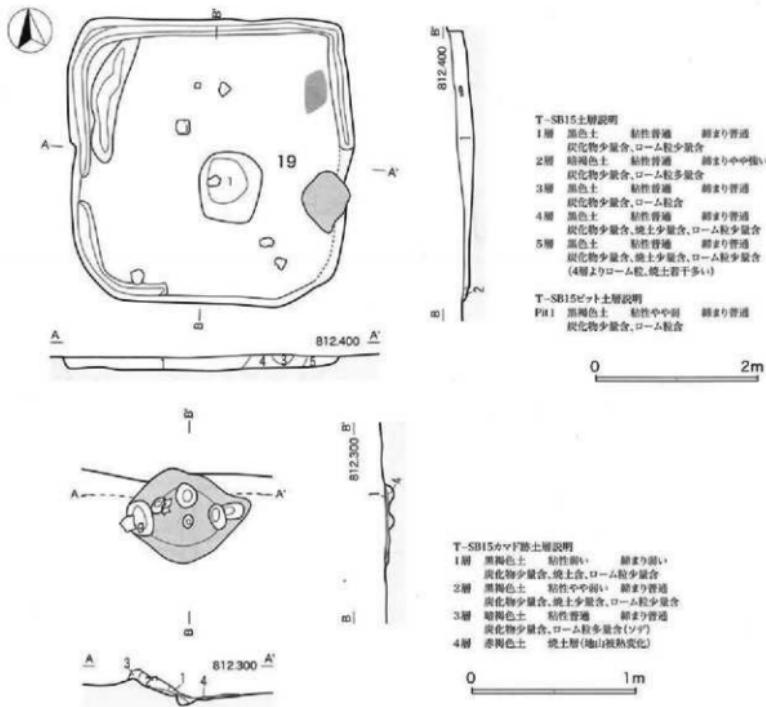
第75図 T-SB14 (S=1/60)・カマド (S=1/30)



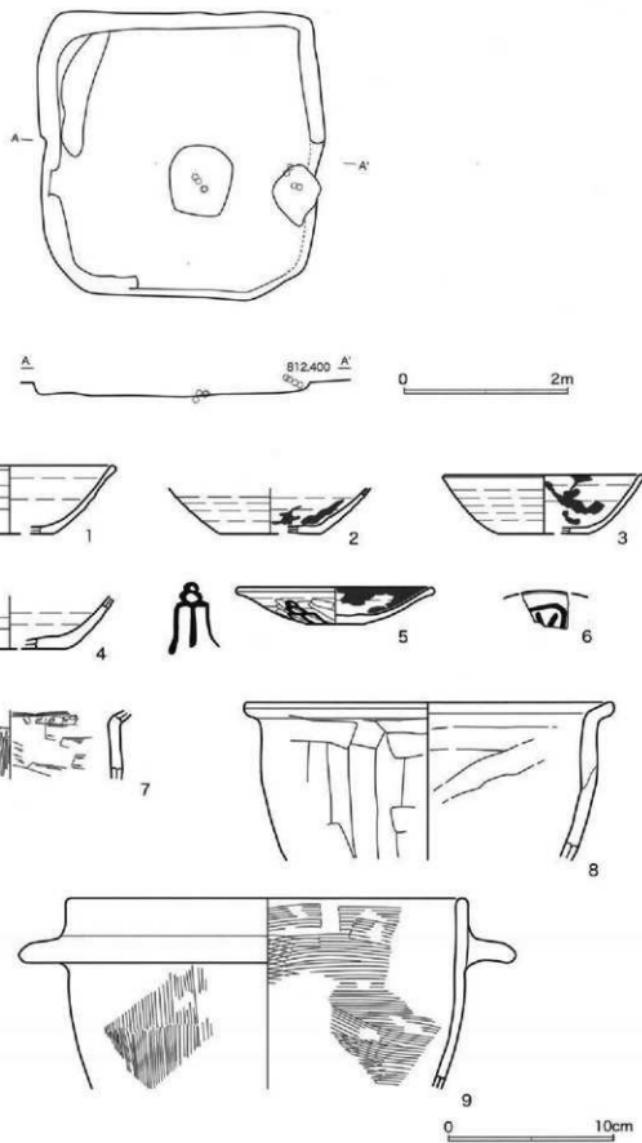
第76図 T-SB 14遺物分布図 ($S = 1/60$)・出土遺物 1 ($S = 1/3$)



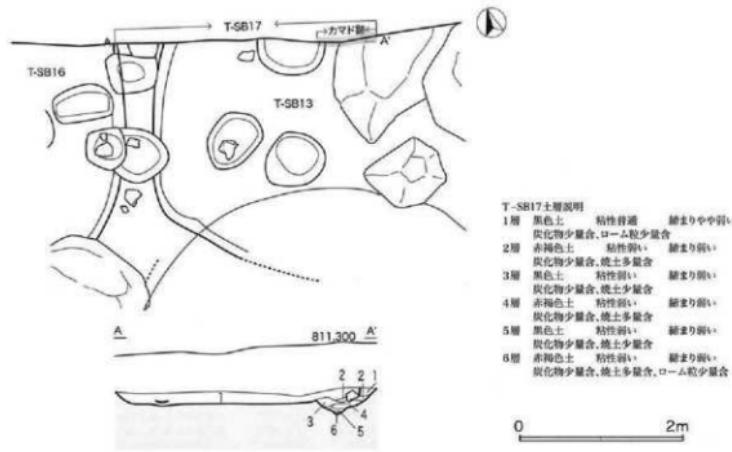
第77図 T-SB14出土遺物2 (S = 1/3)



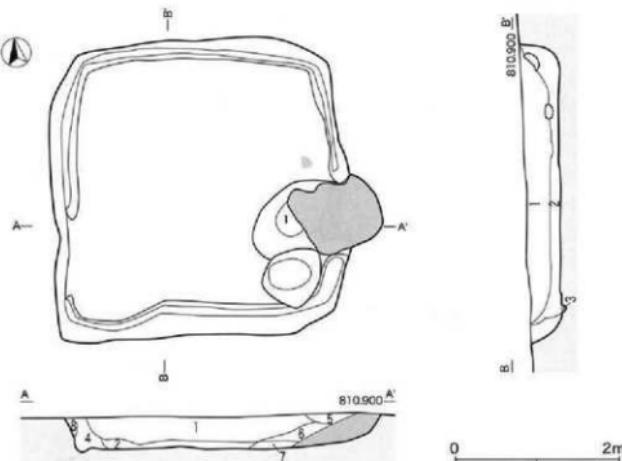
第78図 T-SB15 (S = 1/60)・カマド (S = 1/30)



第 79 図 T-S B 15 遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



第80図 T-SB17 (S = 1/60)



T-SB22 土層説明

1層 黒褐色土 粘性やや弱い 糯まりやや弱い 炭化物少量含、ローム粒少量含

2層 黒色土 粘性やや弱い 糯まり普通 炭化物少量含、ローム粒少量含

3層 黑褐色土 粘性普通 糯まり普通 炭化物少量含、ローム粒含

4層 黒色土 粘性弱い 糯まりやや弱い 炭化物少量含

5層 黑褐色土 粘性やや弱い 糯まり普通 炭化物少量含

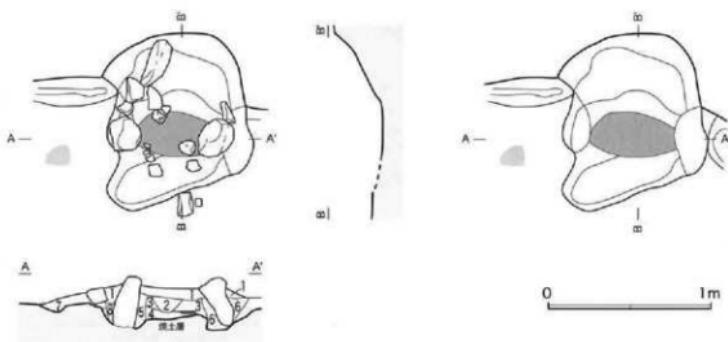
6層 黑褐色土 粘性普通 糯まり普通 炭化物少量含、施工少量含、ローム粒少量含

7層 黑褐色土 粘性普通 糯まり普通 炭化物少量含、施工少量含、ローム粒少量含

8層 黑褐色土 粘性普通 糯まりやや弱い 炭化物少量含、ローム粒少量含

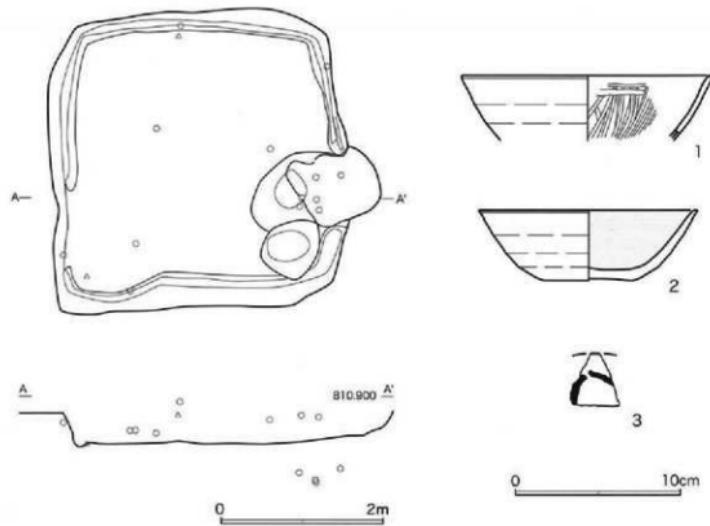
T-SB22 ピット土層説明
Pti 黒色土 粘性普通 糯まりやや強 炭化物少量含、ローム粒少量含、ロームブロック50mm大含

第81図 T-SB22 (S = 1/60)

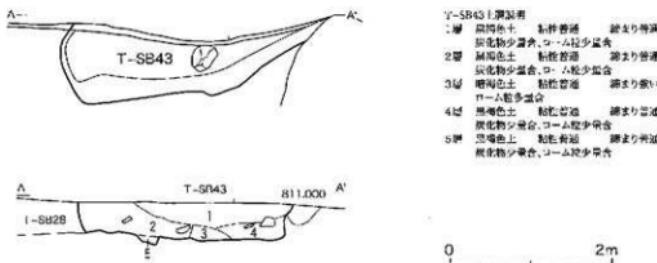


T-SB22カマド跡土層剖面図

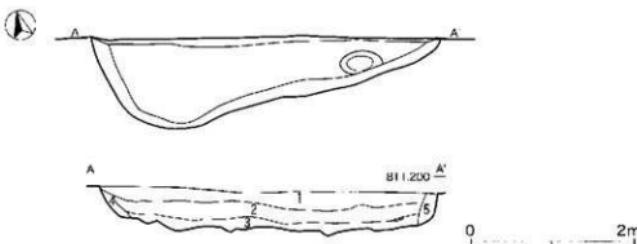
1層	黒褐色土	粘性や中粗い 細まりやや弱い	細まりやや弱い 粘性少混合	炭化物含、ローム含
2層	黒褐色土	粘性やや弱い 細まり普通	細まり普通	炭化物少混合、粘土含、ローム少混合
3層	暗褐色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少混合、粘土多混合
4層	赤褐色土	粘性普通	細まり弱い	炭化物少混合、粘土多混合
5層	黒褐色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少混合、粘土少混合、ローム脱少混合
6層	黒褐色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少混合、粘土少混合
7層	暗褐色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少混合、ローム脱少混合
8層	暗褐色土	粘性普通	細まり普通	炭化物少混合、ローム脱少混合



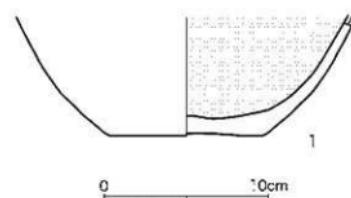
第82図 T-SB22カマド (S = 1/30) 遺物分布図 (S = 1/60)・出土遺物 (S = 1/3)



第83図 T-SB43 (S = 1/60)



第84図 T-SB46 (S = 1/60)



第85図 T地区遭構外出土遺物 (S = 1/3)

第1卷-1 吉代出土动物器皿文

第1表-2 古代出土遺物觀察表

第三表-3 古代出土遺物觀察表

第1表-4 古代出土植物觀察表

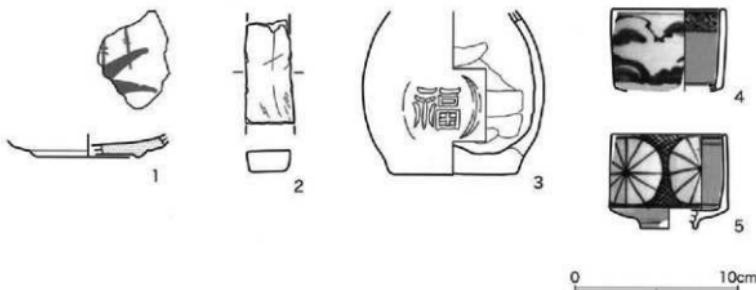
III 中近世の遺構と遺物

T-S E 01 F-5区に位置する。掘り込みの長軸2.3m、短軸2.1mを測る不整円形を呈す。深さは石組部分まで1.1m、坑底まで5.4m、石組部分の内径は66cmを呈す。

T-S K 24 F-5区に位置する。T-S K 29を切っている。長軸83cm、短軸65cm、深さは75cmを測る梢円形を呈す。主軸はN-108°-E。

T-S K 29 F-5・6区に位置する。長軸4.6m、短軸2.5m、深さは16~26cmを測る。T-S K 24に切られる。主軸はN-3°-E。北側が浅くなっている、長軸1.5mを測る長方形を呈す。北側中央部に2基、東側に4基の直径8cm程度の小ピットが検出された。南側が長軸3.1mを測る梢円形を呈し、やや深くなっている、その部分の北寄りの底面から礫が出土している。遺構の性格としては内馬屋が想定される。

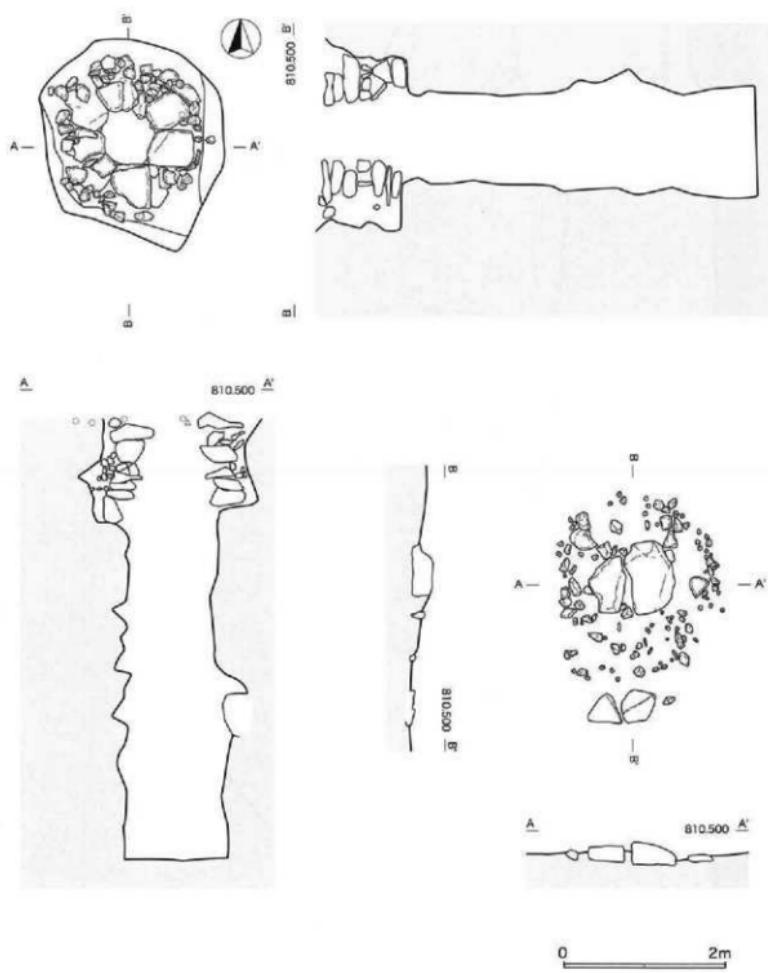
T-F・G-5区ピット群 F・G-5区に位置するT-S K 116~123・138~141・161~167・172・173によって構成され、約13m×10mの範囲に分布する。T-S E 01やT-S K 29を想定した内馬屋に関わる建物の存在を想定させるが、調査区の制約もあり、具体的な配列を把握するには至っていない。



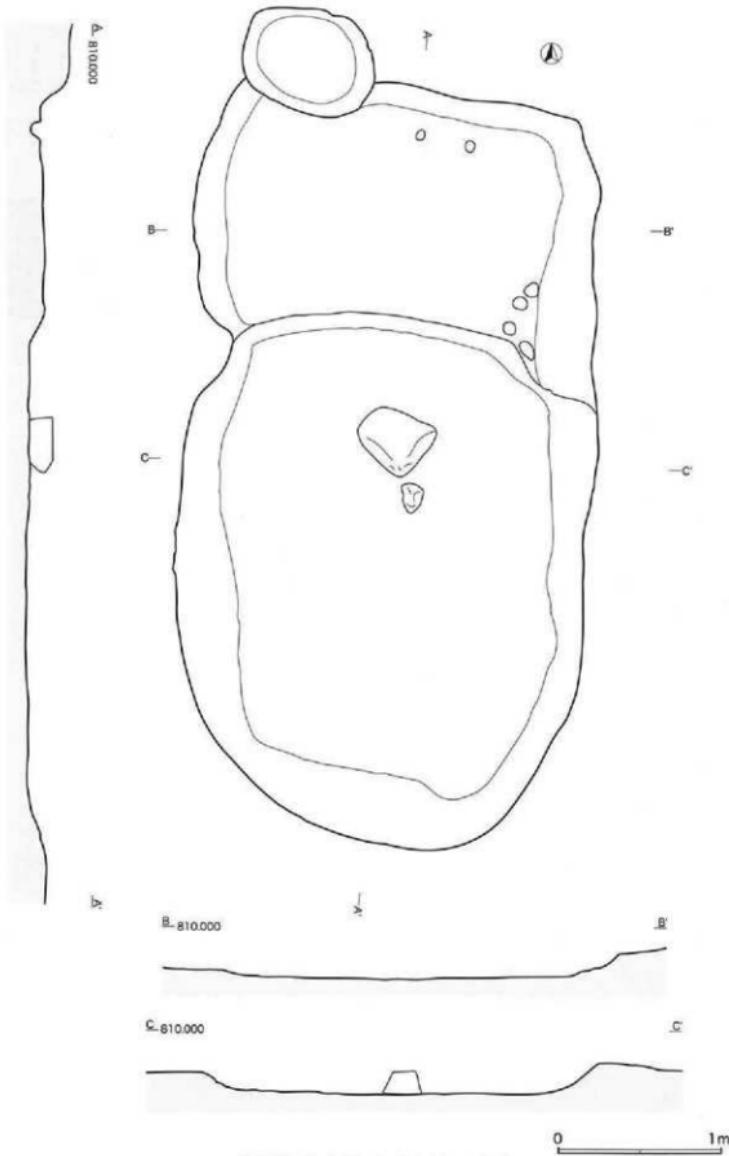
第86図 近世遺構外出土遺物 (S = 1/3)

第2表 中近世出土遺物観察表

出土地点	開発番号	記述	特徴	備考
M地区道横外	1	D.8G	陶器	盤
				火船 火鉢 湿戸美濃系
M地区道横外	2	C.4G	磁石	同様欠損 磁頭1面 それ以外の3面に切り出しの痕跡あり
S地区道横外	3	Z.9G	土器質	器種不明 外面土ガキ、赤彩か、強烈「面」、生地糞 手づくね
T地区道横外	4	34枚	磁器	青花焼
T地区道横外	5	E.5G	磁器	青花焼



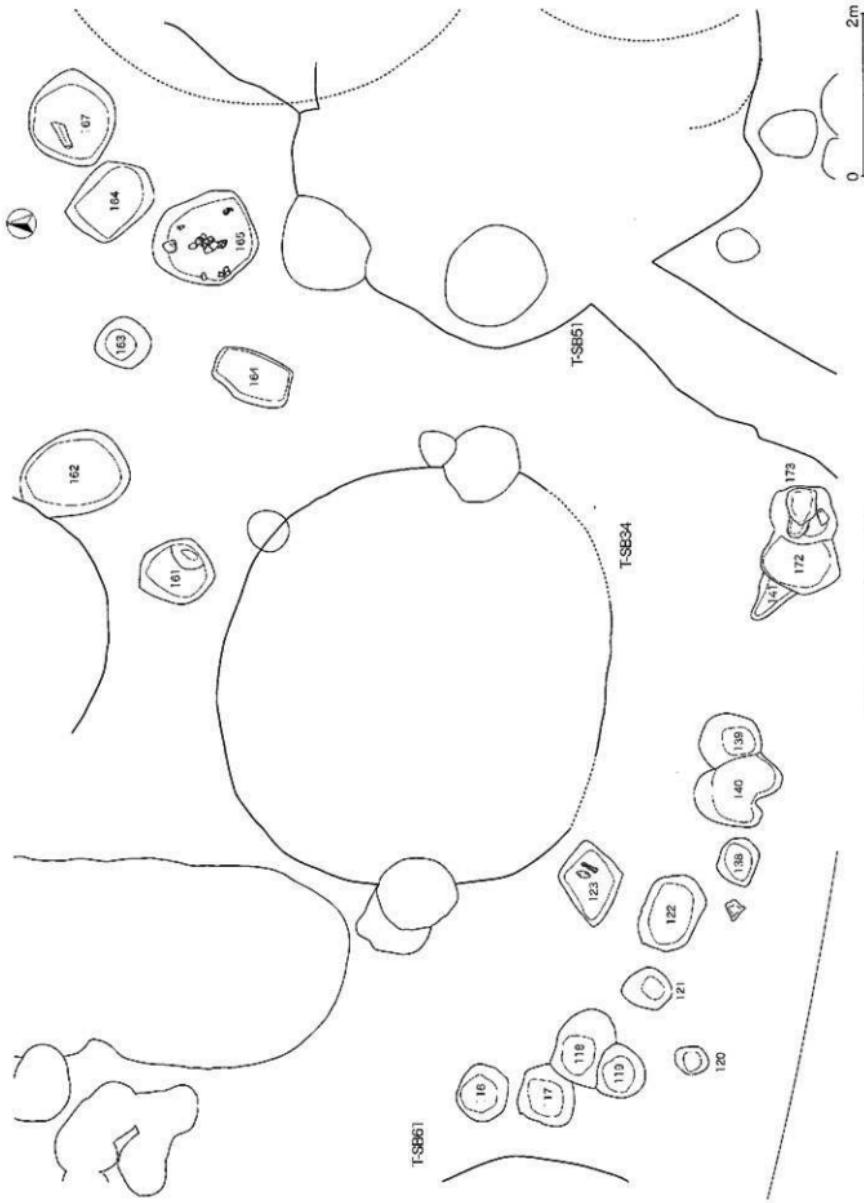
第87圖 T-SE01 ($S = 1/60$)



第88図 T-SK 24・29 (S = 1/30)

2m

第89図 ピット群 (S = 1/60)



IV 結語

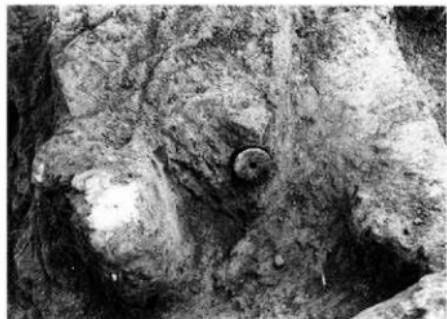
本報告に係る寺所第2遺跡第1地点の平安時代の遺構は剥削区全面に散漫に分布し、住居跡は38軒確認され、うち37軒を調査している。住居跡以外には前田地区で1間×2間の壇立柱建物跡（M-ST01）、2間×2間の總柱の壇立柱建物跡（M-ST02）が検出されている。これらの建物は規模的には小さいながら前者は二重の掘方を有し、後者も一部に二重の掘方が観察されるほか、柱痕、柱の根固めが良好に観察されるなど、その権威、格式の高さが窺われる。残念ながら出土遺物がなく、時期や機能は明らかにできなかつたが、この集落を考える上で重要な要素となろう。

また、住居跡の中には大型のもの（M-SB03、09、17、S-SB25、26、T-SB04）が一部で近接するものの、ほぼ一定間隔で見られ、前田地区北端から約30m北側の第7地点でも大型の住居跡が検出されている（未報告）。また、この中で、M-SB03、S-SB25、T-SB04はわずかな時間差を持ちながら、同じ南入りという上層構造を共有している可能性があり、注目される。

遺物では全般的に見て墨書き器の出土が多いものの、本遺跡の南200mほどに所在する寺所遺跡では「修」もしくは「福」と書かれた大量の土器が出土したのとは異なる様相が見られる。また、寺所遺跡では「政所」の墨書きが見られ、当遺跡では「政所」の刻書（包含層出土）が見られる点も遺跡の性格を考える上で注目される他、T-SB14のものとほぼ筆跡が一致する「倉」と書かれた墨書き器が約100m離れた第7地点から出土している。これらの状況は集落のあり方を考える上で重要な要素となる。

出土遺物の構成を寺所遺跡と比べると須恵器の出土が多く灰釉陶器の出土は少ない傾向にある。これら以外では武藏型壺（T-SB14）や、不明石製品がM-SB03から出土したほか、M-SB04からは鍾、M-SB05からは石製の丸瓶、S-SB25からは転用鉗が出土している。

中・近世においては寺所地区南半に石組み井戸（T-SE01）、馬屋状遺構（T-SK29）の他、小ビット群が見られる。調査区南側に土塁を伴う方形区画の寺所界跡があり、この宅内には中世のものと考えられる石組み井戸、埴下式坑があり、これら寺所界跡に関わった土豪層に関連した有力者に関わる遺構と想定しておきたい。



M-SB03_1



M-SB03_2



M-SB03_3



M-SB04_1



M-SB04_2



M-SB04_3



M-SB04_4



M-SB04_5

図版 2



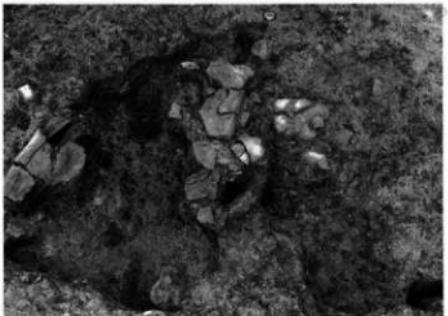
M-SB04_6



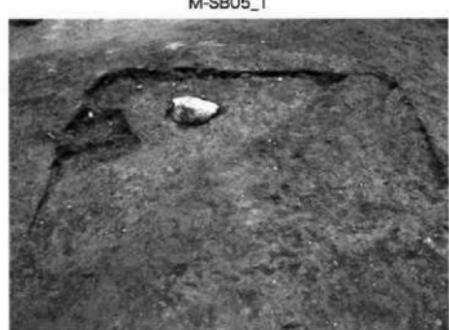
M-SB04_7



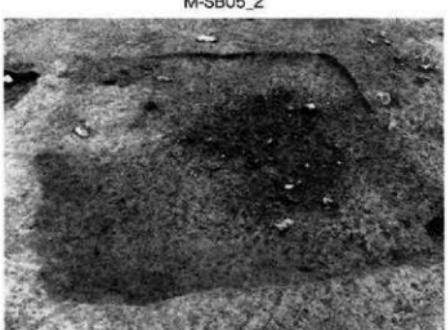
M-SB05_1



M-SB05_2



M-SB05_3



M-SB07_1



M-SB07_2



M-SB07_3



M-SB08_1



M-SB08_2



M-SB08_3



M-SB08_4



M-SB08_5



M-SB08_6



M-SB10_1



M-SB10_2

图版4



M-SB10_3



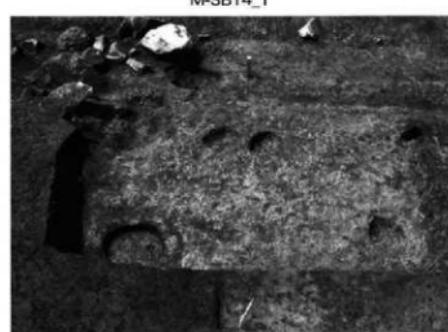
M-SB10_4



M-SB14_1



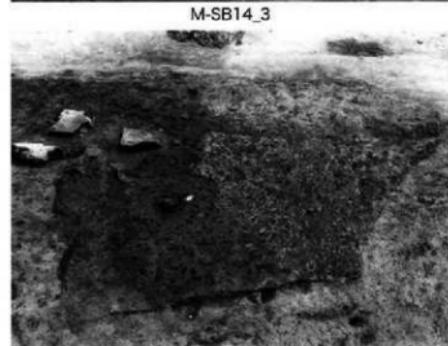
M-SB14_2



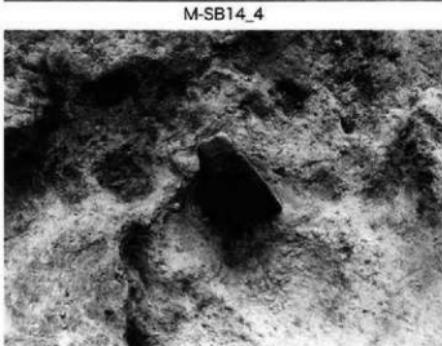
M-SB14_3



M-SB14_4



M-SB15_1



M-SB15_2



M-SB16_1



M-SB16_2



M-SB17_1



M-SB17_2



M-SB17_3



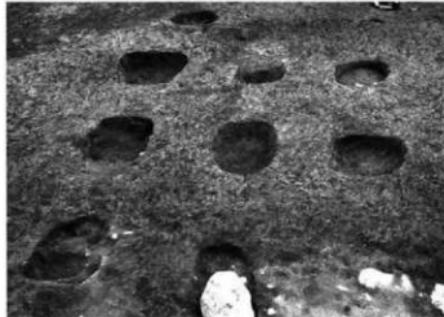
M-SB17・18 近景



M-ST01



M-ST02_1



M-ST02_2



M 地区 トレンチ近景



M 地区近景_1



M 地区近景_2



M 地区近景_3



M 地区近景_4



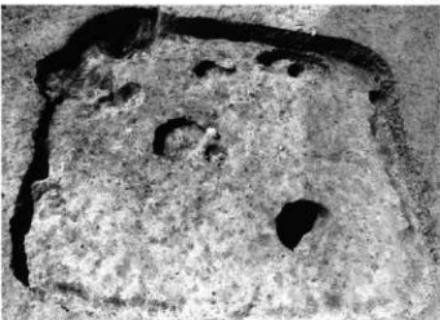
M 地区近景_5



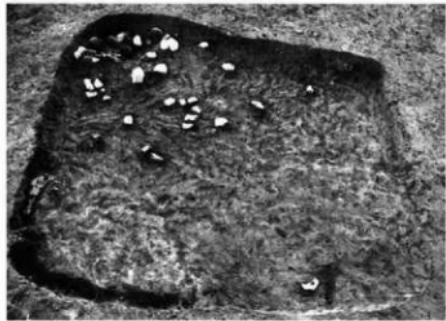
M 地区近景_6



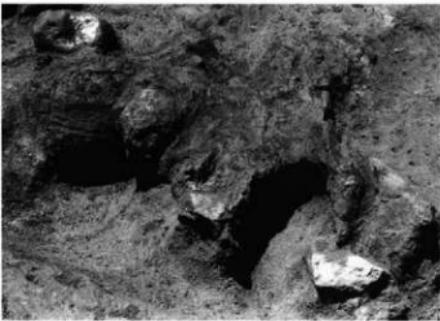
M 地区近景_7



S-SB03_1



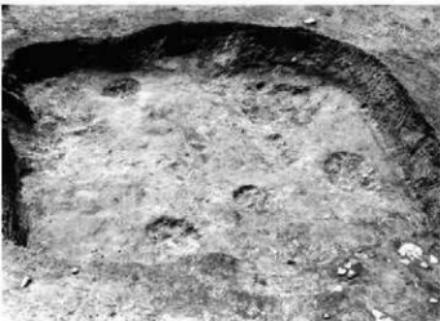
S-SB03_2



S-SB03_3



S-SB03 カマド



S-SB04_1



S-SB04_2



S-SB04_3

図版 8



S-SB04_4



S-SB05_1



S-SB05_2



S-SB05_3



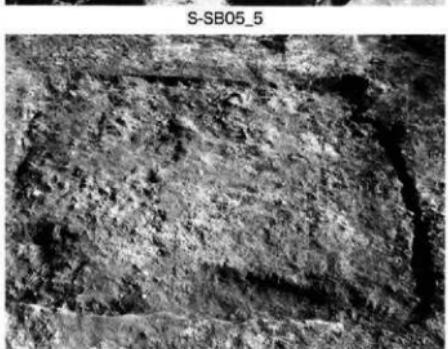
S-SB05_4



S-SB05_5



S-SB05_6



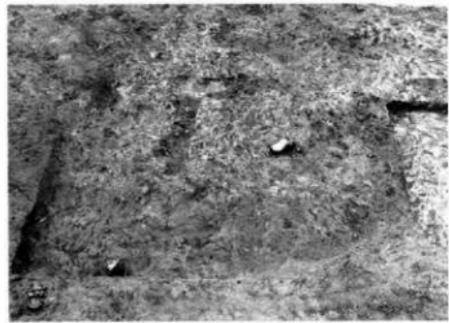
S-SB09



S-SB10



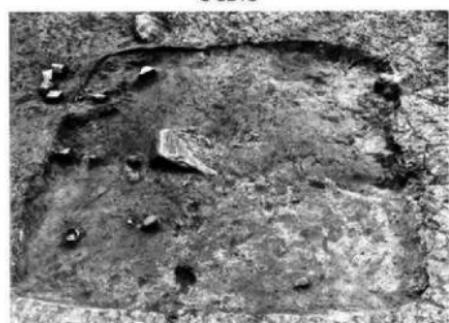
S-SB12



S-SB13



S-SB16_1



S-SB16_2



S-SB17



S-SB19_1



S-SB19_2

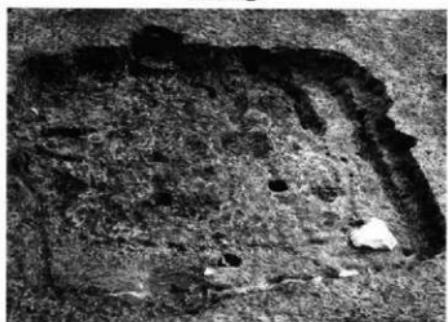
图版 10



S-SB19_3



S-SB23



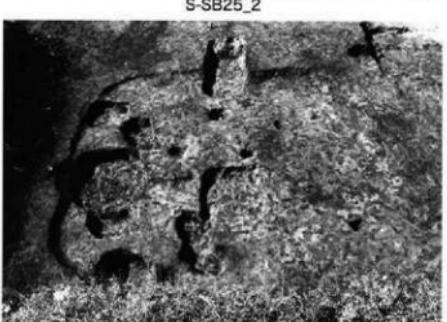
S-SB25_1



S-SB25_2



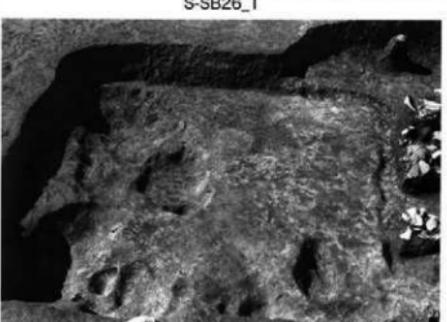
S-SB25_3



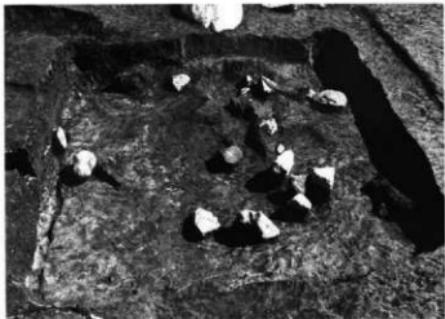
S-SB26_1



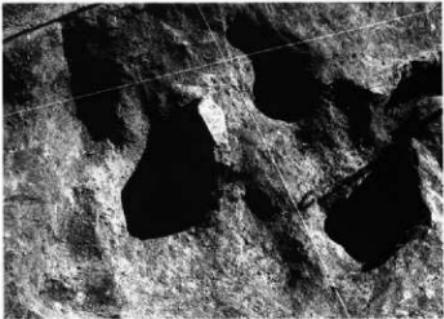
S-SB26_2



S-SB32_1



S-SB32_2



S-SB32_3



S-SB37



S地区近景_1



S地区近景_2



S地区近景_3



S地区近景_4



S地区近景_5



S 地区近景_6



S 地区近景_7



S 地区近景_8



S 地区近景_9



S 地区近景_10



S 地区近景_11



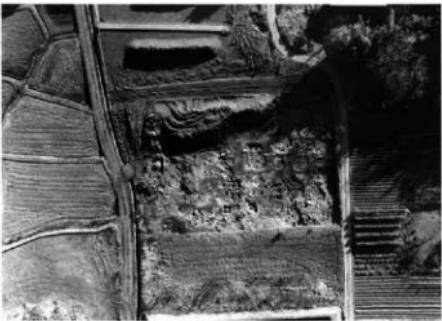
S 地区近景_12



S 地区近景_13



S 地区近景_14



S 地区空撮



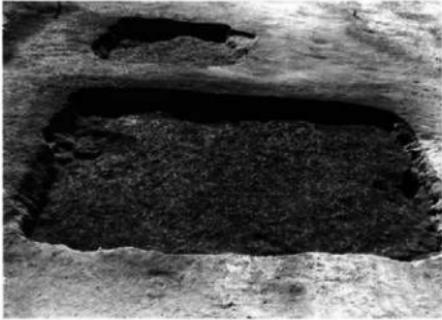
S 地区作業風景_1



S 地区作業風景_2



T-SB01 確認



T-SB02 全景



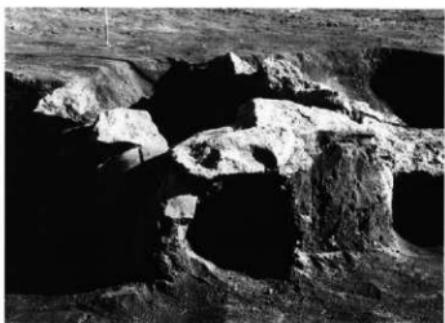
T-SB02 遺物出土状況



T-SB03 カマド



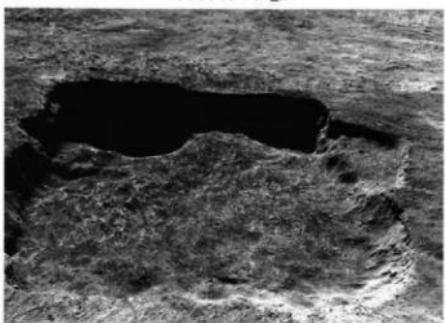
T-SB03 カマド_1



T-SB03 カマド_2



T-SB03 カマド_3



T-SB03 全景



T-SB03 遺物出土状況



T-SB04 カマド_1



T-SB04 カマド_2



T-SB04 全景



T-SB04 遺物出土状況



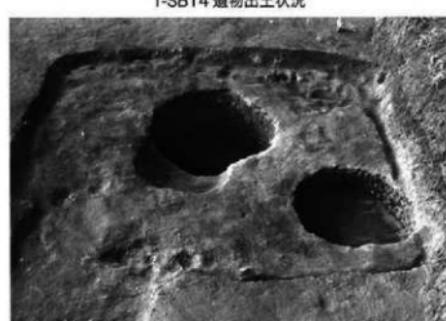
T-SB14 全景



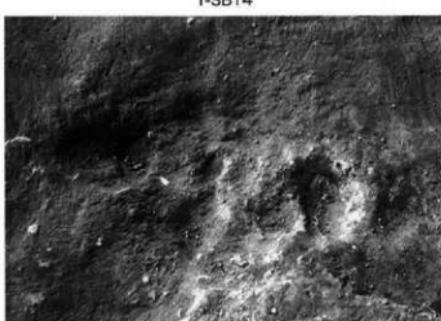
T-SB14 遺物出土状況



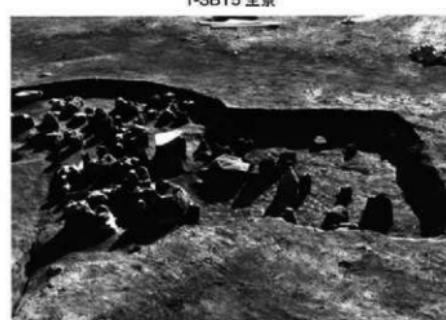
T-SB14



T-SB15 全景



T-SB15



T-SB22 · 23



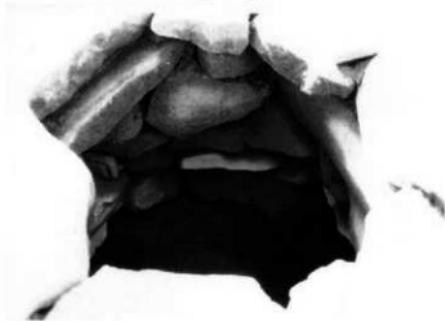
T-SB46



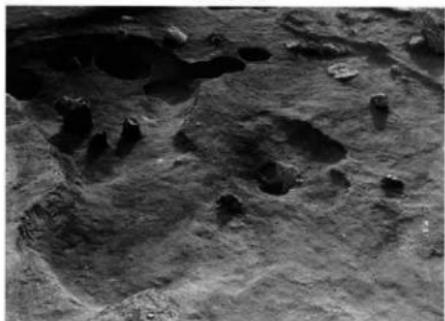
T_SE01_1



T_SE01_2



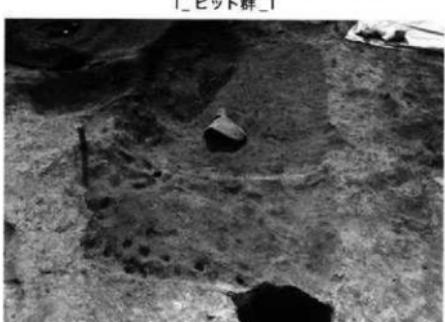
T_SE01_3



T_ピット群_1



T_ピット群_2



T_SK24・SK29



T 地区遠景



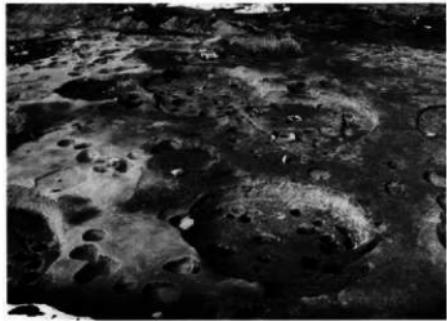
T 地区近景_1



T 地区近景_2



T 地区近景_3



T 地区近景_4



T 地区近景_5



T 地区近景_6



T 地区近景_7



T 地区近景_8



T 地区近景_9



T 地区近景_10



T 地区近景_11



T 地区近景_12



T 地区近景_13



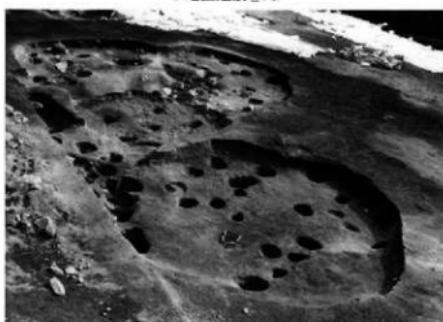
T 地区近景_14



T 地区近景_15



T 地区近景_16



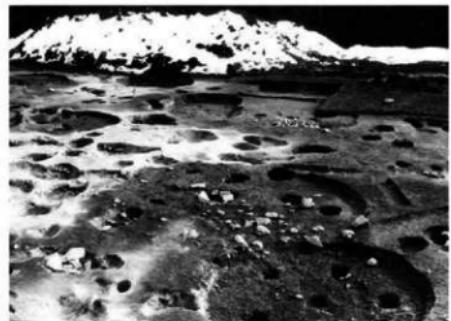
T 地区近景_17



T 地区近景_18



T 地区近景_19



T 地区近景_20



T 地区近景_21



T 地区近景_22



T 地区近景_23



T 地区近景_24



T 地区近景_25

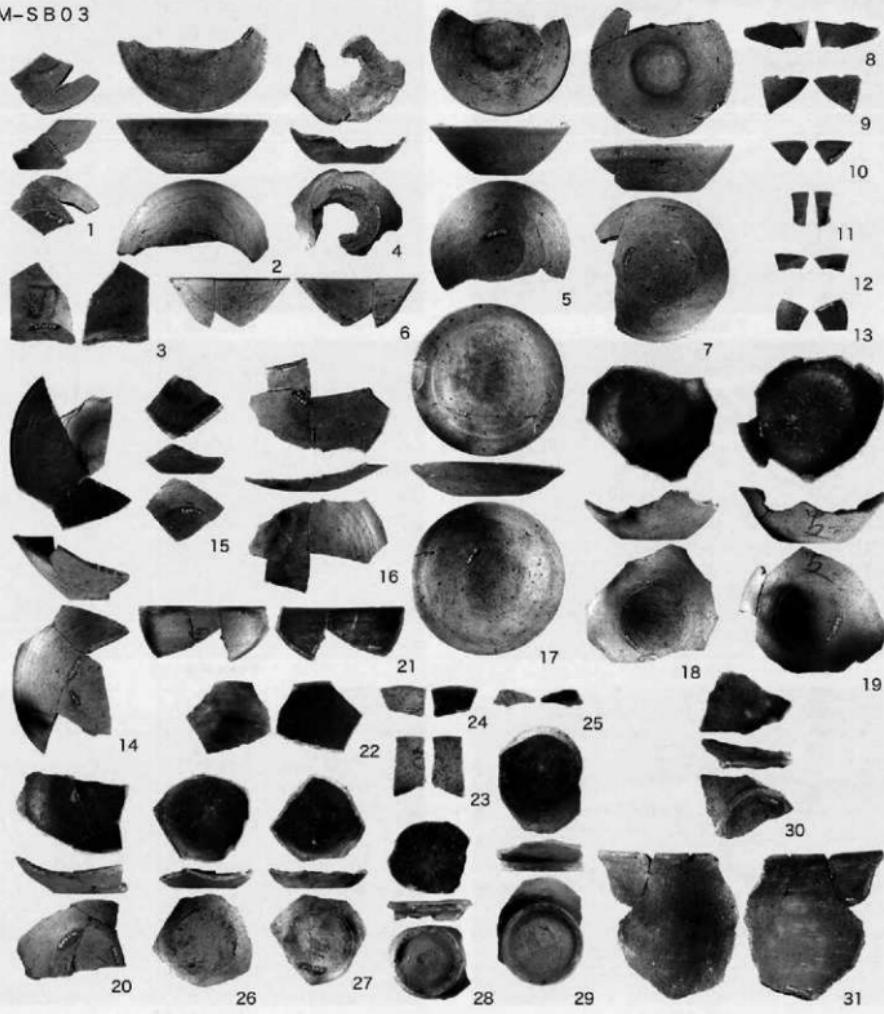


T 地区作業風景_1



T 地区作業風景_2

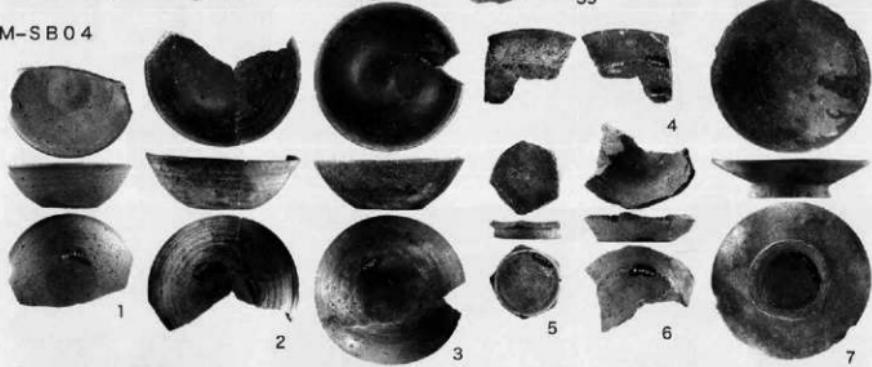
M-SB03



M-SB 03



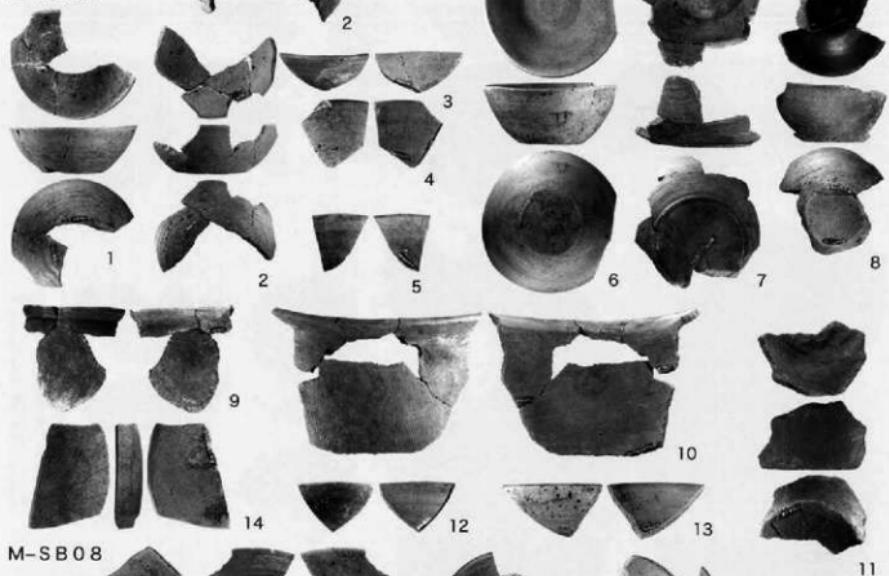
M-SB 04



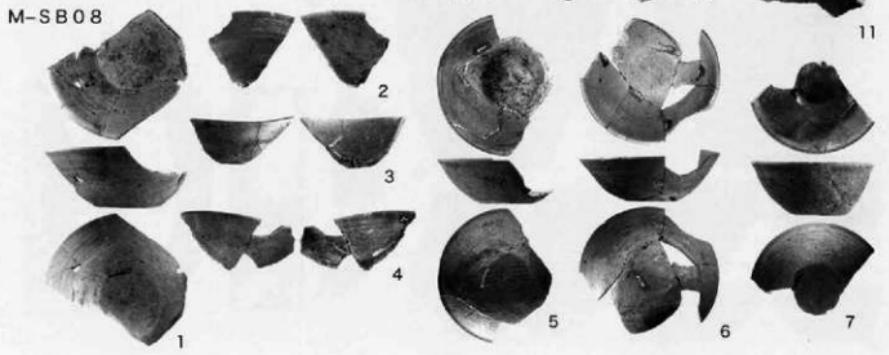
M-SB 05



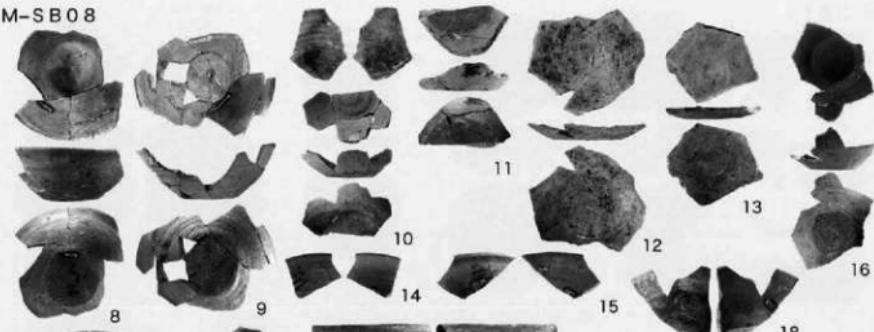
M-SB 07



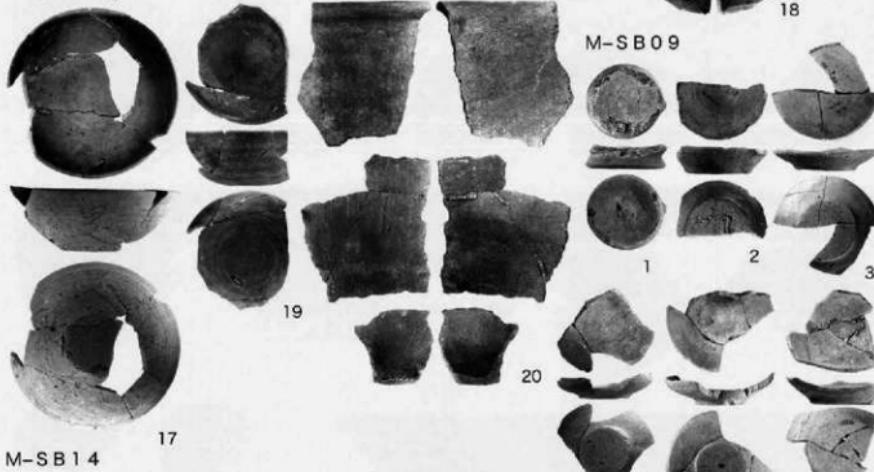
M-SB 08



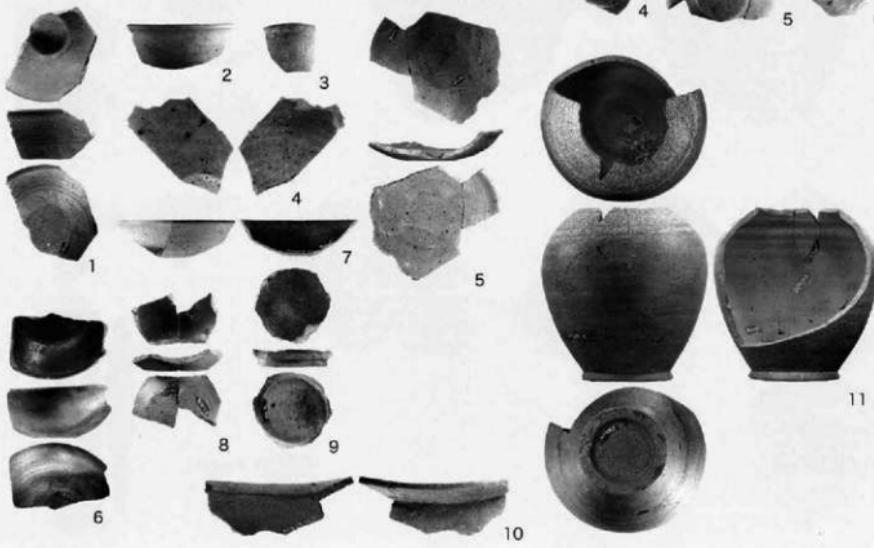
M-SB08



M-SB09

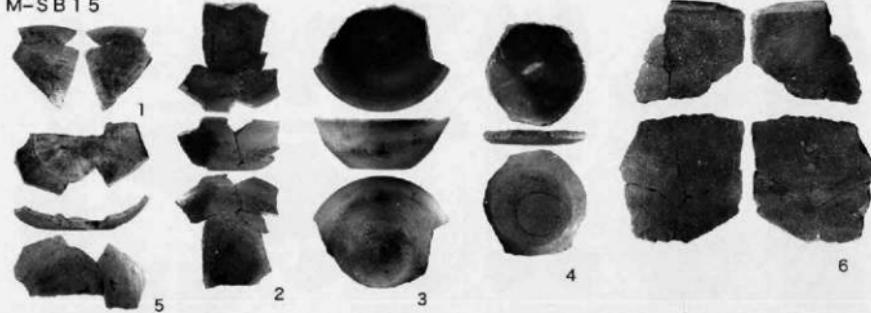


M-SB14

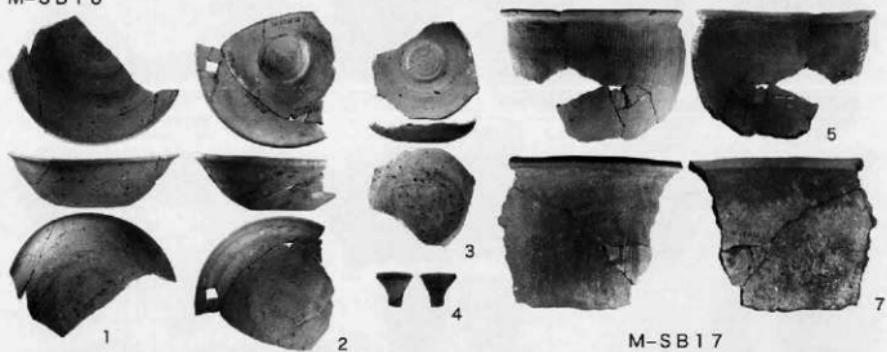


図版 24

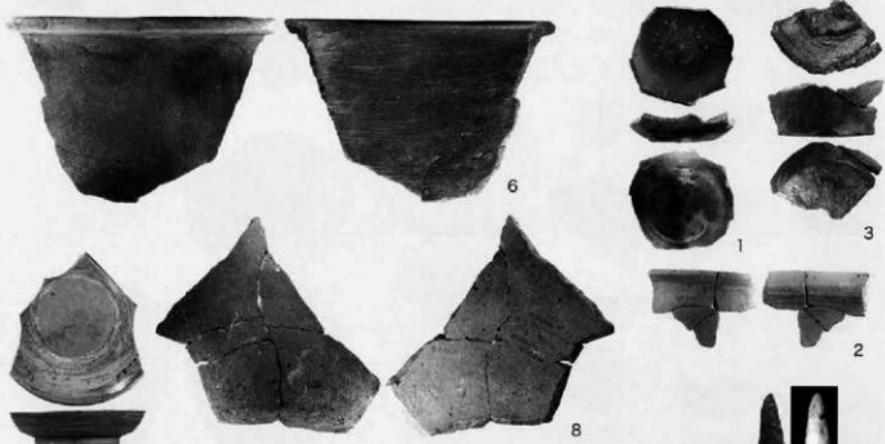
M-SB 15



M-SB 16



M-SB 17



M-SB 18



S-SB03



1

S-SB04



1



2



5



4



6



7



3



11



12



8



9



10



11



13



15



14

16



17



18



S-SB04



19



S-SB05



1

2

3

20

21

7



4

5

6

9



10

11

8

10

12

S-SB09

S-SB10

S-SB12



1

1

2

3

2

3

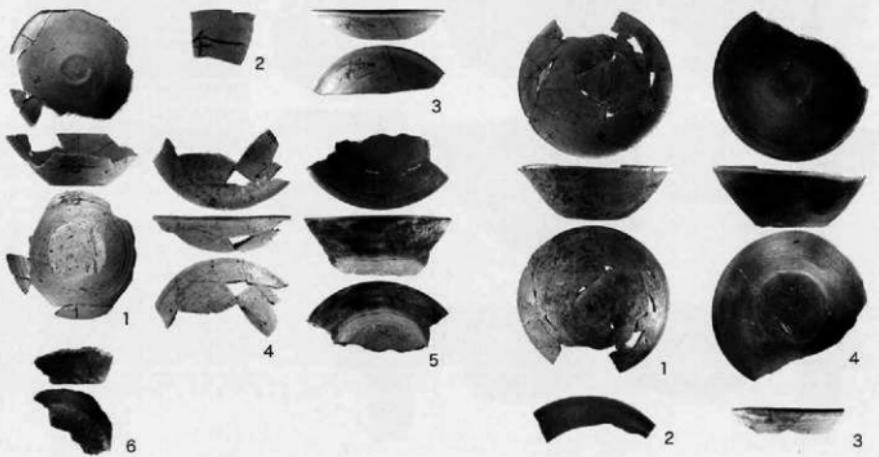
1

2

3

S-SB13

S-SB16



2

3

1

2

4

1

2

5

4

5

6

7

8

1

4

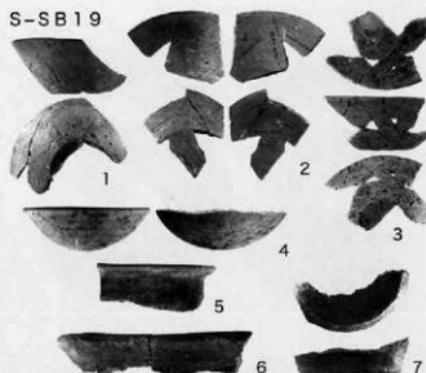
2

3

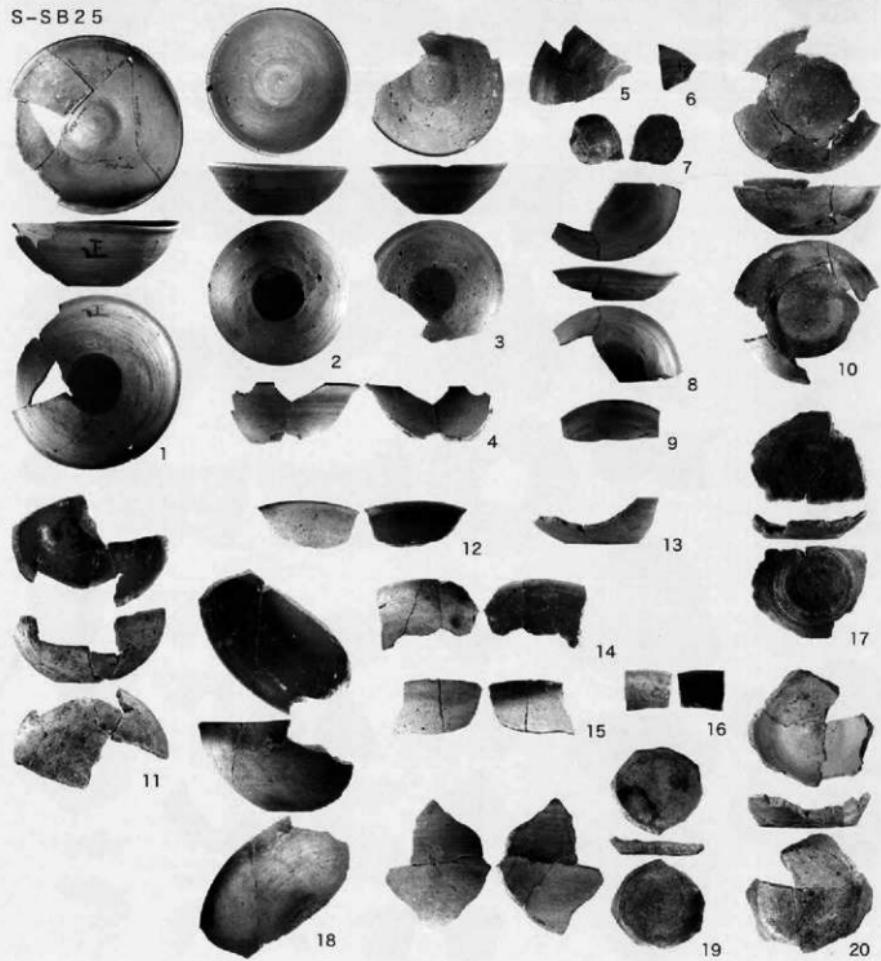
S-SB17



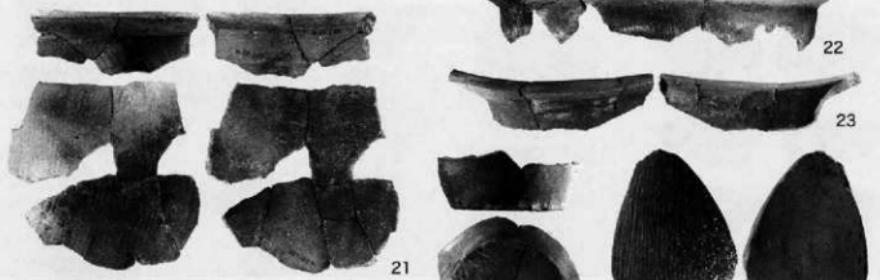
S-SB19



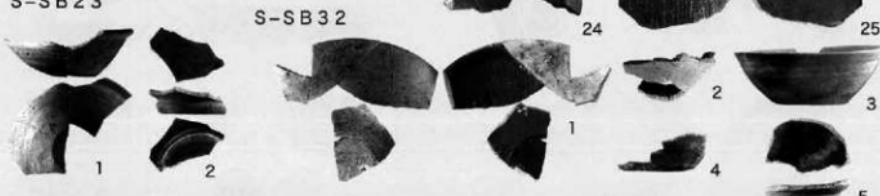
S-SB25



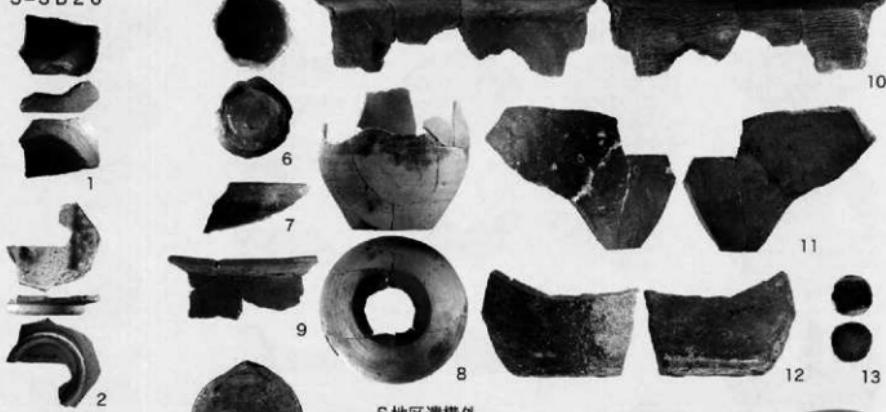
S-SB 25



S-SB 23



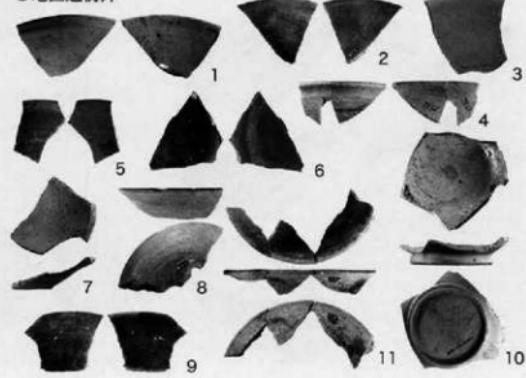
S-SB 26



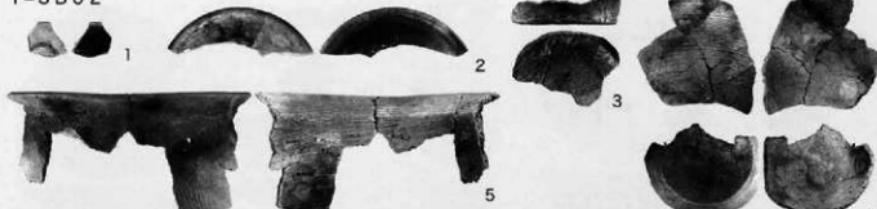
S-SB 37



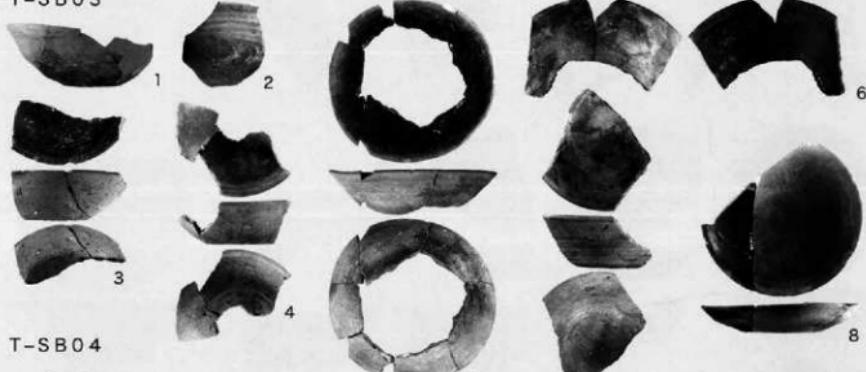
S 地区遺構外



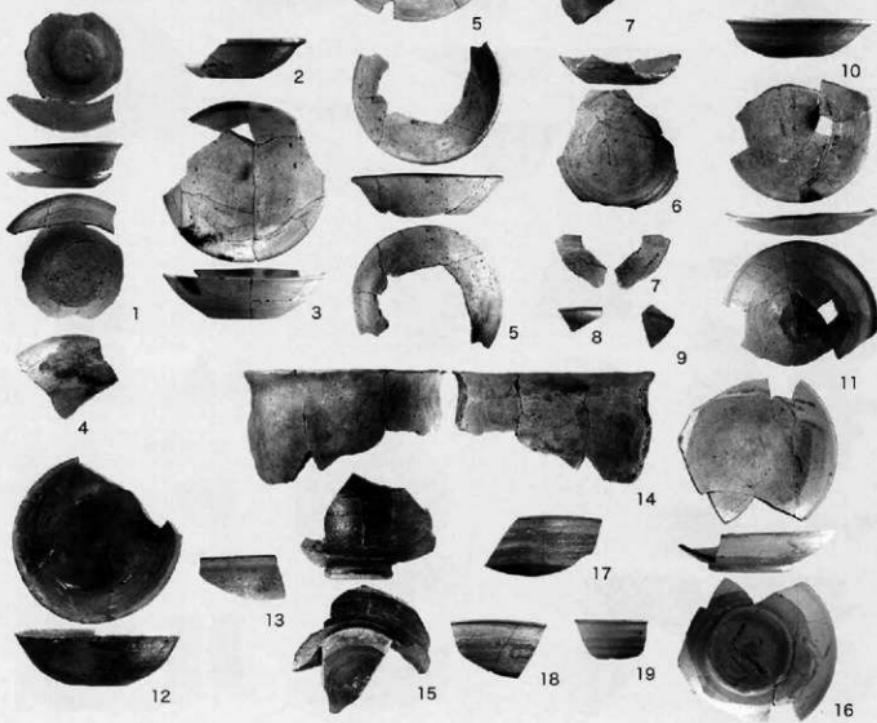
T-SB02



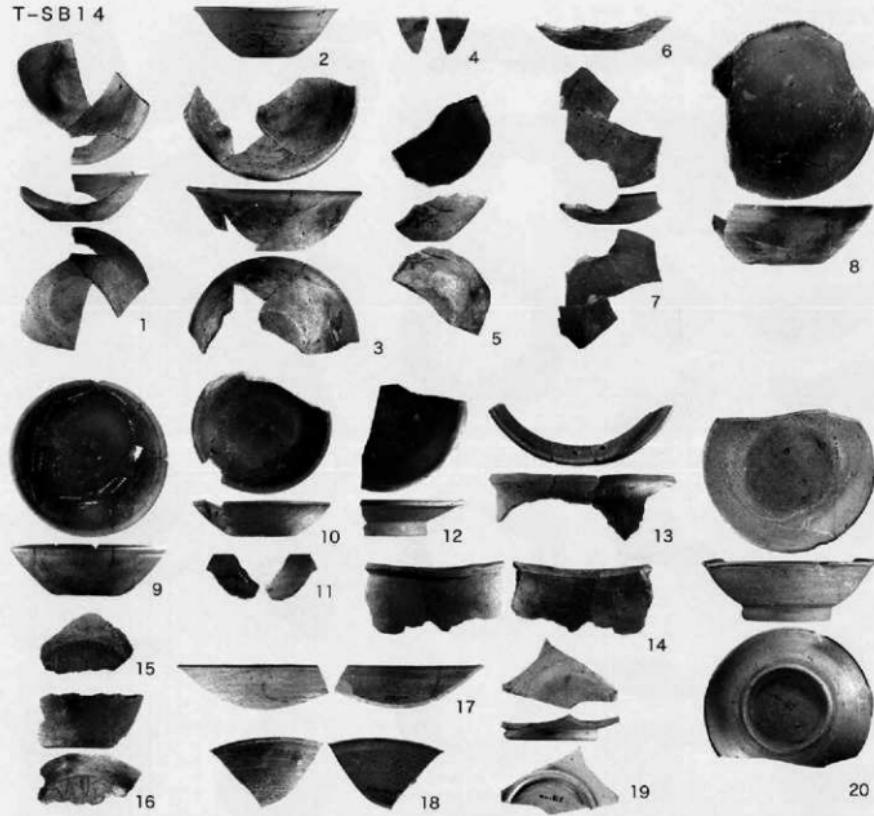
T-SB03



T-SB04



T-SB 14



T-SB 15



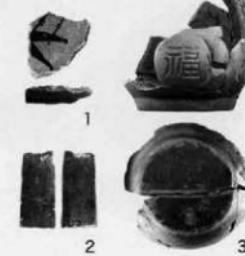
T地区遗物外



T-SB 22



近世遗物外



報告書抄録

ふりがな	てらどこだい 2いせきこだい・ちゅうきんせいへん			
書名	寺所第2遺跡II（古代・中近世編）			
副題				
巻次				
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告			
シリーズ番号	28			
編著者名	廣瀬公明			
編集機関	北杜市教育委員会			
所在地	〒408-0115 山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1			
発行年月日	平成20年3月31日			
所取遺跡名	寺所第2遺跡			
概要	所在地	山梨県北杜市大泉町西井出 215他		
	コード	市町村	192091	遺跡番号 5042
	位置	北緯35°51'10" 東経138°23'23"（世界測地系による）		
	調査面積・期間	8,652 m ² 平成7年4月25日～平成8年3月5日		
	調査原因	山梨県営圃場整備事業 大泉地区西井出下第8工区施工		
	主な時代	平安時代・中近世		
	主な遺構	住居跡・掘立柱建物跡・石組井戸		
	主な遺物	平安時代土師器・須恵器・灰釉陶器		
	特記事項	平安時代集落		

北杜市埋蔵文化財調査報告 第28集

寺所第2遺跡II（古代・中近世編）

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年3月25日 印刷

平成20年3月31日 発行

発行 北杜市教育委員会

山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1

TEL(0551)42-1373

印刷 鬼灯書籍株式会社

長野県長野市柳原 2133-5

TEL(026)244-0235

